



伊藤音次郎日記

1917(大正6)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成30)年6月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。

一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼表紙2▲▼

信太郎初節句	坐敷ノボリ大一組
須原知忠	
河村はる	人形桃太郎
河村包亮	全 楠正成
高折エイ	三間ノコヒ
白戸	五間ト五尺ノコヒ
大口	人形二組 ショーキトコヒ立
お母サン	人形(金式円)陣立
上總屋母	コヒ付フキ流シト千成二組
大藪	人形金太郎
井上藤原	カケジ一本
寒川肴屋	

▲▼表紙2の続き▲▼

大正六年

▲▼1ページ▲▼ 一月

本年度ハ借金ヲ返済シ多少貯ヘ生ジタル上ハ事業ノ整理ヲナシ確實ナル基礎ヲ作り後
チ再ビ大事業ニ着手スルコト
自動安定飛行機ノ研究
發動機ノ根本改良

▲▼2ページ▲▼ 大正6(1917)年1月1日(月)

天気 晴

日本晴 風又ナク元旦日和リ ○時床ニ入ル 静カナル越年 濱近ク鴨ノ声一声二声。
一句アリ
年越しや まくらべ近く かももの声
七時過ぎ起床 洗面 四方拝後浅間神社ニ参拝 一同打ソロヒテ祝ヲナシ三人ハ鴨ヲ
取ルトテ舟ヲ出シタ

大工年始ニ來ル 一杯ノマセル
昨夜カラノシダノデ又目ガ痛ミ出シタ。ドーシテモ一度醫師ニ見テ貰フ必要アリ
信太郎二三日前ヨリ風引イタラシ 今日ハ風呂ヲヤメサセル
午後カラ夜ニカケ花ヲ引ク
古イ日記ヲ讀ンダ

▲▼3ページ▲▼ 大正6(1917)年1月2日(火)

天気 雪

夜中ハ大変ナ雨デアッタ 朝静カニナッタト思ツテ起キルト雪ガ降テ居タ。佐野ヲ白戸へ
使ニヤッタ

午前中仕事始メニ製圖ヲナシ、來状ヲシラベ追加年賀状
十二時二十分ニテ成田ニ参拜ス 千葉ヨリ白戸同行 コレデ昨冬來ノ借金ヲ返シタ様
ナ氣ガシタ。汽車ハ雪ニモヤハリ込ンダ 車中玄耳ノ鈍語ヲ讀ム 一節金言トシテ感ジ
タノハ百藝皆一道ト云フクダリ。星野先生ノ言デアッタ。デ早速帰余(ママ)車中デ其
語ニ從ツテ宙返リ飛行ニツヒテ工夫シタ結果アラユル宙返リノ方法ヲ圖デ研究シ後チ
模型ニテナシ確心(ママ)ヲ得テヤルコトデアッタ 又宙返リハ機ハ如何ナル場合ニモ機首
ヲ下ニ垂直ニスル事ヲ工夫シサエスレバヨイノデアル 其方法トシテ前記ニ法ヲヤルノデ
アル。

帰宅後入浴 大口ヲヨビニヤリ五人夕食ヲナス 大口ノ追分浪花節出ズ。今日ハ大口ハ
六發ノ玉デ百羽ノ雀ヲ取ツタソダ 十羽バカリフライニシテ呉レタ ウマカッタ

▲▼4ページ▲▼ 大正6(1917)年1月3日(水)

天気 晴

風強シ 今日ハ來客デーデアッタ
劍號ノ助手ト高橋君ガ來タ 高橋トハ塗料デ成功シタ人間ダソダ。白戸來ル。午後
梅田ト同練習生來ル。夜タンバツク屋來ル 白戸九時過ぎ帰ル
タンバツクノヒドイ出來ニ驚イタ

明日タンバツクノ試験ヲシテ白戸へ行クコトニシタ
今朝床ノ中デ宙返リニツイテ考ヘタ

▲▼5ページ▲▼ 大正6(1917)年1月4日(木)

天気 晴

今日モ風ガ明ケ方カラ出タ 午後ハ余程静カニナッタ

新聞、日記、阿部ヨリモータート發動機協会ノ新聞ヲ送ツテ來タ。一寸讀ム

晝食後白戸ヘ行ク。武須氏ノ息子ニ會ツタ 余ガ行クト間モナク帰ツタ。後チ峯岸ノ事ニツキ例ノ二人ガ來テ居タ 余ハ買物ニ大橋□道行キ帰宅スルトマダ居タ 共ニ夕食ヲ馳走ニナリ彼レ等ハ六時デ帰京シタ 余ハ八時頃迄例ニヨツテ將來ノ方針ナド議シテ金三十円借ツテ帰ツタ

大坂ノ兄ヘ金ノ請求書ヲヤッタ

今朝森本ト云フ青年ガ來タ 見學ナラト云フコトニナツタガ両親ノ承認書ト履歷書ヲ送ル様ニ云ツテ居ク

▲▼6ページ▲▼ 大正6(1917)年1月5日(金)

天気 晴

今日ハ大分天気モ静カニナツタ 日記ト手紙後發動機ヲ一度廻シテ見タ 五分間別ニ違(ママ)状ハナカッタ

イヨヽ仕事ヲ初メル 柱ヲケヅリ圖板ノ板ヲケヅリ仕事台ヲ作り機体後部ノ金物ニ着手ス 午後自分ハタンバクヲ調べ初メタガ好イノヨリ悪イ方ガ多イノニハコマッタノミナラズ手間ニアキレタ

お母サ東京ヘ年始ニ行ク。夜床ノ中ニテ古イ飛行界ヲ引出シテ讀ム

今夜ハイ、月デアッタノデ裏ノ小丘ニ登リ汐干タル海面ヲ見テ月夜ニ於ケル夜間飛行ノ着陸ニツヒテ考ヘタガ別ニ困難ナコトハナカロト思ツタ

▲▼7ページ▲▼ 大正6(1917)年1月6日(土)

天気 晴

風ナク静ナ日デアッタ 大分今日ハ飛ビタイ日デアッタ 幸ヒ月夜ダシ初飛行ニ民間ノレコードヲ作ルベク夜間飛行ヲヤルコトニシタ

今日ハ現圖板モ出來機体ノ製圖ニカヽッタ
機体後部ノ金物八分通り出來タ

夕方ヤマトノ赤岩君來 後チ一列車遅レテ話シノアッタ井上君トヤマトノ石田君ガ來タ。食量(ママ)其他井上持チ、スグ練習不能ト云フコトヲ條件ニシテヨケレバ來テ呉レト云フコトニシタ

八時半頃汐モ引イタノデ引出シタ 隔(ママ)陸ハ何ントモナカッタガ上ガツテカラノ高サガヨクワカラナカッタ。火ハニヶ所ニ焰エ初メタ 一廻リシテスグ着陸シテ見タガマダト思フ内ニ地ニツイタ ソレガラ一度ジャンプシテ見タ。三度目ニタキ火ノ上ヲ通テ上昇シタ 一週(ママ)シテ着陸 コンドハ火ヲ目標ニシテウマク行ツタ 滑走シテ降りコレニテ先ヅ無事夜間飛行ヲ終ツタ 海氣館ノ女中男衆、黒砂カラ大工ガ來テお目出度ト云ツ

テ呉レタ

三人ハ終例(ママ)車ニ乗りオクレテ車デ幕張迄行ツタ。今度モ一一度月夜ニヤツテツギニ
星明リニヤリ最後ニ眞ノヤミ夜ニヤルコトニシタ。電燈ガホシイ

▲▼8ページ▲▼ 大正6(1917)年1月7日(日)

天気 晴

今日モ非常ナ好晴デアッタ 夕方カラソロ、風ガ出テ來タ

今日ハ終日機体前ノ金物ノ製圖ヲ圖板ノ上デアッタノデ腰ガ冷エ込ンデ七時頃床ニツ
イタ

大工一人

機体ニグベキ樫注文 大口ニヤル 六円余トハ余リ高イニ驚イタ

▲▼9ページ▲▼ 大正6(1917)年1月8日(月)

天気 晴

午前二時前目ヲ醒ストヒドイ風ガ吹イテ居タ 氣ニナツタノデ格納庫ヲ見ニ行ツタ 別
ニナントモナカッタ 一度床ニ入ツタガ又上汐ガ氣ニナツタノデ格納庫ニ行キ皆ヲ起シ下
ノ格納庫ヲソレ、、出來ルダケナシ上ノ格納庫モ戸ヲハヅレナイ様カイモノヲシタ 床ニ
入ツテモ又氣ニナルノデ四度バカリ起キタ

風ハ夕方漸クナイダ 梅田君ノ格納庫ハ夜ノ間ニ飛ンデシマッタ お蔭デ一時電氣モ消
エタ

今日ハ仕事モ出來ナカッタ 宙返リノ研究ヲシタ

夜井上東京ヨリ帰り萬朝ヲ出ス 岸博士ト僕ノコトガアッタ 僕ガ宙返リ準備中ダト
タレカ話スノカ実ニ困ツタコトダ

夕方井上長一來ル 枕時計トセーターヲ土産ニ貰フ 上總屋ニ泊ル

▲▼10ページ▲▼ 大正6(1917)年1月9日(火)

天気 晴

風静カニナル。仕事ヲ初メタ處へ矢野君來 海軍ノ利川君稲垣君同道 イヅレモ發動
機ニ熱心ナ青年バカリデアル。ソシテ口振りニヨルト吾人飛行家ノ上ニ起(ママ)然タル意
氣ヲ持ツテ居ル様ダ。目下自動車ヲ作りツ、ナル由。其金ノ出處ヲ不思議ニ思ツタガド
ーヤラ利根君カララシイ様ニ思ワレタ

晝前ニ回飛ブ 後チノ一回ハ山縣同乗。晝食ヲ共ニス

間々木來ル 夕方白戸ニ行ク

お母サンマダ帰ラズ
信太郎違(ママ)状ナシ

▲▼11ページ▲▼ 大正6(1917)年1月10日(水)

天気 晴

風ナク静カナ日デアッタ
山縣練習セシム 滑走四回 ジャンプ二三回 直線飛行二回。後チ余千葉ニ行ク 町上ニアニ百米突 帰リテ丁度五百米突 空中滑走ニテS字形ニ着陸
後チ白戸ノ宅ニ行ク 夕方帰ル
夜早く床ニ入ル
佐渡島、竹島發信。報知ノ國分君ニ僕ガ宙返リニツキ新聞ニ書立テル事ニツキ抗議ヲ申込ンダ

▲▼12ページ▲▼ 大正6(1917)年1月11日(木)

天気 晴

六時半起床 浅間神社参拝
今日ハ機体ト後メンスパーヲハグ。ウルシデ手が眞黒ニナッタ
白戸君來 自分ノ機ヲ試験(ママ)轉シテ帰ル 僕ノ機デ宮野ニ同乗セシメルツモリナリシ筈ナリシモ風強ク中止ス
兄ニ金ノ件ニツキ打電ス 夜十時頃返電アリ 五〇〇エン十五日迄ニ送ル由 先ヅ安心シタ
昨日お母サンノ帰リノ遅イノデ心配デソレトナク神田へ手紙ヲ出シタラ今夜電報デアス 九時ニタツ車五台タノムト云ツテ來タ
床ノ中ニテ日記
信太郎泣イテ何事モ出來ズイヤニナツテシモウ

▲▼13ページ▲▼ 大正6(1917)年1月12日(金)

天気 曇リ

今日ハお客ガアルノデ家ヲ掃除サセタ
浅間神社参拝 機体柱ノハギモノヲナス
ホールスカット不(ママ)解ス
十時四十分ニテ神田ノお父サント春子、要次、甚ドントお母サンガ女中ヲ連レテ帰ツテ來タ。白戸來 僕ノ機ニテ白戸單獨飛行後宮野先ヅ同乗 後チ少尉君同乗 次ギニ

余操縦佐野同乗。後ち單獨ニテ小旋回数回後着陸。晝食後白戸千葉ニ飛行ス。白戸ノ機力足ラズ旋回出來ズ。明日プロペラ取替エルコトニス
神田ノ人々夕食後七時四十分ニテ帰ル
小供ノ籍春子君ノ籍成可ク早ク帰ス様話シテ呉レトノコトデアッタ

▲▼14ページ▲▼ 大正6(1917)年1月13日(土)

天気晴

風静カ

ホールスカット分解ノ掃除

正午白戸來 試飛行 直線ヨリ出來ズ 多分カーブレターノ氷ル爲メナラント、熱空
氣ヲ導ク工夫ヲナス 山縣練習セシム 一回滑走 二回目ジャンプシカケテ右ニ傾斜回
轉着陸 後部樞折レテ修理スル内少シ風出テ中止ス
僕新機体金物ヲナス
大口午前白戸ノプロペラ穴明ケ 午後夜迄鳥飼ノ友人ノモーターボート修理ノ爲メ
寒川ニ行ク

▲▼15ページ▲▼ 大正6(1917)年1月14日(日)

天気晴

風ナシ 毎日飛行日和

今日モツヒニ金方來ナカッタ 内カラノ手紙ニヨルト昨年暮二千六百円バカリ兄ノ手ニ
這入ツタ由。大分新町ヤ新世界ニ遊ブトノコト 金モモ一送ツタカト聞イテ來タガ返事
シテヤツテハウルサカロト思ツテ今日來ル迄ヒカエルコトニシタ
白戸午後來ル 試運轉シタ 夕方帰ル
山縣井上東京ヘヤル 夕方帰ル

▲▼16ページ▲▼ 大正6(1917)年1月15日(月)

天気晴

今日モ天候ハヨカッタ

山縣金物フツクラス 大口ホールスカットベヤリングノスリ合セ イヅレモ午前中 午後
加藤君來 夜九時五分ニテ帰ル 加藤ヨリ來リタルプロペラ試験ス 千三百回轉弱ニテ
百二十キロヨリ引カズ 一回飛揚セシモ百七十米突ニテ旋回ニ回シテ着陸充分ナラズ
プロペラ取替ヘサス。隔(ママ)陸スルヤ先キ迄西風デアッタノガ急ニ北風ニナリ山越ノ風ハ
機ヲアオルコト甚ダシク又一上一下セリ 漸ク千葉方面ニ向ヒタル頃發動機ノ音變ジ

テ機六下ルノミナリ 高度僅カニ五十米突 貝掘ル人ヲヨケツツ下ル 流サルルコト甚ダシク、杭ヲサケツ、漸クノ思ヒデ向風ニナリ着陸 先ヅ無事ナルヲ得タリ 後調べタル結果マグネト發火セズトノコト 時夕方ナレバ調査ハ明日ニシテ信太郎宮参リノ祝宴ヲ張ル 山縣ヨツパツラテ寢ル 大分賑ヤカデアッタ。

沢谷ニユーム鋳物屋初メテ會フ 車注文ス

兄ヨリ金五百円電爲替來ル 午前中ナラ白戸へ間ニ合タモノヲ 實ニ残念ナコトヲシタ

▲▼17ページ▲▼

大正6(1917)年1月16日(火)

天気 晴

信太郎ヲダイテ浅間神社ニ参拜

手紙ヲ五六通書ク

昨日ノ原因取調べル 山縣二日ヨイデ午前中寢テ居タノデ自分デマグネトハツス。コイルガヤケツイテ居タ ヨクシラベルト鳥飼ガ修理シタ際センターノ出テ居ナイノデ六理ニ廻シテ居タ爲メアーマチュアートシヤフト取付ネジ四本ガ皆折レタ 其爲メポールピーストアーマチュアীগ、コスタノデ熱ヲ起シコイルガ焼タラシカッタ 午後アイズマンヲ取付サセル

余ハ白戸ノスタシヨシヨシヲ作ル 大口ベヤリング出來バルブニカゝル

お母サン寄留届ヲナス

ナホガ帰ツテ來タ 信太郎ニ帽子トヨダレカケヲ買ツテ來タ

夕方井上モ帰ツタ 信太郎ノオモチヤヲ貰フ

▲▼18ページ▲▼

大正6(1917)年1月17日(水)

天気 曇リ

朝チラ、雪模様デアッタガ後チヤンダ

晝前白戸來 ハンドボールヲ持ツテスグ帰ル

白戸ノスタシヨシヨシ佐野ツクル

グレゴア、アイズマンヲ附ケテ試運轉ヲナス 必ズ一回毎ニ爆發ス 頗ルヨシ。後チメーアヲ分解ス (凶形日記参照)ガガタニナツテ居タ マグネトモ自分ノ目方ダケ持チ上ゲラレナカッタ 然シアーマチュアトコンデンササエヨケレバ直スニハワケナイ品モノデアッタ。午後プレーン金物ノ製圖ヲナス

松本ヨリ写真ヲ三枚ト年賀状ヲ今頃ヨコシタ

信太郎今日ハ相手ニナツタラ笑ツタ 今迄モ笑テモタゞ無意味デアッタ 目モ大分見エル様ニナツタラシク犬張子ヲヨク見ルヨウニナツタ

小主人、上野氏ヨリ來信アリ

▲▼19ページ▲▼ 大正6(1917)年1月18日(木)

天気 雨後晴

浅間神社参拝

池田梅一郎君來 十九才ノ青年 工手學校ニ這入ルト云フノデ大ニサン成シ最(ママ)非ソースルコトニ大ニ進メタ

十一時頃ヨリ雨ノ中ヲ白戸ニ行ク 散髪ヲナシニ村ニ二十五円返金ス 随分コタエタ。 帰途白戸ニ立寄ルト奈良原氏ノ使ガ來タ トードー五円ムシリ取ラレタ 尚廿日ニ上京 幾等カ取ラレニ行クノダト云フト身ガチジム様ダ 帰宅後夕食。森本延治來ル シバラクシテ帰ル 後風強クナル 十二時頃迄オチ、眠レナカッタ

▲▼20ページ▲▼ 大正6(1917)年1月19日(金)

天気 晴

昨夜オソクナッタノデ九時頃起床 今日ハ終日金物ノ製圖 皆ハ白戸ノ金物ヲツクル 大口ホールスカットノエンジンシートヲ作ル 夜々業ヲナスツモリノ處一杯ノンダラ眠クナツテ其マ、

▲▼21ページ▲▼ 大正6(1917)年1月20日(土)

天気 晴

早朝起床 模型ノ現圖ヲ引キノレゾレ仕事ヲ與ヘテ置ク

白戸九時頃來 相談後十一時五分ニテ上京ス 浅草橋ヨリ武須氏へ電話ヲカケル 二度バカリ來タトノコトニ四時頃會フベク打合セヲナシ白戸ハ宮野へ行ク 余ハニュームノ釘ヲ買ヒ、岸工場ニ行キ宮里、原両氏ニ會フ。エツフェル三十式號カーブヲ写ス 其他ニ新ラシキ計算法等アリシモ分カラズ 其内追々覺エルベシ。三時過ぎ去ツテ武須宅へ立寄り、スグ金杉ノ赤羽ニ行キ、白戸ノ用事ヲナシ再ビ武須氏宅ニ到ル 今奈良原、白戸両方ヨリ電話アリ スグ行クトノコトニシバラク待ツ 奈良原、川俣両氏來 談話中白戸來ル。ヤハリ出來ナカッタトノコト 廿五日頃出來ル由 コレデ、今日ハ分カレタ 帰途雜誌其他買物ヲナシ九時發ニテ帰稻ス

▲▼22ページ▲▼ 大正6(1917)年1月21日(日)

天気 晴

今日ハ七時頃起床 信太郎ヲダイテ浅間神社参拝 サカンニ、セキヲスルノデスグ連レテ帰ヘツタ

午前中機体ノ前部後部ノ圖面ヲ作ル

大口ホールスカット試験台。井上長、ホールスカット、アングル肉ヌキ。山形機体金物。井上貞白戸プレーン手傳ヒ。佐野模型

自分ハ午後、今朝井上ガワラ灰ヲ焚イタアトノ灰ヲ薪小屋ニ入レテ居イタヤツカラ發火シテハメ板ヲ少シ焼イタノヲお母サンガ音デ發見シタノデ大事ニ到ラズニスンダ處カラ早速、荒神様ノ才宮ヲ作ツタ

ゼラチン四匁水二百瓦亜鉛華一匁ノ割デ塗料ヲ塗ツテ見タ。純白ニナルバカリデ、ゼラチン其マヽト少シモカワリガナカッタ

夜上總屋ヨリ夕食ニ帰ヘルト信太郎ガ四分間バカリ呼吸ヲシナカッタト大サワギシテ居タ 稲毛ノ醫者ハナンダカラト來ナイ 其内ダ呼吸ハ直ツタガ顔色ガ悪イノト脈ガ悪イノトデ千葉ヘヤツタ 大口モ行ツタ 十時頃大口一人帰り原因ハ鼻ノ中ハ悪イ爲メ呼吸ヲトメルノデ体内ハ壯健トノコト 然シ今夜一夜病院ニオイテ呉レトノコトデ又大口ト、井上貞ニオシメ其他ノモノヲ持タセテヤル。

夜ハ床ノ中デ讀書ス 今日ハ実ニ変ナ日デアッタ 早く夜ガ明ケレバヨイ

▲▼23ページ▲▼ 大正6(1917)年1月22日(月)

天気晴

六時半起床 坐敷ノ掃除ヲスツカリヤツタ。浅間神社参拝 朝食後千葉ノ高梨病院へ行ク 丁度縣立病院ノ耳鼻科へ行ツテ不在デアッタ 十一時過ギ漸ク帰ル 大分ヨイトノコトデアッタ。先生ニムネノシツプヲ張替ヘテ貰ツテ自分ノ乗ツテ來タ車デ帰ヘス 自分ハカスガイ其他ノ買物ヲナシ白戸ニ立寄り二時帰稻 晝食後メンス。パーノ墨ヲ出シプレーンノ取付ヲツタル現圖板ニ畫ク。佐野ノ模型夕方出來ル。大口試験台 佐世保ノ女流飛行家志願者返信ヲ出ス 信太郎泣キ声ニ大分力ガ出來テ來タ

▲▼24ページ▲▼ 大正6(1917)年1月23日(火)

天気晴

今日モ終日風ガ吹イテ居タ

プレーンノ取付金物ヲ作ルヲ製圖ス

今日ハ大口ホールスカットヨリ試験台出來、機体足ノ金物ヲ作ル 他ノモノハ皆ホールスカットノスケッチヲサセル

▲▼25ページ▲▼ 大正6(1917)年1月24日(水)

天気晴

朝静ナ上天気デアッタ 二三日振りデ浅間神社参拜 九時頃ヨリ北西ノ風強シ
正午頃信太郎又シキリニ呼吸ガ止ルノデ高梨病院へ走ラス 四時頃帰り別ニ変ツタ處
ワナイトノコト 吸入ヲヤレトノコトニ吸入器ヲ買ツテ來タ。顔色モ大分ヨカッタ
今日ハ機体ノ金物間違ノ分ヤリ直ス 其他二三製圖 プレーンノポールト決定 エンジ
ンシート等 夜切抜整理

大口機体足ソケット蠟付。山縣プレーン取付金具其他 佐野ホールスカットスケッチ。
後。バスヲ作ル 井上長森本各種肉ヌキ。
大工二人來 格納庫戸ジマリヲナス

▲▼26ページ▲▼ 大正6(1917)年1月25日(木)

天気晴

時事 立石米国仕込飛行家帰朝カーチス式

今日ハヤ、風静カデアッタ

山縣各金物

大口佐野以下ホールスカット組立

白戸ヨリ千葉駅へプレーン布來テ居ルトノコトデ取りニ行ク 白戸ノ宅ニテ晝食後帰稻

大工二人内一人格納庫一人飛行機

丸善へ工手便覧注文ス

信太郎今日ハ上気(ママ)嫌ニテ終日ヨク笑フ

▲▼27ページ▲▼ 大正6(1917)年1月26日(金)

天気晴

午前五時半起床 今日ノ仕事ヲ考へ浅間様ハ行ケナカッタ

タンバック屋請求書ヲ出ス

山縣練習セシム 風向ニジャンプ二三回 直線飛行一回 滑走六七回無事終ル 後チ
自分一回ヤツテ見タガ中々上リニカクタ 二廻リバカリシテ降りタガ同乗ハトテモ出
來ナカッタノデ中止シタ

大口、佐野、以下ホールスカット組立 山縣金物 自分プレーン金物製圖ト他金物製
作。晝間格納庫ノ写真ヲ写シタノヲ現象(ママ)ス。グレゴアノマグネトアイズマン取ハ
ツシタル處ツミミガ又スレテ居タ 鳥飼ニハモ一頼メナイ。然シマグネトノ故障多イノニハ
実ニ閉口仕ル

信太郎大ニ好シ 今日ハ自分デダイテ山縣ニシヤターヲニギラセテ初メテ写真ヲ取ツタガ、タイムノハヅノヤツガ、スグ通りヌケシタノデ、ウマク行カナカッタ
大工一人

▲▼28ページ▲▼ 大正6(1917)年1月27日(土)

天気 晴少曇リ

床ノ中ニ居ル内白戸ノ使ガ來テ今朝一番デ上京シタカラ都合ヨケレバ行ツテ呉レトノコトデアッタ。ソレデ九時廿分デ上京ス

大口ニハホールスカット出來上リタル後チ蠟吹き 大工ハコマアールバツン削リ、カタ木引割等仕事ヲ與ヘ山県ハプレーンノ金物云ヒツケテ行ク

先ヅスイフトニテケーブルヲ百呎買ヒ鳥飼ニ一寸立寄り武須ニ行ク 白戸マダ來ラズ鳥飼ニ帰り晝食。政夫氏ニマグネト、スプリットドロフノ銅環エボナイトノ修理ヲ頼ム

鳥飼不在。白戸ヨリ電話アリ 來テ呉レトノコトニ行ク 奈良原氏ニハ千葉ヨリ送金スルコトニ決シ、白戸ト二人ニデアンドリユースニメアノ修理ヲ聞ク コンデンサーガダメラシトノコト。電燈線ヲ求メ、伊東屋ニテ井上長ノ手帳、ト鉛筆、西戸山曙ニテプラグヲ七個求メ岸工場ニ行ク 格納庫賣ラズトノコト。第三ツルギ明日組立ノ由。

原氏トラクター設計中 浅野板ヲ求メ福萬堂ニ行キ模型材料ヲ買ヒ神田ニテ夕食中山田ヘ分7克蘭カント平板五枚注文 六時四十分ニテ帰稻。往復金子ノ着火法ヲ讀ム 中々ヨクワカル様ニ書イテアッタ
大工二人

▲▼29ページ▲▼ 大正6(1917)年1月28日(日)

今日ハ少シ寝スギタ 床ノ中デ日記ト出入帳ヲツケ八時起床 神田ノオ母サンガ來ルトノコトニ準備シテ居ク

大口蠟吹き。山縣アイズマン組立取付 佐野ホールスカット 井上長同手傳 森本金物。井上自宅。自分写真トお母サンノ話シ相手 大工カタ木引割リバツン割リ。コマ大工二人

お母サンお晝前來ル 佐倉迫行き過ギテオクレタトノコトデアッタ 夕食後帰ル 用件ハ要ニ二君ノ籍ヲ返スニハ一度河村家全部ガ高木ノ方ヘ引取ラレソレカラ河村ヲ新ラタニスル様ナコトヲシナケレバ出來ナイトノコトデ其相談デアッタ お母サンニ僕カラ話スト包亮サンノ友人デ法學士デ多分出來ルトノコトデアッタト云フノデ明日上京 其話ノ後明後日お返事スルコトニシタ 夜九時五分ニテ帰京セラル

タンバック屋三十一日迫送ルトノコト 鳥飼エボナイトノ破片送レトノコト 送ル

▲▼30ページ▲▼ 大正6(1917)年1月29日(月)

天気晴

今朝ハ手紙ヲ書ク ナホ、青嶋和三郎、筏安太郎、宅、酒井庄太郎
大工二人コマ、トハキモノヲケツラス

ホールスカット佐野井上長。大口一寸手傳フ

大口蠟吹キト夕方ヨリハギモノ

山県金物 井上貞、森本ノリヲネル

自分機体ノ柱ヲケヅリハギモノ 夜七時ニ及ブ

お母サン上京ス 十一時七分ニテ

信太郎醫師ニ行ク モー菓ハイラナイトノコト 近頃大ニ笑フ 神ニ謝ス

▲▼31ページ▲▼ 大正6(1917)年1月30日(火)

天気晴

八時起床 朝食 日記

大工一人コマト、柱、メンスパー

大口午前中町役場へ信太郎出生届ケノ文字ガ違ッテ居タトカデ行ツタ 午後ハギモノ
トメンスパー 山県金物 午後白戸ノ方ノ金物。佐野午前中コマノ穴又キ 午後ホール
スカット手入レ。井上長同上 井上貞森本ノリ 午後金物 自分機体柱トメンスパー中
木等

信太郎大ニ笑フ 夜風呂ニ入レテヤツタ

七時頃床ニ入り切抜ヲ讀ミ日記讀書

▲▼32ページ▲▼ 大正6(1917)年1月31日(水)

天気晴

無風 午後二時頃より風出ツ 北西

午後ホールスカット試運転 一度ニスタート出来氣持チヨカッタガート四ノプラグ爆
発セズ取替ヘル ヤ、スローニテ山縣ユーヤーノ調整ス 四六ノサクシヨンパイプ熱クナル
トノコトニ運転停止 サクシヨバルブロッカーアームノ明キヲ調整(ママ)シニ度試運転
ヤ、良好ナリ シバラクスル内一番ノシリンダー附近ニテ変ナコスル様ナ音ガスル内廻轉
ガ次第ニ落ちタノデ停止シテ今日ハ中止ス

山縣白戸ノ金物 大口ハギモノ。佐野ホールスカット 自分機体柱トハギモノ

▲▼34ページ▲▼ 二月

ホールのスカット水上機製作初

▲▼35ページ▲▼ 大正6(1917)年2月1日(木)

天気 晴北西ノ風

午前二時頃便所へ行き帰りニ襖ヲベメ様トシテ電燈ノ傘ヲ割ツテシマツタ。床ニ入りシ
バラクシテ雑誌ヲ讀ム内ムネガ悪クナツテ幾度モ上ゲソーニナツタ。正午晝食後お吉ガ
台ヲ一寸引クト足ガ折レテ膳ノ上ノモノヲ皆ヒツクリ返シテシマツタ。ドーモ一日早々
不様氣ト思ツタガニツソロッテ終ツタカラ注意サエスレバ返ツテヨカローカモシレナイ
山県佐野ホールのスカット分解 ギーギー音ノシタノハ一番ノエキゾーストバルブノスピ
ドルガガイドニコスル音デアッタ クランクノナットガユルンデ居タノデベカエル
大口自分メンズ。パーノ箱ヲ作りハギモノヲナス
夜森本ニ努力、勤勉、地上練習、品性ト云フコトニツキ大ニ説ク
午後矢橋ト云フ青年來ル 過日血書ノ手紙ヲヨセタル人。イロ、説イテコレモ東京へ帰
ス
今夜大口以下皆集リ九時半頃迄談笑シタ

▲▼36ページ▲▼ 大正6(1917)年2月2日(金)

天気 晴風ナシ

大口二十円渡シ

床ノ内ニテ日記雑誌ヲ讀ム 浅間神社参詣

大工一人 山縣佐野ホールのスカット。大口機体ハギモノノワク入レ、グレゴア、エンジンシ
ート

大工機体ホゾ其他足メンス。パー提木ハギ木

午後二時頃ヨリ白戸ニ行ク道々黒砂向フ迄計算尺原理ヲ讀ム。夜八時頃車ニテ帰ル
別ニ有益ナ話モナカッタ 帰宅入浴 お吉ガ雑煮ヲ作ツテ呉レタノデ熱マリテ切抜ヲ張
リ床ニ入り日記 明日ノ仕事ヲシラベ工手便覽ヲ見ル

▲▼37ページ▲▼ 大正6(1917)年2月3日(土)

天気 晴風

床ノ内ニテ飛行界ヲ讀ム

今日ハ機体ノホドヲ作ルノニ一日カ、ツテマデ出来ナカッタ 自分デヤルト中々手當(マ
マ)ノカ、ルモノダ

大口機体エンジンシートトメンスパーハギ木削リ
佐野櫓ハギ台 山縣ホールスカット。
夕方仕事ヲ終リ帰宅 二階ニテ讀書中、鳥飼氏來 藤原、池田両君ヲ同伴 イヅレモ
初対面 藤原君ハ過日浦川ヨリハガキ來リ居ルモノ 白戸ノ方へ入學スル様ニナルベシ
七時半ニテ帰京ス 鳥飼ボツシュノアーマチャヤ持ツテ帰ル。九時頃來電 お母サンヨリ
明朝巢鴨へ來テ呉レトノコトデアッタ 明日ハホールスカットノ試運轉デ鳥飼ヤ正夫サン
ニ來テ貰フ筈ダカラ困ツタガ行クコトニシタ

▲▼38ページ▲▼ 大正6(1917)年2月4日(日)

天気 晴

四時半お吉ヲ起シ五時起床 熱イ雑煮ヲ喰ツテ格納庫ト大口ニ立寄り試運轉ノ注意
ヲシテ行ク 六時ノ一番ニ遅クルニ約十分 時計ヲ見ルト大分オクレテ居タ。九時巢鴨
着。要君ヲ高木ノ方デ籍ト共デナケレバイケナイト云ツテ來タトノコト 籍ノ方ハ神田
ニテ書類ヲツクリタル過日ノ話通りニ明日手續キナシタル由。ソレ迄ニ要君ヲ返ス方得
策ニ付お母サント河村氏ト僕トニ高木ニ引取ル様話シテ呉レトノコトデアッタノデ余ガ
代表シテ十一時神田ニ行ク。高木ニ牛込ニ行キ居タルワザ、呼ビヨセ、種々話シス
其内お春サンガ泣クヤラ神田ノお母サンモ泣ク 僕モツヒツケ込マレタシテ結局高木
氏モ引取ル事ニナツタ 然シ籍ガ絶対ニ返ラナイ上、ヤムヲ得ナイコトデ又引取ルトモ
其時想(ママ)談スルコトニシタ 三時頃漸ク方付キニストラックヲ求メ三時半ニテ帰宅
ホールスカットノ成績頗ルヨシトノコト。今一度廻サス 調子少シミダレタレドモ二百五
十キロ余ニ及ブ 今夜ハ皆ト共ニ大ニ祝フ 水上ニスルニハドーシテモ五百円入ルガコレガ
問題ダテ

十時床ニ入り日記 手紙、河村、宅、ミヤ、鶴代

▲▼39ページ▲▼ 大正6(1917)年2月5日(月)

天気 晴静

床ノ中ニテ讀書後六時半起床 浅間様參詣
機体ノ組立ヲ初ム 自分デナス
大口ハギモノケヅリトハギモノニ終日カハル 後メンスパー櫓
山縣、佐野、ホールスカット、森本補助
井上長、井上ノリネリ 午後ホールスカット
午後ホールスカット試運轉 第一回一番爆發セズ第二回モ又ナサズ。第三回一パイ開
ケバヨク廻リタリ。スローノ調整宜シカラザルモ、ヨク廻ル 牽引機ニ二百五十キロ以上
ヲ示シ居タルモ、後牽引機試験ヲナサシム。スプリング弱ク二百キロデアッタトノコト

水上ニスルヤ否ヤ、水上機各種ニツキ調査ノ上ナスコトトシタ
森本、井上長、夕方ヨリ上京ス

▲▼40ページ▲▼ 大正6(1917)年2月6日(火)

天気 晴

七時起床 信太郎ヲダイテ参拝 濱惣重ニ催促ノ手紙書留ニテ出ス
山縣練習 滑走四五回 ジャンプ一回 直線飛行 今日迄ノレコード一回 余一回旋
回飛行 先日ヨリハマシダガヤ、カハ落チテ居タ。回轉ヲシラベルト千四百四十回轉 ボ
ツシユノ時ヨリ八十回轉少ナシ

鳥飼氏十一時頃來。ホールスカット賣ルカトノコトニ大坂飛行後飛行機共五千円ナレ
バト云ツテ居ク グレゴアノ古機體賣ルカトノコトニ機體ノミ式百五十円 車輪四個付
ケテ五百円 練習中格納庫貸賃トシテ百円、車輪式個ナレバ四百円ト定ム

晝食後伊藤榮氏ニ河村ノ金請求 はる子氏ニ手紙 後池田君ノ試験轉ニ來タ自動車ニ
テ白戸ニ行ク。散髪ヲナシ夕方一寸ノムヲ回ス 中々ヨシ 夕食ヲ馳走ニナリ車ニテ
帰ル。

入浴、山縣、上平君ヨリ聞キタル玉井君ノ近況ヲ聞ク

▲▼41ページ▲▼ 大正6(1917)年2月7日(水)

天気 晴

朝少シ曇リ次第二晴レ風又静ナリ

白戸以下練習生來ル 山縣練習 滑走三回 直線二回 滑走二回、風ヤ、出ツ 養生
館下ヨリ北西ニ向ツテ飛揚 稲毛カキ養生場上ニテ旋回 千葉ニ向フ 高度約百米突
少々右旋回シテ益々高クツヒ三百米突位ト思ワル、頃ヨリ左旋回シテ格納庫ニ向ヒ
次第二下ゲテ降ル 横風ナレバ氣ヲモム内山縣ニモ分リタルラシクノバシテ着陸 左ノ車
輪横ニナリタレドモ無事。晝食ハ白戸以下全部同食 山縣ノ爲メニ祝シ、金ノ腕時計ヲ
與ヘル。鳥飼、広島ノ山県ニ打電スル 午後ハ白戸ノ飛行機運搬方々仕事ヲ休ム 余ハホ
ールスカットノ設計ニカ、ル 夜ニ及ブ

▲▼42ページ▲▼ 大正6(1917)年2月8日(木)

天気 晴ヤ、曇リ

今日ハ終日機體組立

海野氏上京 林町ニ居ルトノハガキ來

朝浅間神社参拝

山縣プレーン中ノ金物。佐野、マーチン、スタビライザーノ試験機。大ロメンスパ―仕上
ゲ
夜エツフェル三十二號圖ヲ写ス
午後写真五六枚ヤイテ皆ニヤル

◆▼43ページ▲▼ 大正6(1917)年2月9日(金)

天気 曇少雪

浅間神社参拝 大坂へ手紙

山縣百太郎ヨリ豊サンノ礼状來ル

プレーン中ノ金物、後部櫓ノ取付金物

山縣機体ワイヤー張り。佐野スタビライザー

大ロプレーン前端ノ木

夜國民飛行ヲ讀ム 新ニューポール製圖、レコードヲ控エル

山田へピヤノ線、眞中パイプ、鉛注文ス

お母サン上京ス

◆▼44ページ▲▼ 大正6(1917)年2月10日(土)

天気 曇少雨

午前七時半起床 浅間神社参拝

プレーン中ノ金物穴明ケ井上長

山縣グレゴア、マグネト、スプリットドロフニ附替ヘル

佐野、スタビライザー試験器

井上森本機体麻卷キ 大ロメンスパ―各種

河村氏百日目

山県明日帰京シタシトノコト 二円與ヘル

ハル子君ヨリ手紙來 返事出ス

◆▼45ページ▲▼ 大正6(1917)年2月11日(日)

天気 快晴

午前八時起床。スグ仕事ニ方ヘル

佐野 安定器。大ロコマト柱。自分バツン打チ

井上長バツン手傳ヒ。森本ラック塗り 井上貞車輪バンク直シ、千葉行

夕方河村氏來 要次君籍イヨ、帰ラザル由。ツヒテハ高木ニ置ケレバ置ク。オケナケレ

バ春子君ガ引取り其手當ヲ河村ノ方ニテナスト云フコトニシルカ、イヅレニシテモお母サント相談ノ上僕ニ上京シテ話シテ貰ヒタイトノコト
夜山縣帰ル 今日矢野君ニ聞キニヤツタフロートニ関スルコトヲ聞ク。向島ノ渡辺ニモ行キタル由。十二時床ニ入ル

▲▼46ページ▲▼ 大正6(1917)年2月12日(月)

天気 曇晴雨

今日ハアタ、カイ日デアッタ。信太郎ト一所ニ寝テ居テ八時頃起床
機体足佐野アル、ト足大口柱

山縣練習スベク發動機廻ス。スプリットドロフ附ケテ初メテナリ 時々切レルノデ中止
原因ヲシラベサス

余午後白戸へ金ヲ取りニ行ク 穴川手前迄行クトブーツ音ガシテ飛ンデ居タ 二週(マ
マシテ降リタ

少シ行クト又ブーツ音ガシテ上リ出シタガドーモ、タヨリナイ飛ビ方ヲシテ居タト思ト
サカ立ヲシテプロペラヲ折ツタ音ガシタ 行ツテ見ルト、アンザニーデ白戸ガ二週(ママ)
後田村ガコワシタノダトワカッタ。夕食後練習法ニツイテ白戸ガ話シテ呉レト云フノデ
二三話シテ帰ル

格納庫デハ山縣ガ模型ヲ作ツテ居タ 井上長ハ製圖 他ノ二人ハカードヲヤツテ居タ。
お母サンカラ又アス來テ呉レト電報ガ來テ居テ困ツタ

▲▼47ページ▲▼ 大正6(1917)年2月13日(火)

天気 晴

今明両日ノ仕事ノ爲メ製圖ヲナシソレゞ、仕事ヲ與ヘテ尅時五十分ニテ上京 巢鴨ニ行
ク

お母サンニ會ツテ聞ク 大体包亮氏ノ話ト同ジデアツタガ高木デハドーシテモ受取ラズ、
須原デハ親父ハ金ヲ呉レト云フトノコト。ソレデハ將來ガツマラヌカラお母サンサエヨケレ
バ稲毛デ養生スルコトニシテハドーデスカト話シタ お母サンモ其氣ニナリ今夜包亮氏ト
相談ノ上明朝僕ガ代理デ行クコトニシテ夕食ヲ馳走ニナリ鳥飼氏ニ行キスプリットドロ
フ、ヲ直ス爲メ渡ス

銀坐ニテ買物ヲナシ鳥飼ニ宿ル

▲▼48ページ▲▼ 大正6(1917)年2月14日(水)

天気 晴

昨夜ハホトンド眠レナカッタ 六時起床朝食 スグ巢鴨ニ行ク 河村氏モ引取ルコトニ同意セラレタノデスグ神田ニ行キ其由告グ 高木夫人モ呼ビニヤリ共ニ話シテ、イヅレモ嬉(ママ)ンデ同意シタ。晝食ヲ馳走ニナリ矢野君ヲ太田工場ニ尋ネル。利根君モ居リ雑志(ママ)ナド見セテ貰ヒ明日渡辺君ニ初見參スベク矢野君ト同道ヲ約シテ山田ニ行ク荷物出シタトノコトニ二ノ橋ノボルト屋ニ行キ一分ノボルトヲ注文 ソレヨリ友野君ヲタヅネバルブヲ聞合セル 丁度タングステンスチールガアルトノコトニ八個ノ値段ヲ聞クト一個二円位 八日間位デ出來ル由。丁度昨年ノ吉永君モ來合セテ居タ 鳥飼ニ立寄り七時四十分ニテ帰稻後皆ヲ集メ明日ノ仕事ヲ打合セテ居タ

◆▼49ページ◆▼ 大正6(1917)年2月15日(木)

天気晴

八時四十分ニテ井上ヲ連れ上京 井上ヲ神田ニヤリ自分ハ太田工場ニ行キ矢野君利根君ト久シ振リデ浅草ノトキワニ晝食ヲ共ニシ矢野君ト二人デ渡辺氏ヲ訪フ 洋行帰トシテハ寡言ニシテオチツキアリ。西洋カブレノシテ居ラナイ處大ニ氣ニ入ル 愛想ヨロシカラザルモ飾リ氣ナク矢野君ヲ洋行サセテ帰ツタラ此ノ程ダロト思タ。階上デ茶ヲ馳走ニナル。モーターボートニ関スル外国雑誌(ママ)沢山アリ 二時頃迄雑談 大ニ得ル處アリ

本所林町三ノ山田直吉方ニ海野氏ヲ訪フ 青山高木町ニ引越セリトノコト 新宿ノタシバツク屋ニ行キ二十日迄ニ出來ルコト確ク約シテ海野氏ヲ夕方訪フ 三日前ニ家ヲ持タバカリナリト 雑談夕食ヲ馳走ニナリ鳥飼ニ一寸立寄り九時ニテ帰稻 お母サント要君ト女中ガ來テ居タ スグ床ニ入ル

◆▼50ページ◆▼ 大正6(1917)年2月16日(金)

天気晴

昨日ノクタビレデ今日ハ八時起床。メインプレーノ組立初メタ 四枚共一寸形ダケハ出來タ

大口テール、エレベーター

山縣井上長ホールスカット組立、午後グレゴア、オイルポンプ 其他ノ手入レ。佐野ナンプレーン

夜昨日お母サンガ貰ツテ來タ牛肉デ、皆ト夕食ヲ共ニス。井上長、佐野ト長ク話ス 佐世保ノ池田女中代リデヨケレバ來イト云ツテヤル

◆▼51ページ◆▼ 大正6(1917)年2月17日(土)

天気 晴

今日モアタタカイ静カナ飛行日和デアッタ。寒川ノ方デ大分音ガシテ居タ
佐野、森本プレーン 大口エレベーター。自分機体 山縣グレゴア手入レ。井上長手傳ヒ
夜佐野ニ飛行家ガードヲカ、セル。井上ニ切抜整理ヲサセル

グレゴアクラシクシヤフトニガタガアッタノデ調査ノ決(ママ)果フラストベラヤリング受ケ
ガユルンデ居タノデソレヲベサセタラトマッタ。同プロペラノ取付ケヲ山縣ガムヤミナコト
ヲシテ曲ゲテシマタノデ、ハツスノニ大分困ツタガヤットノコトデハツシ千葉ヘ直シニヤッタ

▲▼52ページ▲▼ 大正6(1917)年2月18日(日)

天気 晴

久シ振リデ浅間神社参拜

大口プレーン、フチノ木 山縣足ノ金物 佐野メンプレーン終ツテ丁番 自分各種

台北ノ筏ヨリ返信來ル 台北宜蘭ニテ所飛行ノ件申來ル。條件承知ノ旨打電シ期日ニ
ツキ手紙出ス

▲▼53ページ▲▼ 大正6(1917)年2月19日(月)

天気 曇晴

床ノ中ニテ雜誌ヲ見起床

山県金物

大口プレーンノハシノ木

佐野丁番

自分機トメンプレーン、方向舵ノ圖面其他

マグネト出來タカ鳥飼ヘ打電ス 返電出來テ居ルキタイノ件○渡ストノコト 七時三十
七分ニテ上京ス

▲▼54ページ▲▼ 大正6(1917)年2月20日(火)

天気 晴

七時ノ汽車ニ乗レナイ見込ミデユツクリ起キタ

昨夜飛行機代金トシテ式百五十円 車輪二個分百式十円 格納庫、世話料壹百円
合計四百七十円受取ル

マグネト出來テ居タノデ持ツテ帰ル 十一時帰宅 山縣ニツケサセ、自分ハ晝食後白戸
ヘ行ク。買物ヲナシタ方汽車デ帰ル 夜皆遊ニ來リ十一時頃迄雑談。井上貞試運轉ノ
結果マグネト宜シカラズ東京ヘ持ツテ行ク。十一時帰ル。違状ナシ 故障他ニアルベシト

ノコト

▲▼55ページ▲▼ 大正6(1917)年2月21日(水)

天気 晴後曇リ

今朝海軍モ式ノ計算ヲナシ起床

藤原今日ヨリ來ル 妻君同道 鳥飼モ來 海氣館ニテ入門祝トシテ大口、山県二人ト馳走ニナル

アイズマン取付ケ。キレナカッタノデヤツテ少し上ガルト又キレ初メタノデ直線デ降りテ滑走デ帰ツタ。スプリットドロフト取替ヘタガヤハリ一パイ引クトキレルノデ中止シタ明日ボツシユ出來ルヨシ

鳥飼夕方帰ル。阿部ヨリ手紙來 川上、中尉ト梅田トツヒニケンカ分レノ由

大口プレインノフチ、方向舵、等 山県グレゴア。自分プレインノフチ權取付。井上長金物 佐野丁番トプレインノフチ

夜山地飛行ヲ地圖上ニ研究ス

▲▼56ページ▲▼ 大正6(1917)年2月22日(木)

天気 晴レ

今朝八時過ぎ迄眠ツタ 起床食後スグ仕事

大口方向舵 山県プレイン 佐野機体 井上長金物 井上晝食後スプリットドロフトヲ持タシテヤルツヒデニ買物ヲナサシム。マグネト直ラズ明朝アタラシイボツシユヲ持ツテ行クカラ、前ノボツシユトスプリットト二個トソレ一個ト交換シヨート馬鹿々々シイダレガンソナ馬鹿ナコトヲスルヤツガアルモノカ

今日ハ車輪ノ金物ヲ製圖シ、後チ練習法ヲ書イタ 夜十二時迄カヽッタ 藤原ガ大分気焰ヲハイテ居ルソーダカラ、ソノツモリデ書ク

▲▼57ページ▲▼ 大正6(1917)年2月23日(金)

天気 晴

プレインノハシ プレインノ取付ヲツク

大口エレロン

山県車輪ノ金物。佐野プレイン

プレインノ布ヌイニヤル

鳥飼氏來。キングストンヲ一個持ツテ來タ。山県取付ケル

練習法ヲ皆ニ讀マセス(ママ)

夜食後スグ眠ツタ

▲▼58ページ▲▼ 大正6(1917)年2月24日(土)

天気晴

今日モ北風強カッタ

テールヲ取付ケル。キングストーンデグレゴア試運転 成績ヤハリヨシ

大口方向舵ト中央柱 佐野プレーン

丁度晝頃車ニテ日野大尉千葉ヨリ來ル 今白戸ノ處へモ寄テ來タトノコト。ヤハリ元氣

ダ 相変ラズ發動機ヲ研究シテ居ル由 砲兵工廠ニテ目下百二十、百六十ノ設計ガ出

來居ル由。例ニヨツテ、ニサイクル奨勵デアッタ 即チ小時間小馬力 今少シ具体的ニ

スレバ四五時間百馬力迄ナレバニサイクルノ方ヨシトノ意見デアッタ。晝食後帰ル

肩章ヲ見ルト中佐ニナツテ居タ 実ニ早イ昇進ダ

午後ハホールスカットノ設計ヲナス

▲▼59ページ▲▼ 大正6(1917)年2月25日(日)

天気晴

今日ハ上天気デアッタ 山縣練習 海岸ヨリ沖ニ向ツテ割ニ早ク浮イタガ方向舵ヲ右ニ

取リツ、機ハ左ニ流サレテ居タ 少シ上ゲ舵ヲ取り過ギテ居ル様ダ

浜上迄出タガ一向上ガラナイ ソレカラグン、寒川ノ埋立地辺ヲヤット百五十位ノモ

ノ 白戸ノ上アタリデ波状様ニ見エタガ穴川辺デ沖ニ向フトグン、下ガツテ波打ギワ

デ降りテシマツタ ツル、滑走シテ居タガ黒砂ノミホノ中ニオチ込マツテシマツタ

漸クノコトデ上ガツタ プロペラデ水ヲタ、イテ一片折レタ 白戸ガスグ飛ンデ見ニ來タ

ガスグ帰ツタ。自分ハ格納庫カラ始終ヲ見タ

筏氏ヨリ來信 飛行ニ宛リ新機試験成績打電ノ上發表サレル様頼ンデヤル

夜藤原正章君ノ招待ニテ皆牛肉ヲ馳走ニナル アトニ藤原井上長岡君ト妻君ト居ル處

ニテ操縦ノ話ヲシタ 大ニ藤原君ニ自重ヲウナガシテ十一時帰宅

▲▼60ページ▲▼ 大正6(1917)年2月26日(月)

天気晴

六時起床 白戸ガ來ルト云フノデ待ツテタガ來ナカッタノデ九時二十三分ニテ上京

夜ニ聞イタラスグアトへ來タソーダ

西出ガトンボ返リシテ顔其他ニケガラシタソーダ

上京 スグ矢野君ヲ訪ヒ古金屋ニテ丸棒パイプヲ買ヒスサノトニテケーブル 飛行社ニ

テ雑誌ト実地設計、鋸屋ニテピン 日本自動車ニテ點火法ト塗料、加藤ニテプロペラ、ヤスリ

井上ヲ帰ヘス。後チ車洋自轉車商会、二ノ橋ノボールト屋

鳥飼ニテ夕食 阿部ニ時カラ四時迄待ツテ居タソダ 氣ノ毒シタガ寄ルトオソクナルノデ銀坐ニテ四五軒買物ヲナシ帰稻ス

▲▼61ページ▲▼ 大正6(1917)年2月27日(火)

天気 雨

久シ振リノ雨デアツタ

今朝ハ寢アセヲビツシヨリカイテ氣持ガ悪ルカッタ 九時起床 樋部樋ノ金物ヲツクル
大口プレーン 佐野同ジク。山県エロン等ヲ張ル

グレゴアハツスベク準備ヲナス。夕方ニサイクルツケルベクシラベル

夜井上長、藤原夫妻遊ビニ來リ、トードーマークヲ作ツテ呉レロトテ金ヲ五円置イテ行ツタ。

十時皆帰リテ床ニ入り大坂ト阿部ニガキ 切抜ヲ讀ミ日記ヲツケル

鳥飼今朝來 スグ帰ル 井上貞ヲ二三日貸シテ呉レトテツレテ帰ル

▲▼62ページ▲▼ 大正6(1917)年2月28日(水)

天気 曇リ

山田輪盛館スポーク値段聞合セ 佐々木、塗料見本 カーボンボイト注文

七時起床 山県グレゴア分解。三番ノコンネクテングロットバジツトノベヤリングスツポリ
空ニナツテ克蘭クケースカラピストン迄バジツトダラケニナツテ居タ。エキゾーストバルブ
ノガイトヲーツ分解ス 破壊シテシマツタ。明朝東京ヘ注文ニ行カネバナラヌ

大口ニサイクル取付ト新機メンプレーン。佐野ニサイクル取付ケ 大工一人プレーンノ
仕上台

夕方千葉ヘ散髪ニ行キ帰宅 並木デ夕食後白戸ニ立寄り練習生ト對話シ後白戸ト話
シテ帰宅

▲▼63ページ▲▼ 補遺

七日 山県初飛行す

廿四日 日野さん來場す

十五日 渡辺氏初会見

廿一日 藤原入所

▲▼65ページ▲▼ 大正6(1917)年3月1日(木)

天気 晴風ヤ、強シ

時事 帝国飛行協会二期生下志津行

五時半起床 六時五十分ニテ上京 太田君ニ、バルブノガイドヲ、タノミ、岸工場ニ行ク 井上君一人アリ マグネトスグ、チャーヂシテ呉レタ。ヤマトメタルへ行クツモリノ處、井上君ガアス、スグ入レテ居イテヤルトノコトニコレモ頼ムコトニシタ。晝食迄馳走ニナル内、宗里外一名來。二時四十分ニテ帰稻。プレーンヲ張リタ食後スグ眠ル

▲▼66ページ▲▼ 大正6(1917)年3月2日(金)

天気 晴

プレーン張り完成 塗料ヲヌル

大口、佐野、ニサイクルニカ、ル

夜スグ床ニ入ル

手紙四五本出ス

▲▼67ページ▲▼ 大正6(1917)年3月3日(土)

天気 晴

五時前起床 朝食後スグ六時発一番ニテ上京

岸工場ニ行ク 三十分バカリシテ皆ソロウ 工場電話カケテ呉レタガマダ人が來テ居ナイノデ分カラナカッタ 鋼管商店ニ行キシヤフトヲ買ヒ鳥飼ニ行キ井上ニ取りニヤル。

二ノ橋ノ原ニ行キボールトヲ請求シ、サツマツ原ノ野中ニテピントキリヲ買 鳥飼ニテ晝食後岸ニ行ク 明日午後迄ニツクルトノコト 金ヲ八円以テ取りニ來イトノコトデアッタトテ大分ヨワツテ居タ様デアッタ 殊三原ガベースボールニコレカラ行クノニ三米突バカリホシイノダガナイトノコト二十円渡シテ機上カラ写シタ写真ヲ頼ンデ鳥飼ニ行キ井上ニ明日午後取りニ行キ夜持参スル様云ヒツケル。

矢野君ニ立寄ル 明日來ル由。古鉄屋ニテシヤフトヲサガシテ五時ニテ帰稻 今日ハ阿部ガ三時頃迄待ッテ居タトノコト 青島和二郎モ來タ由

▲▼68ページ▲▼ 大正6(1917)年3月4日(日)

天気 雨後晴

後部櫓ノ取付ヲツクル

大ロスタンシヨシ 佐野、ニサイクル。山県塗料、グレゴア洗物、白戸ノ金物
昨日白戸ノ飛行機大破セル由

矢野君晝頃來 グレゴアスケッチ。夜大口其他ト夕食 終列車ニ乗リオクレテ泊ル
筏ヨリ手紙來 水上ヲ最(ママ)非持ツテ來テ呉レトノコト。此方モ好都合デアル 返電ハ
明朝ニス

▲▼70ページ▲▼ 大正6(1917)年3月5日(月)

天気晴

矢野君ハ眠ナカッタカシテ九時過ぎ起キタ

山田屋ノ妻君ガ來タ 鳥飼ガ來タ。其アトハ又信州カラ濱島ト外一名ガ來タ 之レハ
海気館ヘ連レテ行ク。今日ハ終日來客デーデ酒ヲ大分ノンダ

今朝プレーンヲ塗ル ニサイクル出來上リタル由 大ロスタンシヨシ
夜サイドノ紋ヲ畫ク。井上長君ガロットヲ持ツテ歸ツテ呉レタ

▲▼71ページ▲▼ 大正6(1917)年3月6日(火)

天気晴

シートヲ取付ケル

山県グレゴアトプレーンツナギ 大ロスタンシヨシ。井上長、佐野ニサイクル
晝前海野氏來 十二日頃水戸行ヲ約ス

夜飛行界ヲ一寸讀ミ早く眠ル

▲▼72ページ▲▼ 大正6(1917)年3月7日(水)

天気晴

鳥飼氏來

プレーン組立 今日ハ殆ンドニサイクルニ全員ヲ使役ス 発動機試運ヲナス 廻轉シタレ
ドモヤット七八百位ノモノニシテ過日ノカケハツヒニ自分等ノ勝利トナル
五平チャンノ外ニメヅラシク川島君來 土産ヲ貰フ 亜米利加ノ姉カラ發動機ヲ贈ッ
テ貰ツテ飛行機ヲツクルノダンソーナ

▲▼72ページ▲▼ 大正6(1917)年3月8日(木)

天気晴

仕事ヲ與ヘ十一時六分ニテ大口ト買物ニ上京 藤原君ノ母妻ト同道ナノデヤムヲ得ズ
二等ニ乗ル

太田工場ニ行キハブヲ注文シ晝食ヲ馳走ニナル。山田ニ鋼板五ノ三ノ鋼線二十番、アン
グルヲ注文シテ、桜井材木店ニ行キ檜材料四十二円五十銭ノ買物ヲナシ浅野坂ニ行キ
二尺五寸ノ六尺耐水モノ注文シテ二ノ橋ノボルト屋ニ行キ鳥飼ニ行ク 不在 開化
亭ニテ夕食 再鳥飼ニ立寄り油ポンプヲ借りテ伊東屋ニテ、セクシヨンペーパー十枚 浅草
ニ行キ、大工道具ヲ買ヒ帰稻

沢田中尉今朝墜落惨死ス 目下問題ノ人ダケニ大分ウワサハ高カッタ
帰稻後十二時過迄談話 ソレヨリ切抜整理ヲナシ二時頃眠ル

▲▼73ページ▲▼ 大正6(1917)年3月9日(金)

天気 雨

大口メタルスリ合セ

プレーン組立取付ヲナス

夜早く眠ル

▲▼74ページ▲▼ 大正6(1917)年3月10日(土)

天気 曇少雨

二サイクルニ今日ハ又手ヲ取ラレテ何ニモ出来ナカッタ ヤハリダメナノデ井上下藤原ト
夕方上京ス

青島和三郎來ル。夜一通リ話ヲナス

今日ハホールスカットノ製圖ヲナス 夜十時迄

大工一人

▲▼75ページ▲▼ 大正6(1917)年3月11日(日)

天気 晴

終日水上製圖。朝島原ノ高見氏來訪サル 長崎ヨリノ電車計畫ノ爲メナリト。十一
時六分ニテ帰ヘラル

鳥飼氏來 ニサイクル、タンクノ位置ヲ高クシテヨク廻ル 其御祝デ内デ大ニフム 今
日ハ近頃ニナクノンダ

大工一人

▲▼76ページ▲▼ 大正6(1917)年3月12日(月)

天気 曇少雨

今日ハインキナイヤニ氣ノメイル様ナ天気デアッタ
昨夜ヨッパッタノデ今日ハ胃ガ悪ク終日寢タ アンマヲ取ル
ソレデモ二三度起キタ 白戸ガオイルヲ取リニ飛行機デアツテ來タ。藤原ノ二サイクル
山県滑走後藤原二三回滑走ヲナス グル、廻ッテオカシカッタトノコト 人ヲ一尺前ニ
出シタ

夜井上長カラ金借入レノコト大口ト想(ママ)談シタ
大工一人

▲▼77ページ▲▼ 大正6(1917)年3月13日(火)

天気 晴

終日製圖 夜八時ニ及ブ

白戸來 九円貸シテ呉レトノコト 大分困ツタ様子デアッタガ案外ノンキラシクモアッタ
シノサンガ來テ植木ヲ二鉢カッタ
大口グレゴア組立 機体ニ取付ク
山県ニサイクル機体修理
大工一人

▲▼78ページ▲▼ 大正6(1917)年3月14日(水)

天気 雨

三時半頃カラ目サメ四時半起床朝食 五時半停車場ニ着 六時發ニテ上京 兩國ヨ
リ車ニテ上野ニ行ク 途中ヨリ雨ニナル 八時十分上野發 十一時五十五分水戸着
迎ニ來テ居ルカト見タガ居ナイ 勝田ニツク 此處ニモ來テ居ナイ 停車場前ノ茶店
デ茶ヲノミ車ヲ聞イタガ一台モコ、ニハナイトノコト。道ヲ聞イタガ分カリソーニモナイ
道々聞クツモリデ出カケタ オソワツタ通り畑道ヲ行ク。ヌカル、スベル、其内道ヲマヨッ
テシマツタ 聞クニ家ヲナク人通りモナイ ヤット一時間半バカリ雨ノ畑道ヲサマヨヒツ、
ツヒニ二時頃海野氏ヲ尋ネアテタ。海野君モ來テ居タ。ソレデモ余リスグ武石氏ヲ訪フ
ツモリデアッタガ此雨デハトードーハマルコトニナツタ。お寺ノ様ナ古イ大キナ家デア
ツタ。夜シメ、ト降ル雨ノ音ヲ聞キナガラシヨク台二百目ローソクヲツケタ古風ナ燈火
ノ下ニ、實父實兄諸氏ト、夜オソク追雑談シタ。何ンダカ詩的ナ感シハシタガ自分ニハ、
ソレヲアジワウダケノ、素要(ママ)ニカケテ居タ。
フライトヨリウツシモノヲシタ 之レガ今日ノエモノ

▲▼79ページ▲▼ 大正6(1917)年3月15日(木)

天気 曇晴

六時起床 朝食後スグ武石氏ノ宅ニ行 途次氏ノ墓ニ参拝ス。如洋氏ハ顔ノ青イヤセタ人デアツタガ顔骨ハワリニ巾ノ広イ人 海野君ヨリアイマイナ成行キヲ話シ僕ハ後繼者トナツタ挨拶ダケヲナス。水戸飛行会ノコトニ海野君カラ話ガ出デ、後チニ武石君ヨリ某新聞ニ話シスルコトニナツタ様ダ
ソレヨリ那珂川ノ渡船ヲ渡リ水戸ニ入りイバラキ新聞ニモ一寸挨拶ヲナシ水戸常磐公園ヲ見ニ時半ニテ水戸發 六時十五分上野着 七時五十五分江東橋ヨリ九時帰宅。夕食後就床

▲▼80ページ▲▼ 大正6(1917)年3月16日(金)

天気 晴

テールノ製圖ヲナシ午後製圖板ヲ千葉へ買ヒニ行ク
夜今夜ハ早ク眠ル
日中風強ク夕方ナグ

▲▼81ページ▲▼ 大正6(1917)年3月17日(土)

天気 晴

今日ハ鳥ノ囀ト植木棚、袖垣ヲツクルノニ終日カゝル 春ラシイノンビリシタ上天気デアツタ。夜アンマヲ取ル 今日一日、ノンキナ仕事ヲシタノデ運動モヨカッタ精力頭ガ非常ニ工合ヨクナツタ

大口大工青島、水上。佐野山県グレゴア。

井上長藤原、井上貞、森本藤原ノ練習。今日ハ大分数ヤレタノデ終り頃ニハ直線滑走ガ余程工合ヨクナツタ。井上長、佐野モ一二回ヅ、ヤツタ 初メテノ割合ニヨカッタ

夜皆遊ビ來リ十時迄雑談 練習ノ話ナドス

信田五平次君來 見學ヲ許ス 玉井君ノ許ヲ三人一度ニ出タトノコト

青柳某水戸附近飛行会ノ件ニツキ來ル 白戸ト想(ママ)談ノ上返事スルコトニシテ分レル
お母サン上京

▲▼82ページ▲▼ 大正6(1917)年3月18日(日)

天気 晴

今日ハ機体ノ現圖ヲ引ク

飛行界ノバチルス米澤ドコカへ行ク途中ダトテ來ル 雑談シテ歸ル

山県、佐野、グレゴア。大口、青島、大工、水上。井上長、井上貞、森本、ニサイクル。
午後風出デ練習中止セシム

▲▼83ページ▲▼ 大正6(1917)年3月19日(月)

天気 曇後雨

終日水上ノ組立圖ヲ引ク

晝食後白戸ヘドーシテ居ルカ見ニ行。過日九円持ツテ行ツタキリデモナイ頃ダガト
思ツタラドユカニ八円仕舞ツテアツタノガ出テ來タノデソレデヤツテ居ルトノコト。都筑
ノ處ヘ行キタイノダガ金ガナクテ困ツテ居ルトノコト 明日雨天ナレバ一所ニ上京仕様
ト約束シタ

今夜大口ト夕食ヲ共ニス 十時頃迄將來ヲ談シテ後格納庫ニ行ツテ見ルトダレモ居
ナカツタ。新機ニ乗ツテ乗心地ヲ味ツテ見タ

山県カバー 佐野テール。井上貞機体金物。大工一人水上 青島大口水上。

▲▼84ページ▲▼ 大正6(1917)年3月20日(火)

天気 雨

切抜ヲ讀ミ九時二十二分ニテ上京 白戸ト汽車中ニテ一所ニナル。タンバック屋ヲ請求
シボールト屋。都筑不在。キリヲ買ヒ鳥飼ニヨリタンバックトマグネトヲ貰ヒ伊藤屋ニテ
ペーパー、井上ニテテープ、鋳屋ニテ銅鋳、桜井ニテ材木、太田工場ニテハブヲ請求シテ
両国駅七時五十分發 帰宅スグ眠ル お母サン帰ツテ居タ
大工二人

▲▼85ページ▲▼ 大正6(1917)年3月21日(水)

日記 切抜 郵便ヲ整理シ今日ハ現圖ヲ引ク

山縣グレゴア。佐野、ニサイクルトグレゴア。井上機体金物 大口、青島、水上 大工
一人

▲▼86ページ▲▼ 大正6(1917)年3月22日(木)

天気 曇

朝起キテ燈明ヲ上ゲテ居ルト将校下士ノ下志津行キノ飛行機ノ内ニ台ガ見エタ

朝食後フロート型ノ材料ヲ買ヒニ千葉ニ行キ午後ハソレヲ削ラセ自分ハ機体ノ金物ノ圖
前ニカハル 鳴瀧大佐殿ガ見エタ 初見參デアッタ 二三十分見テ帰ラレタ

井上長アリ 三百円九月三十日期間年一割ノ利息ニテ借入レタ
夜山縣ノヤカマシ屋ニ付キ意見シタ。後チ大口、井上長、藤原、森本、青島等ト茶コー
ヒー等ヲノム

◆▼87ページ▲▼ 大正6(1917)年3月23日(金)

天気 晴後雨

今日ハ機体ノ金物全部ノ製圖ヲ終ル
大工一人フロートノ型ヲ作ル 山県グレゴア 佐野同ジク 大口青島コマ
夜夕食後スグ眠ル

◆▼88ページ▲▼ 大正6(1917)年3月24日(土)

天気 雨

プレーンノ金物製圖フロート
大口青島水上 大工一人水上
山県佐野グレゴア、ニサイクル 下翼右機体ノワキノ翼ノネジレドーシテモ直ラヌトノ
コトニ自分直シテヤル
夜海軍ノ教科書ヲ讀ミ眠ル
此記事三十日迄一日送り 今日ハ東京ニ行キタリ 佐野君同道 杉野中尉惨死セリ

◆▼89ページ▲▼ 大正6(1917)年3月25日(日)

天気 晴

フロート切断 現圖ヲ引キ晝食後千葉へ大口ト材料ヲ見ニ行ツタガウマイモノガナカッ
タノデ、ベ木ノ松材ダケ求メテ帰途白戸ニ立寄り自轉車ヲ借りテ帰途ニツヒイタ 穴
川ト黒砂デ二度休ンデ無事帰ツタ 初メテ乗ツタノデシリガイタクテ困ツタ。帰宅後フ
ロートノ曲木ヲ型ニベツケタ 夜ニ入りテ終ル 夕食後スグ眠ル
ガ行ク今日限り

◆▼90ページ▲▼ 大正6(1917)年3月26日(月)

天気 晴

フロート材料ヲ作ラセル 大口青島自分バツソンノ台ヲツクル
佐野製圖 山県グレゴア
夜藤原、井上遊ビニ來リ十時頃帰ル 金太郎モ來ル

▲▼91ページ▲▼ 大正6(1917)年3月27日(火)

天気 晴

大口フロート 青島同ジク 山県グレゴア
自分バツン打ヲ初メタ

晝食後藤原ノ練習ヲ見テ白戸ニ写真ヲ写シニ行ク
夜全員ヲ集メテ夕食ヲ共ニス アトニテ、坐リ相撲其他滑稽アリ 余ハ写真ヲ現像ス。
お湯デ定着シタノデニ枚ハウマク行カナカッタ

▲▼92ページ▲▼ 大正6(1917)年3月28日(水)

天気 雨後晴

午前八時起床今日ハバツン打チ
大口ニサイクルメタルスリ合セ
山県グレゴア 佐野水上金物 青島水上
夕方機体ヲハゲ

▲▼93ページ▲▼ 大正6(1917)年3月29日(木)

天気 晴

バツン打チ
グレゴア發動機試運轉 ヨク廻ル 百二十キロ引イテ居タ 後部ヲツナイデオイテ方向
舵ノキクコト丁度飯田ニ於ケルノームノ七十ノ時ト同ジデアッタ
晝食後白戸へ写真ヲ写シニ行ク 全部デ四枚取ツタ 夜夕食ヲ馳走ニナリテ帰ル。白戸
借金不調 五十円ダケ明日立替ヘルコトニシタ
帰宅後現像シタ 皆ヨク写ッテ居タ

▲▼94ページ▲▼ 大正6(1917)年3月30日(金)

昨日ノ仕事ハ本日分ナリ 一日不明
信太郎此頃ハ手ヲ自由ニ動かスト共ニ相手ニナレバ笑ヒモシヤベル様ニナツタ

▲▼95ページ▲▼ 大正6(1917)年3月31日(土)

天気 晴

午後少シ風出ツ
バツン打チ終日 夕方機体ハゲ
写真ヲ焼付ヲシタ
大口フROOTノ前端ト機体ハギ
青島プレーン中ノ木トアールバツン
夜プレーンノ布ヲ勘定シタ

◆◆96ページ◆◆ 補遺

三月
グレゴア完成ス
水上機設計成リ製作ヲ初ム
台湾飛行ニツキ千五百円前金ヲ請求 成可ク不調ヲ願フ
沢田中尉八日惨死 杉野中尉二十四日惨死
井上長ヨリ二十一日三百円借入
三月十日
青島入所

◆◆98ページ◆◆ 大正6(1917)年4月1日(日)

天気 晴

風静カナリ 午後少シ出タレ其後ヤム
晝前矢野、利根、塚本、外二名來場。午後風止ムヲ待チグレゴア試験ス 先ツスローニ
テテールヲ下ゲ走り次第ニスロットルヲ引キテールヲ上ゲ七分位ニテ走ルニ速力ステキニ
早ク少シ昇降舵ヲ水平ニスレバ機ハステニ飛揚シテ後部下ガラスウント下ゲテモ尚上昇
ノ気味アリ スローニシテ着陸。帰リモ同様ニテ、テール重スギルニ付一度角度ヲツケヤ
リ直ス 尚テールヘビーニテ 水平ヨナルト舵ヲ下ゲ居ルニモカ、ワラズ上昇力強ク五百米
バカリ直線ニテ着陸 帰リモ同道 下ルニ困難ニツキプレーンノ角度ヲ減ジ上翼ヲ二寸
バカリ後二下ゲルコトニ決シテ中止ス 先ツ上リ過ギル位ニテ安心シタ
藤原井上ヨリビール一打來ル 夜皆ニテ祝杯ヲ上グ。夕方一青年東京ヨリ徒歩ニテ來
ルヨリ飛行前ノ状況ヲ話シ將來ノ方針ヲ教ヘ汽車賃ヲ與ヘテ帰京セシム

◆◆99ページ◆◆ 大正6(1917)年4月2日(月)

天気 晴

バツン打ち。アールガ八本間違ッテ出来テ居タ
山県佐野グレゴア
青島井上ガソリン買ヒニヤル

◆▼100ページ◆▼ 大正6(1917)年4月3日(火)

天気 曇後晴

今日ノ試験ハ仕事ノ方ガ間ニ合ワナカッタ。午前中一寸製圖ヲナシ、千葉ニ行クベク停車場へ行ッタガ汽車ガ出タ後、デアッタノデ麥畑ヲ散歩シテ帰り下ノ飛行機ヲ一寸直シ白戸ノ宅ニテ晝食後散髪ニ行ク 出来上ル頃大口ト森本來 千葉寺ニ行ク 桜ハマダ早カッタ 附近ノ風光モヨクナカッタ 本尊ハ觀世音デアッタ お参リヲシテ大イチヨウヲ見帰途ポツリ、雨降ル 汽車ニテ帰ル 四時二十分ガ出タアトデ五時二十分ニ乗ル 待ツ間科學世界ヲ讀ム

◆▼101ページ◆▼ 大正6(1917)年4月4日(水)

天気 晴

ブレーン金物全部製圖シ終ル
大坂ヨリ心配シテ手紙ガ來タノデ現況ヲ報知シテヤッタ
原ボールトヤ送金 山田ヨリ鋼板來ル

◆▼102ページ◆▼ 大正6(1917)年4月5日(木)

天気 晴

大口休ミ

佐野、山県、井上水上金物。青島機体削リ

自分アールヲ打ツ

午後白戸ノ妻君來 夕食後十一時帰ル。宮野、田村ノ料金ノ件ニツキ話シアリ イツレ明日行クコトヲ約シタ 尚自分ノ考ヘデハ田村ガ居テハ宮野ガ練習シナイコトハ明カナノデ此際田村ヲ一時帰ス方法モ或ハ一法ナルベシト云ツテ居イタ スベテハ白戸ト話シシナケレバハリイケナカロート思ツタ

◆▼103ページ◆▼ 大正6(1917)年4月6日(金)

天気 曇リ

六時起床 今日ハ神様ノ火打金ガ飛ンダリ試験スベクプロペラを廻シ初メルト中々カ、

ラナイノミナラズ手デ少シカケタリ尚目鏡ヲカケルト玉ガハツレテ落タリ色ンナコトガ
アツタノデ気ニシタガ一回直線ヲヤツタ 處ガマタ後部ガ輕イノデテールヲ一度角度ヲ
付ケヤツト一廻リシタガ手ガ痛カッタノデプレーンヲ下ゲルベク分解シタ 山県買物ト
下ノ飛行機シラベル爲メ東京ヘヤル
自分ハ白戸ニ行ク 何事モナクツマラナク帰ル

▲▼104ページ▲▼ 大正6(1917)年4月7日(土)

天気 雨

メンスパーヲ打ツ 晝前阿部君來 帰宅 晝食ヲ共ニ白戸ノ写真ト、株式会社創立
趣意書ノ原稿

スミス來着後ノ工夫等ヲ計リ五時三十七分ニテ帰ル
ニサイクル分解シピストンノ目方違ヒ過ギルノデ平均セシムベク藤原自カラ穴ヲ開ケタ
ルニツヒニ一個破ツテシマッタ 決(ママ)局神戸ヘ一度帰ツテ金ヲ持ツテ來ルトノコト 其
間二井上君ガピストンヲ直シニ東京ニ行クコトナリ神戸迄ノ旅費十五円貸シテヤル

▲▼105ページ▲▼ 大正6(1917)年4月8日(日)

天気 曇風強シ

六時半起床 メンスパー打チ終日
佐野井上金物 山県グレゴア。森本ノリネリ
藤原ヨリ電報來ル 明日帰ル宜シクタノムトノコト
夜井上長ヨリロットノメカタ計ツテ呉レトノコト電報來ル
大タンバックヲ飯田ヘ請求ス

▲▼106ページ▲▼ 大正6(1917)年4月9日(月)

天気 晴

七時起床 メンスパー全部打チ終ル 青島フロート 山県佐野井上金物
井上長午後帰ル
大口休ミ
おナホ父危篤ニツキ帰り來ル
白戸飛行機ニテ來ル プラッグ一個牽引計回轉計持ツテ帰ル

▲▼107ページ▲▼ 大正6(1917)年4月10日(火)

天気 曇少雨

お晝頃飛行仕様ト思フト雨ガ降ツタノデ止メ
春子夫人來 終列車ニテ帰ル 色々ナモノヲ貰フ
青島フロード 大工一人 佐野、山県、井上、金物 大口休ミ
藤原夜オソク帰ル

自分ハ夜上總ニ行キテ泊ル 父危篤 十一時ツヒニ死亡ス 十時頃床ニ入りテタレモ起コ
シニ來ナカッタノデシラナカッタ
きん姉ヨリ手紙來 ヤハリ色々心配シテ呉レテ居ルラシイ 多謝々々

▲▼108ページ▲▼ 大正6(1917)年4月11日(水)

天気 晴

風ヤ、アツタ 午後ナイダ 自分ハ業ヲ休ム
大口休ミ 山県佐野金物 井上手ツダイ
大工二人 夜通夜ニ行ク 二時頃床ニ入ル

▲▼109ページ▲▼ 大正6(1917)年4月12日(木)

天気 曇少晴

七時起床 大工一人格納庫ヲ時々見廻リ。今日ハ休業。格納庫モ半日ニテ休ム。藤原
君晝頃帰り來ル。岸工場ニテ原君ヲ頼ンデヤツテ貰フコトニナツタトノコト スグ又帰ル
午後三時頃葬送ヲナス 終ツテ夕方、庭ニ池ヲ作ル
今朝篋ヨリ調金デキヌ○六ゲツクルカスヘントノ電アリ 三日付手紙見ナイラシイノデ
ニヒクワシクテダシタト返電 十二時過ぎ打ツ

▲▼110ページ▲▼ 大正6(1917)年4月13日(金)

天気 雨

昨夜ハ随分ヨク眠ツタ
今日ハ終日ブレン組立ヲヤツタ ソレデモ三枚残ツタ
大工一人お茶過ギヨリ新ガ來テ手傳ツテ呉レタ 中々カワイイヤツダ
夜夕食後スグ床ニ入ツタ

▲▼111ページ▲▼ 大正6(1917)年4月14日(土)

天気 曇リ

今日モ終日プレーン 上翼ヲツナイデ見タガ中々大キナモノデアッタ
大口休ミ 山県、佐野金物
大工一人

發信山田へ鋼巻板五百本 六分パイプ四本
酒井庄太郎 コーパルワニス、エガロンドライヤニ張注文セリット聞セ

▲▼112ページ▲▼ 大正6(1917)年4月15日(日)

天気 曇少雨

大工一人メンプレーン出來

井上、森本、五平、宮内、メンプレーン木捻入レ 青島フロート 山県、佐野金物。自分
エレロンテール、エレベーター
夕食後八時就床

發信 佐々木、竹島、山中傳造、渡辺、宅、丸善

▲▼113ページ▲▼ 大正6(1917)年4月16日(月)

天気 曇後晴

朝大雨デアッタガ後晴レタ

テール、エレロンヲ作ル

井上以下プレーン。佐野、山県金物。青島フロート

今日現父ノ一七日デ夜上總屋へ泊リニ行ク

▲▼114ページ▲▼ 大正6(1917)年4月17日(火)

天気 曇少晴

テールトフロート

佐野山県金物。井上東京へヤル 外ノモノプレーン

青島フロート

井上長へ井上ニ手紙ヲ持タセテ○印想(ママ)談ス 夕方返事ヲ持參帰ツタガ藤原君ニ立
替ヘタトノコト

お晝前鳥飼君來 大口ガ藤原ニ鳥飼ガ僕ノ飛行機ヲタゞノ様ナ値段デ買ツテ高ク賣
リ付ケタト云ツタノガ元デソレヲドコカラ聞イタカ一人ノ豫備中尉トカガ鳥飼ノ處へ無
心ニ行ツタ處ニ丁度刑事ガ居合ワセスグ連レテ行カレタトノコト 其ノ爲メ大口ニアマリ
おシヤベリヲシナイ様ニ云ヒニ來タノダトノコトダガ僕ニタノンデ其儘帰ヘタ

巢鴨ノお栄サン見エお晝皆千葉へ行ツテ居ナカッタノデ随分困ツタ。終列車デ帰京セ

ラル 信太郎ノお祝ヲ貰フ

▲▼115ページ▲▼ 大正6(1917)年4月18日(水)

天気 晴

時々曇ツタガ近來ノ先ツ好天氣

仕事ガ一向手ニツカナイノデ白戸ヘ行き様子ヲ見ルニ、トナリデ金ガ出來ナカッタトノ
コト

東京ヲ行カウト思ツタガ白戸ガ花ヲ見ニ行カウト云フノデ猪ノ鼻山カラ千葉寺ニ行ツ
タ モーオンカッタガ葉桜ニ雪ノ如クチリシイタ花ガ実ニヨカッタ ソレカラ活動ヲ見テ、
無イモノ同志ノカラ景氣ヲツケルベク加納屋ニ行ツタ。去年海氣館デ一寸會ツタツバメ
トカ云フ女ヲヨブ。ナンデモアノ二三日後チ僕ニドートカト新聞ニ出サレタノ
ダソーダ 今日初耳デアッタ 女ハ先ヅ上等ノ部デアロー 十時頃迄遊ンデ帰ル
愉快デアッタ

▲▼116ページ▲▼ 大正6(1917)年4月19日(木)

天気 晴

昨夜ノ酔デ少シ工合ガ悪ルカッタ、ガ金ヲツクル爲東京ヘ行ク 九時五分稲毛發 矢野
君ニ立寄り岸工場ニ行キ井上宗里君ニ會フ メーア、マグネト丁度チャージ終ツタ處ダ
トノコトデア受取ツテ鳥飼ニ行キ話シス タチマチ承知シテ呉テ七十円ダケ借り入レタ。
二ノ橋ノポールト屋ニ立寄り芳賀、井上、ヲ訪フタガ不在 新宿ノ飯田ニ行ク 丁度今
小包デ半分ダケ送ツタ處ダトノコト 帰途藤原ヲ訪ネタガ不在 鳥飼ニ行ク 丁度玉
井君モ居合ワセタ食ヲ馳走ニナリ八時頃出デ九時兩國發ニテ帰稻ス

▲▼117ページ▲▼ 大正6(1917)年4月20日(金)

天気 晴後曇リ

朝オソク迄寢タ 今日ハ阿部ガ來ルト思タガ來ナカッタ

神田ノお母さん來 今日ハ天氣モヨカッタノデ機ヲ引出シタ 一廻リツヽ二回ヤッタガマ
ダ前ガ軽イノデ翼ヲ少シ下ゲルコトニ決シタ

後チ久シ振リデ海ニ這入ッテ沖ヘお母サン等ト貝掘リニ行ツタ
青島驗(ママ)查ノ爲メタ方出發ス

▲▼118ページ▲▼ 大正6(1917)年4月21日(土)

天気 晴

四時式十分女中ヲ起シ仕度ヲサセタガソレデモ出発ハ八時頃ニナツタ。佐野、山県、井上、五平、森本、宮内、自分、七人デ先ヅ曾我大観寺ニ向フ。途中白戸ヲサソツタガマダ寝テ居タ

田ノアゼデ小フナヤハヤヲ取ツタガ入レ物ガナクテ大観寺ノ池ニガシテヤツタ。此處デ玉子ヲ喰ヒ赤井ヲ経テ誉田ニ向フ。大観寺ノウソ有名ダトノコトデアツタガ随分沢山居タ。自然ノ鳥類ノ自由ナル飛行振りニアカヌ眺メデアツタ。誉田停車前ニテ晝食。白井ヨリ高根ニ出ル筈ヲクネ、ト辺ナ處ヲ通ツテ途中写真ヲ写シ平山千城ヨリ千葉縣立病院前ニ出タ

六時半帰宅。黒砂ヨリマラソソヤル。山県一着。井上二着。自分三着。他ハ途中でテ歩キ出シタ

▲▼119ページ▲▼ 大正6(1917)年4月22日(日)

天気 晴

今日ハ海岸ハ随分ニギヤカデアツタ

午前中手紙ヤラ切抜整理ヤラヲナシ午後カラグレゴアノ角度ヲハカル處へ白戸來リタ。食後帰ル。元氣ノナイコトオビタ。別ニ用事デモナカッタ

夜佐野ニ佐友會員へノ依頼状ヲ出サセル。自分モ書ク。藤原君ノ勘定ヲシタラ二十円余アツタ。十一時半床ニ入ル

筏、柳原、神永、山田、塩尻、吉村、發信

前中、岩崎、佐渡島、西塚、黒川、田中、吉田京、沢村、坂口、吉田勝、戸次、植田

▲▼120ページ▲▼ 大正6(1917)年4月23日(月)

天気 晴

風ヤ、アリ。グレゴアプレーンニ寸下ゲル。角度四度ニ三分ニナル

明日スミス見物。自分ハヤメテ他ノモノヲヤルコトニシタ

夜夕食後眠クテスグ寝タ。藤原、井上君モ來テ居タガ話モ出來ナカッタ

▲▼121ページ▲▼ 大正6(1917)年4月24日(火)

天気 雨

終日雨。スミス中止

フロート取付金物漸クキマル。製圖ヲナシ山県ニ渡ス

山県グレゴア、佐野プレーンツキ合セ。大口フロート

▲▼122ページ▲▼ 大正6(1917)年4月25日(水)

天気 晴

今日ハスミスヲ見ルノデ皆東京ニ行ク 井上下五平方残ル
晝迄仕事ヲナシ午後カラ五月ノボリヲ買ヒニ千葉へ行ク 風ガ強カッタ

▲▼123ページ▲▼ 大正6(1917)年4月26日(木)

天気 晴

ハシドルトプレーン前端ノ金物ヲ製圖シ千葉へ注文ニヤル 二円余リトハ安スカッタ
プレーン半分張ル 青島帰ル 大ロトフロート 山県金物 佐野プレーンツキ合セ
今朝久シ振リデ浅間様へお参リシタ
藤原今日ジヤンプ二回バカリヤッタ
酒井へコーパルワニス請求

▲▼124ページ▲▼ 大正6(1917)年4月27日(金)

天気 晴

八時四十五分ニテ上京 スグ鳥飼ニ行キ金ノ想(マ)談ヲナス 百円ダケコサエテ貰フコ
トニシタ 今日ハ五十円貰ツテ行ク筈ノ處三十円ダケシカ出来ナカッタ
晝食ヲ馳走ニナリ阿部君ヲ尋ネ四時頃迄雑談 後鳥飼ニヨリ三十円ダケ受取り上野
ノ藤屋ニ藤ヲ注文シ一円渡シ帝国館ヲ見テ山田ニ行キ勘定ヲ延バシテ貰ヒ、ピヤノ線
ヲ買ヒ帰稻ス

▲▼125ページ▲▼ 大正6(1917)年4月28日(土)

天気 雨風曇リ後晴

今日ハラジエターノ製圖ヲナシ、エレベーターヲ造ル
井上君ノ妻君藤原君ノ妻君モ來タ

▲▼126ページ▲▼ 大正6(1917)年4月29日(日)

天気 晴風強シ

七時起床 佐野、藤原ト上京 鳥飼ニ行ク 不在 藤原ト分カレ、金物ヲ買ヒニ行キ帰
ル マダ帰ラズ 上野へ藤ヲ取りニ行キ晝食ヲナシ帰途佐野ヲ紀山堂ニ送ル 鳥飼居ル

玉井來ラズ 四十円ダケ借リル。鋌ト木捻ヲ買ヒニ行ク。ラジエター着。鳥飼氏ニ依頼シテ帰ル 五時兩國発帰稲

▲▼127ページ▲▼ 大正6(1917)年4月30日(月)

天気晴

午前中風アツタガ次第三ナイデタ方無風ニナツタ

機ヲ引出シテヤル 二回ニテ着陸シタガ二寸下ゲナイ前ト大シタ変リガナカッタデテ
ールニ一度角度ヲツケテ又ヤツテ見タ ヨホドヨクナツタガマダ前ガ軽ルカッタ 寒川ニ
白戸ヲ訪問シ小円ト八字型ヲ畫キテ帰リ山ノ上ヨリボールプランシタガ急角度ニナラ
ナカッタ 前ガ軽イセイデアロー 夕食後毛色々考ヘテ見タ ヤハリモーシヨンプレーンヲ
後二下ゲナケレバイケマイ

利根君ヨリ飛行会ノ件ニ付キ今夜行クカラ在宅タノムトノハガキガ來タガ人ハ來ナカッタ

▲▼128ページ▲▼ 補遺

四月一日グレゴア試運飛行 三十日モ同ジク

今月末大ニ苦ルシ 鳥飼氏ヨリ借リテ之レデ節句モ出來ソーナリ

四月十日午後十一時上總屋父死ス

▲▼129ページ▲▼ 五月

今月中ニ水上完成 巡回ニ出立ノコト

▲▼130ページ▲▼ 大正6(1917)年5月1日(火)

天気晴

好晴デアツタガタ方タ立ガアツタ 雷モ随分ヤツタ

グレゴア、プレーン三寸下ゲタ。午後水上機体 大口休ミ 今日ハ大掃除デ井上ト森
本宅ヲ手傳フ。鳥飼氏來 二十円持ツテ來テ呉レタ

午後伊達サンノ息子トカ云フノガ來タ。飛行機ノ練習ガシタイノダソウダ。買フコトハ
シナイラシイ。話ノ様子ニヨルト満州デナニカヤツテ居ルノデソレニ必要ナノダソウダ

二人バカリ練習シタイトノコト 僕ノ方ハ現在ノ状態ヲ有ノマ、話シ白戸ノ規案書ヲ見

セ自動車ニテ同道シタガ白戸上京シテ居ナカッタノデ飛行機ダケ見セテ帰ル。僕ノ飛行機ノ飛ブノヲ見タイトテ待ツテ居タガタ立ガ來テオジヤン
今朝八五時二起キタ

◆▼131ページ◆▼ 大正6(1917)年5月2日(水)

天気 晴

今日ハ來客デーデアッタ 白戸ガ來タ 村松へ明日運動ニ行クトノコト。阿部君ガ大藪ト云フ見學生ヲ連レテ來タ 伯父サンガツヒテ來テお土産ニ五月カザリヲ貰ツタ ソコハ利根君ガ來タ 明日三浦將軍ト外二人連レテ來ルトノコト 飛行學校ニ式三万、工場ニ五万位ノ金ガ出ルノダトカ大分大キナ話シデアッタ。アトエ東京日日ノ千葉支局員ガヤツテ來タ

午後風強クナル 大口青島フロート 井上、森本、プレイン 山県、グレゴア、佐野水上機体 自分方向舵トキール
夕方カラピロンノ材料ヲ買ヒニ千葉ノ材木屋へ行ク 八時帰宅 随分腹ガ空イタ
兄ト宅へ手紙出ス
スミス君大坂飛行ノ時宅ノ大花環贈ルコト

◆▼132ページ◆▼ 大正6(1917)年5月3日(木)

天気 晴

五時半起床 飛行機ヲ出サセ七時頃食前ニ一回飛行シタ 少シ前ハ軽イガモ一楽ニナツタ 少シ左ガ重カツタ 千葉町ヲ訪問シテ帰ヘツタ。プレインノワイヤーヲツクル。山県グレゴア手入レ 佐野機体。大口フロート。青島、テール材料

十時頃大江、山口ニ氏ト利根、塚本、運轉士榊原ト來ル 海岸デ穴川、検見川等ヲ飛行シ、バンク、波状、ローリング等ヲナシ着陸 速力ハ随分早イガカーブスルトグット下リ過ギルノデ少シ角度ヲ増サナケレバイケマイ
夕方千葉へ買物ニ行ク

◆▼133ページ◆▼ 大正6(1917)年5月4日(金)

天気 曇後雨

五時起床 浅間神社参拜。井上ヲ連レテ上京ス
井上三神田、巢鴨、へ祝ヲ持タセテヤル。宮口ニ行ク。ボールトヲサラエテ帰ル 加藤ニ立寄り、二ノ橋ノボールト屋ニ行キ新宿ニタンバツクヲ請求シ鳥飼ニ帰ル山県政夫君ト梁瀬ニ行キ、寓(ママ)然杉山君ニ會フ。岡君ノ帰リヲ待チマグネト聞合ス 百五十円ノ由

山県君ニマカセテ鳥飼ニ寄ル マダ羽田ヨリ帰ラズ 神田浅野ニ行き桜井ニヨリ銀坐ニテ買物ヲナシ夕食後鳥飼ニ行ク 帰ツテ居タ
玉井君ノ公式試運轉ガアッタトノコト 飛行記者倶楽部員ヲ全部招待シノームニテ三人乗テ飛ンダ由 一三二回旋回飛行後宴會アリ土元家ノ紅娘ヲ來タ由
ボツツシユ、スリップリングガ動イテ居ルノデ渡シテ帰ル

▲▼134ページ▲▼ 大正6(1917)年5月5日(土)

天気 曇リ後晴

朝寢床ニ居ル間ニ屋根ノ上ヲタレカ走ル様ニ音ガシタラ瓦ガ落タノデアッタ 朝食ニハシガ一本折レタ 夕食ノお飯ヲお芳ガ煮ソコネテシマッタ。お祝ノ日ニエソギデモナカッタ 夕方上總屋ニ一寸行キ帰リニ白イ複製機(羽根ダケシカ見えナカッタ)ガ電線ノ上ニ宙返リシテ居ルノガ見エタ ホソノ俊(ママ)間デアッタ ハット思トモー見えナカッタ 目ノ工合カト思ツテマバタキシタガヤハリ見えナカッタ マボロシトハコレデアロー 凶カ吉カ、斯克ノ如ク近ク宙返リ得ルトスレバ吉デアロー。晝ノ宴ハ土地ノバーサン連デ歌ヲ歌ツタリニギヤカデアッタ 夜ハ白戸ガ遊行シテ居ナイノト井上藤原ガ東京へ買物ニ行ツテ帰リガ間ニ合ワナカッタノデ随分サミシカッタ 其上大口ガ夕方初メル頃カラ千葉へ買物ニ行キツヒニ三時間余モ帰ラナカッタノデ來ナカッタ 人ヲ馬鹿ニシタヤツダ
阿部ヨリ上海飛行有望委細又トノ電報ガ來タ

▲▼135ページ▲▼ 大正6(1917)年5月6日(日)

天気 曇少雨

今日モ大口ツヒニ來ラズ 自分大ニタラク 結果仕事ハ大ニカドツタ。目方ヲカケタ 百六十貫以上ニナリソダ 山県水上金物。井上プレーン 佐野機体 青島同ジク 昨夜阿部ヨリノ電報ニ対シ手紙ガ來タ 同時ニ飛行協會カラモ來タ 同ジ意味デアッタ 阿部ハ兎三角交渉ヲ開始スベク先方へ打電シタソダ

▲▼136ページ▲▼ 大正6(1917)年5月7日(月)

天気 晴

今日ハ天候ノ定マラヌ日デアッタ 日ガ照ツテ雨ガ降タリ雷鳴ガシタリシタ フロートノリベットピロン健(ママ)設。山県、井上長、青島ニサイクル。井上、プレーン張リ 大藪帰稻シテ井上ヲ手傳フ 大口休 信田自分ノ手傳ヒ

▲▼137ページ▲▼ 大正6(1917)年5月8日(火)

天気 晴後風

ヒロニ風速計ヲ取付ケ十一時六分發ニテ上京ス お母サンハ兩國ヨリ神田ニ行ク 自分ハ渡辺ニ行キ矢野(弟)君ニ色々聞イテ帰途向島ヲ徒ニテ晝食ヲ鳥安ニスマセ當間ニテラック、パテヲ買ヒ、浅野ニシナ二十六枚注文シ梁瀬ニ山県政夫君ヲ訪フ 岡ノマグネトコトワツテ呉レトノコトナリシ由 自動車ニテ鳥飼ニ行ク 不在 切抜ヲ讀ミ、日比谷ニツ、ジヲ見テ帰ル。ビールヲノム處へ帰ル マグネト新品ト取替ヘルコトヲヨク頼ムラジエター十日頃出來ル由 九時出タガドーモ帰ルノガオックーニナツタノデ吉原ニ行キ君津ニ紫君ヲ買フ

▲▼1388ページ▲▼ 大正6(1917)年5月9日(水)

天気 晴後曇リ

七時起床 平野デ朝食 九時三十分兩國發ニテ帰稻
青島フロート 山県グレゴア 一度角度ヲ増ス
佐野機体 井上長宮内、ニサイクルプレーン張り

▲▼1399ページ▲▼ 大正6(1917)年5月10日(木)

天気 晴

北風ハゲシクプレーンヌレズ
機体ノ足 佐野スタンション 井上宮内プレーン張り 山県ニサイクル機体 青島、大藪フロート 井上東京行き

夕方風呂ニ這入ツテ居ル處へ車ガ迎へニ來テ白戸ガ四時頃帰ツテ來タソダ。行ツテ見ル 若松一ヶ所六百円デ出來タソダ モ一ヶ所作ルノデ又明日ドコカ水戸方面へ出懸クルトノコトデアッタ 上海飛行ニツキ、一人デハ心細イカラ一所ニ行ツテ呉レト云ツテ居タガ、ソレハ僕ノ方デスデニ阿部ガ交渉ヲ初メタト云ツテ居イタ
帰りガケニ都合ガヨカッタラ一所ニ行ツテ呉レナント云ツテ居タ 自分一人ノ處へ照会(ママ)シテ來タ様ニ思ツテ居ルラシイ

山本海軍飛行中尉下志津へ見學ニ來タガ今日ハ休ミデ、タイクツダカラトテ見ニ來タ

▲▼1400ページ▲▼ 大正6(1917)年5月11日(金)

天気 晴

塗料ヲヌル アトニスダケニナツタ
機体足ヲツケル 佐野小金物 青島フロートト柱 大藪フロート 森本プレーンヌリ
山県、井上長ニサイクル 宮口フロートトニサイクル

▲▼141ページ▲▼ 大正6(1917)年5月12日(土)

天気 曇り後雨

七時起床 機体足ニ終日カゝル 青島、柱。佐野プレーン 山県ニサイクル
夜手紙ノ整理ヲナス

阿部ニ上海和歌山聞合セ。浅野板爲替附前ノ解決ツケテカラデナケラバ金ハラワヌト
云ツテヤル

▲▼142ページ▲▼ 大正6(1917)年5月13日(日)

天気 曇り

機体ノ足 お晝前カラ少シ晴レタノデプレーンニニスヲ塗ル。パラ、雨ガ降ツタリ止ンダ
リトニカク皆塗ツテシマッタ

山県ニサイクル 佐野機体 青島後部フロート

筏安太郎返信出ス

▲▼143ページ▲▼ 大正6(1917)年5月14日(月)

天気 曇り

佐野機体 山県井上長ニサイクル 青島フロート 釘箱、フロートスリザン。森本宮内
フロートヌリ。自分プレーン取付金物フロート取付金物

夕方藤原帰ル 津山ヨリ飛行會ノ手紙有リ 夕刻打電ス

▲▼144ページ▲▼ 大正6(1917)年5月15日(火)

天気 晴

六時起床 藤原來リ津山ヨリ返電アリ スグ帰レ運ブトノコト 八時五十分稻毛發

鳥飼氏ニ行キ三十円借り呉服橋ギワノ鳥屋ニテ晝食ヲ馳走ニナリ阿部ノ處ニ行キ帰途
散髪ヲナシ四時ニヤット間ニ合ヒ藤原夫妻ト三人出發ス

▲▼145ページ▲▼ 大正6(1917)年5月16日(水)

天気 晴

大坂ニテ宅へ三日中ニ帰宅ノハガキヲ出シ三ノ宮ニテ藤原君ノ妻君ト分カレ神戸ニテ
お吉ニガキヲ書キ姫路ニテ出シ十時四十分岡山着 十時五十分發津山行ニ乗ル 泊

ーイニ頼ンダ藤原君ノカバン一個ツヒニ間ニ合ワズ 一時津山着。藤原兄弟ヤ自轉車屋ガ沢山來テ居タ。スグ曙旅館ニ入り晝食 ソコデ藤原ヨリ一應話シヲナシ想(ママ)談中我等ハ飛行場ヲ見ニ行 河原ト云ツテモセマク且ツ附近ガ山ガ近イノデお話ニナラナカッタ ニケ所見タ内デ天神橋ギワガ一番マダヨカッタ 帰途稲垣式ノ飛行機ヲ見ル ハンドルヤ金物ハニツケルメツキシテ立派デアッタ 機体ナドモ後部迄檜ト樟子ノ五枚ハギデ丁寧ニ出來テ居タガ足ノツケ根カラアトガスデニダレテ居タ 一ツジャンプ、スレバ折レソウデアッタ 玉井君一所 稲垣氏ノ父君ニ
(390ページへ続く)

▲▼146ページ▲▼ 大正6(1917)年5月17日(木)

天気 晴風ナシ

五時六時二回便所ニ行キ又眠ッテ八時十五分起床 太陽ヲ讀ム 十時頃飛行場トシテゲンゲ畑ヲ見ニ行ク 山ノ下デアッタガ今迄ノ内デ一番ヨサソウデ之レニキメタ 二日間ヤツテ呉レトノ説モアッタガ藤原ノ弟ガ力デ一日ニナッタ 金六今日ツヒニ持ッテ來ナカッタ

夜藤原ト平七ノ主人ヤ夫妻ヤ小供ト輕業ヲ見ニ行ッタ 十時頃帰ッテ今日買ッタ大西郷ヲ讀ム

▲▼147ページ▲▼ 大正6(1917)年5月18日(金)

天気 晴午後少風雨アリ

今朝來大西郷ヲ讀ミツゞケル 晝前藤原ヨリ電話アリ 助手ノ手當ガ多イノ飛行機ガ飛バナカッタラドウノト云フノデシヤクニサワツテタマラズ平七ニ行キ藤原ヲサケテ主人ニ僕ハ自分ノ仕事ヲナゲウチ知ラヌ他人ニ金モウケヲサセル爲メニ來タノデナイ。眞実ノ実費ダケヲ出シオシム様ナ又興行的ナ飛行ハ出來ル筈ガナイト云ヒ後又藤原君ノ弟ガ僕ニ何ニカ云フトシタノデ其事ヲ話シタ結果漸ク興行師ヤ玉井飛行側ヲ断然手ヲ切り眞ノ兄弟ガ藤原ヲ後援スルト云フコトニナッタノデ余モ又金ノ事ヲアマリ云ワズ七時半發間ギワニ漸ク百円ダケ受取ッタ アトハ明日最(ママ)非送ルト云ツテ居タ 神戸ノ自轉車屋ト共ニ帰ル 大西郷ヲ讀ミ大ニ得ル處ガアッタ。ソシテ今度ノ津山行キニ大ニ悔ル處ガアッタ 今少シ前ニ今ノ書ヲ讀ンデ居タラ僕ハ断ジテ來ナカッタモノヲト思ッタ 午前二時頃吉、大口、鳥飼ニハガキ出ス

▲▼148ページ▲▼ 大正6(1917)年5月19日(土)

天気 晴

六時梅田着 七時頃帰宅 入浴 朝食 竹島二行 天王寺ヨリ電爲替ニテ百円宅ニ送
リ西ノ内ニ行キ晝食ヲ馳走ニナル 午後父ト喜代市兄ト博覽會ニ行 高左右氏ノ作ッ
タ中島式飛行機ヲ見ル 稲垣ノニヨク似テ居タ タゞテールガナカッタ 上翼ハ出テ居ル
ノガフランカンデ下カラ丈デアッタ

夕食ハ裏ニテ兄ト父ト姉トデ喰フ處へ山本ノ伯父「政ト云フ人ヲ連レテ來タ 大坂ニ於
ケル飛行會デモーケ様トノ相談デアッタガ金主ガアルカラトテコトワッタ 十一時床ニ
就ク

▲▼149ページ▲▼ 大正6(1917)年5月20日(日)

天気 晴

八時起床 鳥飼ニ打電 佐々木ニ行キ帰ッテ大坂ニ飛行場設置ノ主意書ヲ書ク 晝前
號外アリ 玉井君芝浦ニ墜落惨死スト トードーヤッタ カワイソウニ彼レコソ實際苦シ
ミヌイテ死ンダノダ 夕刊デ見ルト翼ガ折レタトシデアッタ

午後工場ニ行ク 六時ヨリ菱間(凶形本文参照)ニテ戸次、河野、坂口諸君ト夕食ヲ
共ニシ新世界ニテ二次會ヲナシ夜十二時過ギ帰ル 鳥飼ヨリ返電アリ二〇〇クル都合
ヨイダケ送レトノコト 今日來タ百円ヲ明朝送ル

▲▼150ページ▲▼ 大正6(1917)年5月21日(月)

天気 晴

朝早ク○オクル旨打電シ日記ヲツケ八時ニ電送ス 後チ野島氏ヲ訪ネ三時間バカリ談
ジ佐渡島本店ニ立寄り、出デ、横町ノ洋食屋ニテ晝食 昔ヲシノビ西店ニ行キ二時間
バカリ話シテ、江戸堀ニ島津氏ヲ訪ネシ不在 大西君モ近頃ハ一ヶ月程以前ヨリ引
イテ居ルトノコトデアッタ スグ帰宅 鳥飼ヨリ電報來テ居タガ行キチガヒデアッタノ
デ其マニシお吉ニハガキヲ書キ活動ヲ見ニ行キ七時帰宅 鳥飼ヨリ都合悪イ百円送レ
トノコトニ夜兄ニ借り明朝送ルコトニス

▲▼151ページ▲▼ 大正6(1917)年5月22日(火)

天気 晴

六時起床 温泉ニ行キ朝食前二百円主意爲替ニテ送金ス 十時頃松谷延君ト博覽會ニ
行キ帰途宅ノ使ニ會フ 高左右君ガ來テ居ルトノコト スグ帰ル 稲垣氏同道デアッタ
例ノ機ヲ試験シテホシイトノコト

延君同道イロハニ晝食ニ行ク 要求ハ八日市飛行場デ試験スルコト 出來ルナレバ六月八
日九日京都デ飛ンデ貰ヒタイトノコトデアッタ 僕ハ機ハ稲毛デ試験スルコト 出來ルダ

ケ早クハスルガ期限ハナキコト 報酬ハ五六百円呉ルトノコトデアッタガモシ京都ニテ飛行
スル場合ニハ貰フト云ツテ居イタ。ソレニテ何分タノムトノコトニ話ハマトマツタ
高左右氏ト再ビ機ヲ見ニ行キ三時頃帰宅 靴ヲ買ヒニ行キ活動ヲ見テ九時帰宅
大口ヨリマグネト持チ今立ツ 藤原ヨリ早ク來テ呉レト頼ムトノ電ガ來テ居タ
十一時過ギ追雑談 兄二十円汽車賃ヲ借りテ床ニツク

▲▼152ページ▲▼ 大正6(1917)年5月23日(水)

天気 曇リ

四時起床 朝食 五時半ニテ出發 梅田着六時三十八分ニテ皆ト同車 津山ニ午後一
時着 大口貨物シラベル爲メ岡山ニテ一列車遅ル 玉井君ノ事ニツキ車中間ク。ヤハリ
機体ノ余リ弱過ギタ精デアッタ

眞下カラ電報ガ來テ居タ 今日飛ブノダト思ツテ居ルラシイ。二村カラ手紙ガ來テ居
タ

後飛行場ヲ見ニ行ク。今日ハ南風デドーモ工合ガ悪ルカッタ 夜アンマヲ取り床ニ入ル
お吉ニ手紙出ス 稲垣ノ飛行機ヲ送ルコトニツキ

▲▼153ページ▲▼ 大正6(1917)年5月24日(木)

天気 晴午後風アリ

六時起床 照文堂ガ変ナ新聞広告ヲシタトテ其ハンバクノ號外ヲ出シタリシタ
晝前ニ發動機ヲ廻シテ見タ 先ヅヨカッタノデ安心 處ガ今日ハ南風デ丁度山ノカラ
吹下シニナツテ居ルノデ明日ガ氣ヅカワレタ
夕方皆ト泉樂ヨリ城山ニ散歩 夜ハアンマヲ取りテ床ニツク

▲▼154ページ▲▼ 大正6(1917)年5月25日(金)

天気 晴

ボンヤリトシタ絶好ノ飛行日和 皆ハ五時頃ニ行ク 自分ハ六時起床行ク 機ノ組立ヲ
終リ朝食ヲナス時箸ニツイタ辻ウヲ見ルト「天ノ祐ケガアルカラ目的ハ達セラレマス」
ト云ツタ 大ニ様氣ガヨカッタ 十時過ギニ第一回ヲヤル 風ナシ 思タヨリ昇登力ガナ
カッタ 引カヘシテ東ノ方ニ向タ頃ドン、上ガツタ ワヅカナガラ北風ノ爲メデアッタ
風ハナカッタガカナリユラレタ。着陸ハ考ヘテ居タ通り速力ヲ落シテヤットオリラレタ。午
後ハ三時半頃ヤツタ 東風ガ少シ風(ママ)キ出シタ。追風デアッタガ前ヨリ上リガ早カッ
タ ソレハスグ向フニ又山ガアツタカラデアッタ 高度ハ午後ノ方ガ高カッタ 四百 風ハ
東南デ上ハヤ、アツタ 今モ山ノ上三金ヲ取ツテ上ゲタトカ色々ナコトデ随分ゴタ、シ

テ居タガ先ヅ無事ニ終ツタ。シカシ夜計算シテ見ルト、ドーシテモ百八十円ナケレバ稲毛迄帰レナイガイクラ呉レルツモリカシラ

▲▼155ページ▲▼ 大正6(1917)年5月26日(土)

天気晴

今日ハ少シ昨日ヨリ風ガアツタ 天祐ナルカナ

昨夜礼ニ來ルカト思タガタレモ來ナカツタ 十一時五分デ出發スルコトニ極メタ 藤原一人目ノ色カエテ出テ行ツタ 僕ハナニモ云ワズニ写真屋ニ皆ト一所ニ行ク 中々ヨク写ツテ居タ 十三枚注文シテ帰ル 金ガ足ラナイノデ大坂迄ノ切符ヲ買ウ 藤原君ノ妻君ヲ殘シテ出發 モー出發ト云フ間キワニ藤原一人カケツケ五十円ダケ受取ル 明日大坂ニテ會フ約束ニテ汽車ハ走ダシタ 藤原ノ兄弟其外ニモ一人モ見送リニモ來ナカツタ 実ニ義理モ人情モワキマエヌ勿論恩知ラズノ犬ニモ劣ツタヤツラバカリダ 人ノ爲メモコレカラハ、ヨク調べタ上デナケレバダメダ
飛行機ガ無事デアツタノハ何ヨリノ幸ヒダ 拂給セ清メ給エ
夜十時大坂宅ニツク

▲▼156ページ▲▼ 大正6(1917)年5月27日(日)

天気晴

温泉ニ行キ朝食 工場ニ行キ梅田へ電話カケタガ貨物來ラズ 道頓堀ヲ通りテ新世界ニ歸リ博覽會ニ入りテ高左右ノ機体ヲ見、帰宅 又調べタガ今日中ニハツヒニ來ナカツタ

夕方藤原ヨリ電報來 都合悪イ帰レヌトノコトデアツタ

夕食後兄ニ皆ヲ連レラレ遊ビニ行ク 朝千代宅ニテ一時迄サワギツメニサワイデオマケニ、宅迄大勢デ送ツテ來タ 桃太郎ガヨッパラツテヒドメニ會ツタ

▲▼157ページ▲▼ 大正6(1917)年5月28日(月)

天気晴

六時起床 温泉ニ行キ住吉ニ行クツモリノ處貨物ガツイタノデ皆ヲ梅田ニヤリ自分ハ歛業所ニ兄ヲ訪ヒ共ニ工場ニ行キ入レ場所ヲツクリ待ツ 三時頃ヤツト來タ 皆ハ四時頃晝食シテ帰ラシタ 自分ハ兄ニ金ノコトヲ頼ンデ帰ル

シバラクスト高左右君來 稲垣ガ津山ノ件ニツキ僕ノ感情ヲ害シヤシナイカト心配シテ、來タトノコトデアツタ 明陽軒ニ行キ夕食ヲ馳走ニナル

帰宅八時半 井上モ來テ居タ 十一時三十分ニテ三等ニテ出發サセタ 行キ大名ノ歸

リコジキ

▲▼158ページ▲▼ 大正6(1917)年5月29日(火)

天気 晴

六時起床 入浴後住吉神社ニ参拝 埋立地ヲ見ニ行ク 長サ八丁度千歩デアッタガ横
巾ガ中央ニ道路ガアリソレニソウテ松ガ植デアッタ。ソレハ平ラニ出来ルトシテモ二百歩
アマリヨリナカッタ。帰宅後佐渡島西店ニ見舞ニ行き、朝日新聞ニヨッタガ竹内氏ハ居ナ
カッタノデ鳴尾ニ行ク 岩名君ト三時間バカリ談話シテ帰ヘッタ ソユ朝日ノ佐々君ト
写真師トガ來タガ挨拶ダケデロモ六ニキカズニ分カレタ 何ンダカスカ又男デアッタ。
帰宅後散髪ニ行ク 六時夕食ヲ終リ兄ニ電話ニテ分カレヲツゲ七時二十二分梅田發ニ
テ出發 込ミ合ワナカッタノデユックリ眠レタ

▲▼159ページ▲▼ 大正6(1917)年5月30日(水)

天気 曇リ

八時半東京着 大分寒カッタ スグ鳥飼氏ニ行キ話シヲナス。グリーンハ鳥飼ガ買ッタコ
トニナツテ居ルトノコトデアッタ
宮口ニ行キタンバックヲイソギ阿部ニ行ク 晝食ヲ馳走ニナリ鳥飼ニ帰り二時半ニテ稻
毛ニ帰ル 四時帰宅 夕方井上長君帰ル 柳原ガ廿七日ニ來タトノコト 好男ニナツテ
居タ

▲▼160ページ▲▼ 大正6(1917)年5月31日(木)

天気 曇少雨

グリーン組初メル處へ山県帰り來リ白戸ガ會ヒタイカラ來テ呉レトノコトニ自轉車ニテ
行ク 晝食ヲ馳走ニナツテ帰り、グリーンニタンバックヲツケル
夕方井上ヲウエルド屋ヘヤル
夕食後床ニツク

▲▼161ページ▲▼ 補遺

水上完成セズ 十六日より津山ニ出發 月末帰稻 予定大ニ狂ふ

四日玉井氏のノーム公式飛行

廿日玉井氏死す

廿七日柳原來場

▲▼162ページ▲▼ 六月

水止完成不

▲▼163ページ▲▼ 大正6(1917)年6月1日(金)

天気晴

浅間神社参拝 ホールスカットノタイミングヲ圖ニ現ワシ新聞ヲ讀ミ切抜ヲ整理ス 白戸來 晝食後三時一分ニテ千葉ニ行キ梅松別荘ニテ八時頃迄遊ブ 少シノミ過ギタノデシバラク寢タ 九時帰宅後、柳原外皆ニ我飛行界ノ將來ト各自ノ方針ニ付話シテ十時過ギ床ニツク

▲▼164ページ▲▼ 大正6(1917)年6月2日(土)

天気晴

金物が漸ク夕方來タノデ今日モプレーンノ組立ハ出來ナカッタ。晝前藤原ガ池田君ト一所ニ來タ 静遊館デ晝食ヲ共ニス 金ノ工面ニ困ツテ約束手形ヲ持ツテ來タガ金高モ見ズ僕ガ持ツテ居テモ同ジ事ダカラトテ藤原ニ話シテ居イタ ソシテ都合ガツイタラ其時貰フコトニシタ 約束手形ヲ受取ルヨリ其方ガヨホド男ラシク思ワレタカラデアッタ 午後白戸來。余水上ガ大坂湾飛行ノ圖ヲ晝イタ。夜食後朝(ママ)ク眠ル

▲▼165ページ▲▼ 大正6(1917)年6月3日(日)

天気晴

時事 チャンピオン大坂東京間飛行途中四日市市附ニ着陸

今日ハ片羽根ダケ組メタ

九時頃中沢長太郎來 久シ振リニ驚イタ 晝食後カンバンヲ二枚カ、セタ。三円與ヘテ帰ス 相変ラズブラ、シテ居ルラシイ

▲▼166ページ▲▼ 大正6(1917)年6月4日(月)

天気晴

プレーン組立 スタンションヲ立テル

藤原ノ機組立出來

夜少シ酒ヲ多クノシダノデスグ床ニ入ツタ

▲▼167ページ▲▼ 大正6(1917)年6月5日(火)

天気 雨

今日ハ足ノ金物ニ一日カヽツタ

佐野スタンション出來 エンジンシートノ取付ヲツクル

昨日左ノ目ニナニカ這入ツタト思タガ今日ハマダ出ズイタクテ困ツタ 夜早ク床ニ入ル
阿部五円送ル

▲▼168ページ▲▼ 大正6(1917)年6月6日(水)

天気 晴

フロート取付ノ金物 白戸晝頃來 晝食後白戸ト一所ニ自轉車ニテ千葉ニ行き眼醫者

ニ見テ貰フ ヤハリ金クツガ黒玉ノ中ニ這入ツテ居タ ナイフノ様ナモノデ取ツタ

夕食ヲ白戸ノ宅デ馳走ニナリテ帰ル

午後鳥飼氏が來タソウダガ會エナカッタ

▲▼169ページ▲▼ 大正6(1917)年6月7日(木)

天気 晴

今日ハプレーンノ取付ヲツクル

稲垣カラ又飛行機ヲ送ルト云ツテ來タ 夜佐野ニ返事ヲ書カセタ

夕方東京金春館主佐々木氏來 仲麻君ノ手紙ヲ持ツテ來タ 弘前飛行ノ件ニツヒヒテ
デアツタ。鳥飼ニスベテ話スル様話シタ

▲▼170ページ▲▼ 大正6(1917)年6月8日(金)

天気 晴

六時起床 仕事ニカヽタガ考テ見ルト明日カラハ一寸手ガ引ケナイノデ急ニ九時二十

二分デ上京シタ 先ヅ矢野君ヲ訪ネテ雑誌ヲ一冊借り共ニ岸サンヘ行ツタ タレモ居ナ
カッタ 京都ヘ行ツタトノコト トラクターノ組立ガ出來テ居タ ヨク出來テ居タガ少シ

ツリ合ノ取レテ居ナイト思タノハ足デアツタ。矢野君ト晝食ヲ共ニ別レテ鳥飼氏ニ行
ク タ食ヲ馳走ニナル内雨ニナリ、又ソコヘ池田君ノ事デ帰ルニ帰レナクナリツヒニ泊ルコ
トニシタ

▲▼171ページ▲▼ 大正6(1917)年6月9日(土)

天気 雨

七時起床 朝食後ウエルトヲ取りニ行ク 帰リテ東北飛行ノ事、金件、マグネット等依頼シテ帰稻ス 十二時帰宅 晝食 今日ハ皆ヨク働イタノデ仕事が大ニハカドツタ

▲▼172ページ▲▼ 大正6(1917)年6月10日(日)

天気 雨

今日ハマス、頭ガ重クムネヤカタガ痛シダノデ午後白戸ニ行キ三十円借りタ 雨天ナレドモ成績ヨシトノ電報ガ來テ居タ

仁天堂ニ行ク。マダサビガ少シ残テ居ルトノコト アス來イト云ツテ居タ 帰宅 氣ガ重イノデ夜アンマヲ頼ム。九時半頃白戸ヨリ電報來 機体破損シタカラ僕ノ飛行機ヲ送ル手配タノムスヘトアッタノデ兎ニ角大坂ヘ取りニヤルカラ送り先キト日取りヲ知ラセト云ツテヤツタ

▲▼173ページ▲▼ 大正6(1917)年6月11日(月)

天気 晴

白戸ヨリスグトリニヤツテ呉レトノ返電ガアツタ コレヨリ先キ佐野ヲ出發サセタ 鳥飼ニ立ヨリ、契約出來タカ聞イタ上出立スル様云ヒツケタ テール取付中白戸ヨリ使來五十円持參シタノデ受取り、契約ノ方ガ氣ニナツタノデ東京へ行ツタトノコト チガヒニ鳥飼ト佐野ト稻毛ヘ帰ツタトノコト スグ打電シテ東京ニ來テ貰フ 自分ハ加藤ニ行キ買物ヲナシ散髪ヲス 六時頃帰ツテ來タ 契約ハマダ出來ヌガ出來トノコトニ兎ニ角八時デ佐野ヲ大坂ヘヤリ白戸ヘハ一ヶ所ダケデアトハ想(マ)談スル様手紙打電シタ。九時ニテ帰稻ス 白戸ヨリ機体オクルノヲ見合セト云ツテ來テ居タ 何ソノ事ダ 大サワギシテ

▲▼174ページ▲▼ 大正6(1917)年6月12日(火)

天気 曇リ

午前七時過ぎ起床 昨夜ハ信太郎ニ泣カレテヨク眠レナカッタ。然シ此頃ハ中々元氣ヨク今日ハ一人デモノヲ持ツテタベタガツテ仕方ガナカッタ

白戸ノ妻君晝前來ル ドーシタノカトヤハリ心配シテ居タノデスグ打電シタ 七月ヤリナオスコトニナツタトノコト 明日帰ル由

稲垣ヨリ機体昨日發送シタル由來ル

發信 佐野、鳥飼、稲垣外練習申込者三名 佐渡島

▲▼175ページ▲▼ 大正6(1917)年6月13日(水)

天気 曇り風

今日ハプレーンヲハツシテ上翼ヲツケハンドルヲツクル 夕方白戸ヨリ迎へ來り行ク ユン
ネクチングロットガ取レトナリノシリンダー内ニ這入ツテ居タソダ クランクモクルツ
タ様デアッタ 御本人ハ何ンデモナイ様ニ云ツテ居タガ中々一寸大問題ダタ。夕食後、
アンマヲ取り十時帰宅ス

▲▼176ページ▲▼ 大正6(1917)年6月14日(木)

天気 晴

今日ハ大分働イタガソレデモコレカラノ仕事ハ中々目立たナイ 午後白戸ノ妻君ト高橋
助手、政夫君ト三人來タ 夕食後帰ル
稲垣ノ飛行機ガ百円近ク運賃ガカ、ツテ居ルノデモ、ツクト云フカラ電報ヲ打ツタ 朝
佐野ニモスグ帰ル様打電シタ

▲▼177ページ▲▼ 大正6(1917)年6月15日(金)

天気 晴

稲垣ノ機体着 運賃送ル様打電 夕方又荷物中一個不足ニ付其由打電。夜稲垣ヨリ
押谷出發ノ返電アリ
夕方井上東京ヘヤル
佐野午後帰ル
山県カバー 自分フロート金物 午後USAノカーブヲ写ス

▲▼178ページ▲▼ 大正5(1916)年6月16日(金)

天気 晴

運送屋ハウルサイ程來タガ押谷ツヒニ來タラズ 余ハ一時五十分ニ乗り遅レ四時一分ニ
テ成田様ニ參詣ニ行ツタ。ソシテ水上ニツイテ寄(ママ)願シ九時ノ終列車デ帰稻シタ

▲▼179ページ▲▼ 大正6(1917)年6月17日(日)

天気 雨

機ハイヨ、第三格納庫ニ入レルバカリトナツタガ大雨デツヒニ持ッテ行ケナカッタ
お晝前押谷君來 日本飛行學校へ寄ッテタノデオソクナツタトノコト 後駅ニ行ッテ見
ルト明日ニナルト七田保管料ガ入ルトノコト ソレカラアツチコツチカケアルイテヤツト今
日ノ間ニ間(ママ)ワセタ。白戸へモ行き明日六十円借ル様頼ンデ來タ
今朝井上長君練習中サカ立ヲヤツテ翼ニ枚トプロペラ足ヲ折ツタ

▲▼180ページ▲▼ 大正6(1917)年6月18日(月)

天気 曇リ

午前鳥飼氏來 スグ帰ル
午後組立ヲナシ水ニ浮カセタ フロートノシヅミ工合頗ルヨロシク前面抵抗モ少ナソー
デアツタ タダ發動機ガ小イサク見エルノガ氣ニナツタ
夕方ビールヲ抜イテ機体ノ前ニ祝杯ヲ上ゲル 千葉ノ頭ビール五本下ゲテ祝ニ來テ呉
レタ 海氣館ノ三蔵ト令夫人トデ同ジク半打呉レタ

▲▼181ページ▲▼ 大正6(1917)年6月19日(火)

天気 雨

明日進水式ニ大口ヲ呼バナカッタト昨夜中ハ藤原ニ色々ナグチヲコボシテ居タトノコ
トニ、余リシヤニサワツタノデ上總屋ニ行キ大口ヲ一人呼ンデ以後云フコトガアレバ何ン
デモ遠慮ナク直接云ツテ呉レル様ニコトワリ尚無報酬云々ト云フタトノコトニソレモ云ッ
テヤツタ ヤツト氣ガ晴レタ 呼ビニヤツテモ來ナイシ呼ビニ行カナケレバ呼バナイデ文句
ヲ云フシ小人程度シ難イモノハナイ
午後山県ヲ東京へ使ニヤル
阿部ニ原稿ヲ送り高左右ニ稲垣ノコトヲ云ツテヤル
今日モツヒニ來ラズ

▲▼182ページ▲▼ 大正6(1917)年6月20日(水)

天気 晴

今日ハ夕方發動機ヲ回ス。アマリ早過ギテバックスルノデソレヲ直スノニ大分暇ガカ、テ
日ハ落テ仕舞タ 自分ガカーブレーターヲヤツタガ二度ハスグトマリ三度目ニ一分間位
ヤツタガバルブガ眞赤ニナツタノデ中止シ夜原因ヲ考ヘタ。オイルノ多カッタトトエーヤ
ーポートガ半バシマツテ居タノヲ知ラナカッタノデ過熱シタモノダロー

▲▼183ページ▲▼ 大正6(1917)年6月21日(木)

天気 雨

終日雨デ余六宅デ、アビエーションカラ必要ナコトダケヲ書イタ 夜アマリインキナノデ
一同ヲ集メテ酒ヲノンダ 來會者大口ガメヅラシク來タ 外ニ井上長、藤原、小出、佐
野、山県、井上、青島、信田、押谷以上十人デアッタ

▲▼184ページ▲▼ 大正6(1917)年6月22日(金)

天気 雨

朝寢テ居ル内カラ白戸ノ手紙ニテ今朝早ク來テ呉レトノコト 車デ行ク 昨夜妻君ガ
胃ケイレンデ寢ナカッタトマダ床ノ中ニ居タ 其間ニ大島屋へ買物ニ行キ、新聞ヲ讀ム
内起キテ來タ 車屋ヲ帰ヘス 後チニ話ヲ聞クト妻君ガ又分レ話ヲ持出シ千五百円ト
財産ノ半分ヲヨコセトノコト 財産ノ半分ハ困ルガ金ハアタリ前ダロー。ソレモ証書デヨ
イト云ノダカラ、イツレニシテモ、ヒステリーノ結果ダローカラモ少シオサマッタラソ
ナコトモ云フマイト云ツテタ食後帰ヘタ

▲▼185ページ▲▼ 大正6(1917)年6月23日(土)

天気 雨

朝カラキリ、ヘソノ廻リガ痛ンデツヒニ終日寢タ 鳥飼君來 晝帰ル 今日モ雨ノ爲メ
試験出來ナカッタ
夕方カラ熱ガ大分出タ 水マクラヲシテ寢ル
女中ノヨシ今日午後依願解雇

▲▼186ページ▲▼ 大正6(1917)年6月24日(日)

天気 曇リ後チ晴レ

今朝ハキリ雨ガ上ガッタ後非常ナモヤデアッタ 其中デ發動機ノ試運轉ヲヤッタ。ドー
モ調子ガ出ナカッタ。其内汐ハ行クシ、マグネトノ捻ジガユルンダノデ中止シタ
今日モドーモマダ身体ガ本モノデナカッタノデツトメテ何事ヲモ考ヘナイ様ニシタ。ソシ
テ頭ヲ丸坊主ニシテシマッタ
大坂ノ兄ニマタ金件頼ミヲヤッタ

▲▼187ページ▲▼ 大正6(1917)年6月25日(月)

天気晴

風少シアリタレドモ出シテ試運轉ヲナス。ガソリンパイプ細ク調子出デズ取替ルコトニスツヒデニ配電盤ノ凹凸ヲモ修理ス。爲メニ一日カ、ル。余ハ午後稲垣ノ飛行機ヲ部分的ニシラベテ見ル。翼ノ方ハヤ、ヨイガ機体ノ前部ガヨハイ上ニ、ハギ木ガ梅雨ノ爲メ皆ハガレテ居タノデ前部ダケヲ取替ヘネバナルマイ。押谷ニ照会セシム。夕方花ヤ大口來ル。イツニナク上気機(ママ)ナリキ。市原郡ノ伊藤小學校長來。飛行ノ話ノ外ニゴム以外ノ動力ヲ附シ滑走隔(ママ)陸スル模型ヲタノマレタ。ヒマニ研究シオクベシト考ヘオク。

◆▼188ページ◆▼ 大正6(1917)年6月26日(火)

天気晴

午前六時半起床。試運轉準備。九時頃カラ初ム。ドーモ調子出ズ初メニ配電盤ガミスシテ居タ。次ギニガソリンガ少ナクナツテ居タ。白戸ヨリ一罐借り入レヤツテ見ルニ大ニヨシ。八人ニテ押ヘ切レナカッタ。午後稲垣ノ機体ノ重量ヲ計リ其他ノ計算ヲナス。お母サン晝前小供ヲ一人ツレテ帰宅。夕方上京シタ。金ヲ十円貸。要チヤン病氣の由明日帰ルトノコト。

◆▼189ページ◆▼ 大正6(1917)年6月27日(水)

天気晴

快晴ノ好試験日和。五時半起床。浅間神社参拜。朝食後汐ノ上ゲルを待ち引出ス。今日ハ昨日程引カ上ゲズ。先ヅ牽引カヲ計ルニ三百八十八瓦内外ナリトノコトニ失望セシモヤルコトニシ走り出ス。先ヅスローヨリ次第三スロットルヲ開ク。半ヅニ達セシ頃速力カナリ出ズ。大ニ嬉(ママ)ビ全開スレバ機ハ軽クフハ、ト浮キ初メタリ。然ルニ予定ノ如ク少シ前經過ギ下ゲ舵ニテドン、上昇スルコト六年式恵美號ト同様ナリキ。カクテ沖ニ向黒砂沖ヲ直線ニ行キ發動機ヲスローニセシモフワ、シテ機ハ下ラズウント下ゲ舵ニシテヤット前ニ降ツテ行ツタ。一寸ユルメルトスグ上昇セントスル有様デアツタ。着水ハカナリヒドクシヨクシタノデ、ヘタダツタカト思ツタガ後ニキクトフロートノ後部カラゴク静カニ降りタトノコト。飛行中ハ頗ル安定アリサラニ動カナカッタ。ソシテスローニシテカライツ迄モ着水シナカッタノハ機ノ浮力ニ大ニ余リアルコトヲ示シテ居タ。帰りハ半開ニシテ滑走シテ帰ル内ニモ自然ニ離水シタ。スイッチヲキルトブレーキヲカケタ様ニスグトマルノモ陸上機トコトナツテ居タ。滑走中モ少シウネリノアル波デハ波ノ頭ヲカスルノデヒドクシヨクシタノ感シタ。

(189ページへ続く)

◆▼190ページ◆▼ 大正6(1917)年6月28日(木)

天気晴

二時半頃目醒メテカラ眠レズ五時起床 今日ハプレーンヲ八寸下ゲルベク仕事ヲナス
終日ツキキリデ差(ママ)圖シテ、ヤッタノデ大ニハカ取ツタ。夕方ヨリ白戸ニ行ク 入浴
夕食後帰ル 囲碁ヲ三回ヤツテ三回トモ勝ツ 帰り二十五円借リテ帰ル

藤原今朝妻君ヲ以テ善後策ヲ尋ネニ來タノデ兎ニ角一應鳥飼氏ニ想(ママ)談シタガヨ
カロート東京ヘヤツタ

井上長一帰京ス

◆▼191ページ◆▼ 大正6(1917)年6月29日(金)

天気晴

六時起床 井上ヲ東京へ使ニヤル。プレーン取付

稲垣ノ機体分解セシム

晝前鳥飼氏來 藤原ノ件ニツヒテハ五十馬力ノ中古ヲ一台目下交渉中トノコト

今日ハ数日來ノ手紙ノ整理ヲナシ約十一通返事ヤラ水上ノ報告ヤラヲ書イタ

夜高林畫家、小出風來君、藤原、押谷、信田等來リ遊ブ

◆▼192ページ◆▼ 大正6(1917)年6月30日(土)

天気晴

山県以下ニ水上ヲヤラセ自分ハ稲垣ノ機体改造ニ着手ス。千葉へ檜ノ注文ニ行キ午後ハ
現圖ヲ引ク 青島押谷二人ニテヤル

兄ニ長文ノ手紙書ク處へ爲替來ル 五十円アリ 先ヅ今月ハシノゲル 受取り出ス 長
文モ同時ニ出ス

昨日ヨリ信太郎熱アリ 今日モ醫師ニ行ク 三十九度アリタリト 外ニ胃ガ少シ弱テ
居ルノミトノコトニ氷ニテ冷ス

◆▼193ページ◆▼ 補遺

廿七日水上處女直線飛行ヲナス 成績ヨシ 前部少シ輕ク之レヲ直ス

グレゴア、ホールスカット共ニヨク飛ブ ナスコトスベテヨシ。カレタト思ツタ植木モ生キル。
鳥モ大ニ當タル 之レデ金サエアレバ実ニ申分ナシ

サレド金無キガ爲メ活動力ヲ盛サヲシメ生ジ身体ヲ強健ナラシメ前後ノ分別ヲ作ル

之又神意ノ御スル處？大ニ努力スベシ

▲▼194ページ▲▼ 七月

稲垣氏機体

六月二十九日ヨリ青島

六月二日ヨリ佐野

三日ヨリ山県

▲▼195ページ▲▼ 大正6(1917)年7月1日(日)

天気 晴

久シ振リノ快晴日曜ナリ一日ナリ 今日ハ大分人が出タ

稲垣ノ機体金物全部ノ製圖終ル

午後モーター 山本阿部來 試運轉ヲナス 發動機少シ引方ヨワシ 離水中々セズハナレテハツキ、ツイテハナレヤットノコトデ飛揚 其後ハ少シオサエナケレバ飛ベナイ程デアツタ 沖ヲ數回廻ツテ着水 帰リ山県ヲ乗セ發動機一寸直シテスグヤル。離水中々面倒ナリキ 飛揚後ハヤハリ樂デアツタ 左カジガ利カナイノトエレロンガ少シ小イサイ様ナ氣ガシタ。横風ニハ安定ハヨカッタ

今日ハ之レニテ終リ。丁度太田君モ來合ワセタノデ宅デサイダーヲヌク

山本君早ク帰ル

▲▼196ページ▲▼ 大正6(1917)年7月2日(月)

天気 晴後風雨

今日ハ手紙ヲ書イタリ雑誌ヲ讀ンダリシタ

信太郎熱ガ一向サメナイノデお吉ガ連テ高梨ニ今日カラ入院サセタ 記者照(ママ)待費其他ノ金借リル爲メ佐野ヲ代理トシテ手紙ヲ持タセテ下阪セシム

夕方ヨリ夜行ニテ井上、柳原トガソリン買ヒニ上京セシム。白戸、ノームニテ二回飛ンデ來タ 今夜石ノ巻へ立ツトノコト 僕トコロニモ話アッタコトヲ話シ結局白戸ニユヅルコトニシタ。阿部ヨリ成行ニヨリ手當ヲ白戸ヨリスルコトニ話シテ居ク

午後信太郎熱大分サメタトノ報告ガアツタ

佐野八時ノ夜行ニテ出發ス

▲▼197ページ▲▼ 大正6(1917)年7月3日(火)

天気 晴

お母サン朝午後 青島二回病院ニ行ク 報告ハヨイ方デアッタ 腸ヲ洗ッタソーデアッタ

今朝ハ昨日ノ婆サンガ来ナイノデ大キニマゴツイタ

今日ハ昨十一月カラノ決算表ヲ作ッタ

夜柳蔭ヲ作ッテ一杯ノム 眠クナッテスグ床ニ入ル

▲▼198ページ▲▼ 大正6(1917)年7月4日(水)

天気 曇り風

阿部カラ昨日手紙ガアッタノデ、兎三角白戸へ一度行ク事ニシタ 契約出来タ 明日十一時着トノコトニ帰リヲ待ツ間病院ニ行ク 熱ハスデニ平熱デ今日帰ルトノコトニ安心シタ 其前白戸来 ヤハリ事ハツタ方ガ便宜トノコトニ晝食後千葉ヨリ上京 阿部ニ會ヒ其事ヲ話シ帰途鳥飼ニヨリ七時半帰宅

▲▼199ページ▲▼ 大正6(1917)年7月5日(木)

天気 曇雨風

今日モマダ風ハヤマナカッタ 終日小説ヲ讀ム 時々格納庫ニ行ク 稲垣ノ金物ヲ作ル

▲▼200ページ▲▼ 大正6(1917)年7月6日(金)

天気 晴風少雨

風勢尚オトロエズ。

朝八時過ぎ市原郡ノ小學生並ニ青年團來ル 汐スデニ引キ飛行不可能 説明ヲ大口ニヤラセ不二號ニテ發動機ヲ廻シテ見セル

ハル子サン信太郎ノ見舞ニ來ラレタガ信太郎ヨクナッテ要治君ハシカノ様ナノデ連レテ帰ラレタ

午後青島ノ外全員下志津へ陸軍ノ機ヲ見ニ行ク 朝一台コワシタトノコト 夕方飛行スルノヲ手傳ツタノデオソクナツタトテ夜八時頃帰ッテ來タ

飛行将校ノ仕事振リヲ聞イタガナッテ居ナイラシカッタ。

佐野夕方前帰リ五十円ダケ貫ヒ運賃ヲ支拂シテ來タトノコト アトハスグ送ルトノコト 夜礼ヤラ請求ヤラヲ出ス

▲▼201ページ▲▼ 大正6(1917)年7月7日(土)

天気 曇風

今日モ終日吹き通シタ シカモ最モ強カッタ

今日ハ決算表ヲ清書シ雑誌ヲ讀ム 山県上京セシム 稲垣ノ金物ウエルドノ爲メ
佐野其他機体組立

▲▼202ページ▲▼ 大正6(1917)年7月8日(日)

天気 晴風

今日モマダヤマナカッタ 然シ昨日程デハナカッタ

朝白戸ノ妻カラ呼ビニ來タガ鳥飼氏ガ來タノデ照(ママ)待飛行ノ打合セヲナシホヽ十
三日ト取キメタ 後十時頃ヨリ白戸ニ行キプレーンヲ分解シ、エンジンノ変ナ音ヲ調べ
ル タ方ヤット五番ノロットノ曲ツテ居ルノガ原因ラシイノヲ發見シ分解シテ明早朝直
スコトニシタ。夜帰ル。電気ガツイテ居ナカッタノデスグ寝ル

▲▼203ページ▲▼ 大正6(1917)年7月9日(月)

天気 晴

朝カラダンヽ風ナクナッタ 浅間神社ニ参拜 練習ス 第一回單獨 此間カラ考ヘテタ
通りニヤルト離水ハ頗工合ヨカッタ。發動機ガブルヽ云フノデ一週(ママ)後着水 第二
回目井上長一同乗 二週(ママ)後着水 調子ハ頗るヨカッタノデ山縣ニ練習セシム 自
分デ滑走ダケト云フノデ安心シテヤラセル 佐野同乗 ソロヽ滑走スル内調子ガイヽモ
ノダカラ少々レバーヲ引クト其マヽ上ガツテシマッタ 約百五十米突位ニ達シテ円ヲ畫キ
着水セントスル時水平ニ、速力ナク落ちタモノダカラ水煙ガ上ガルト同時ニ逆立ニナッ
テシマッタガ水ノ中ダカラ大シタコトハアルマイト思タガシラベルト翼ガ四枚フロートガ一
個エンジンシートモ曲リ、プロペラシヤフトガ曲リ同ガイドガ破レテ居タ。丁度鳥飼氏モ
來テ居テ大變氣ノ毒ガツテ居タ
午後三時半ニテ上京 金物、檜ノ買物ヲナス

▲▼204ページ▲▼ 大正6(1917)年7月10日(火)

天気 晴

今日ハ修理第一回 エンジン豊サン主任 外機体ニカ、ル プレーンハト廻シニス。余ハ機
体ノ金物ヲ初ム

▲▼205ページ▲▼ 大正6(1917)年7月11日(水)

天気 晴

エジンホ、組立出来ル 午後兄ヨリ二百円來ル 竹島ニテ借りタル由 スグ返出ス
機体ノ金物
青島カツケ 佐野負傷ノ爲仕事出来ズ

▲▼206ページ▲▼ 大正6(1917)年7月12日(木)

天気 晴風ヤ、アリ

今日ハ鳥飼氏ガ來ルト云ノデ終日待ツタガ來ナカッタ 朝カラ少シ気分ガ悪ルカッタガ
ドーモ仕事ガ出来ナイノデブラ、スル内お晝前益々熱ガ高クナルシ、サム氣ガシダシ
タノデ熱ヲ計ルト三十八度八分アッタノデ氷リデ冷サセ高梨サンヲ呼ニヤッタ 其内
カラダ中熱クナツテ三十九度二分ニ対シタ 夕方先生ノ來ル頃ハ又少シサメテ二十八
度六分デアッタ カラダハ別ニナントモナイトノコト タゞベントウ線(ママ)ガハレタ爲メノ
熱ダトノコトデア安心シタ 夜ハ樂ニ眠レタ

▲▼207ページ▲▼ 大正6(1917)年7月13日(金)

天気 晴

今日ハ絶好ノ飛行日和デアッタ オシイト思ツタ
今日ハ体温ヨホドヒククナツタガ午後一寸上ガッタ 別ニ大シタコトハナカッタ
井上ヲ東京へ買物ニヤッタ プレーンノ布ガ一反三十円ニナツテ居タニ驚イタ 買ツテ
來ナカッタカラ古イノヲ使用スルコトニシタ

▲▼208ページ▲▼ 大正6(1917)年7月14日(土)

天気 晴

今日モースツカリヨクナツタ お祭ノコトヲ色々話シノ内トードー信太郎ノ着物ヲネダ
ラレテ千葉へ買ヒニ行ツタ 見レバヤリヲヨイノガホシイノデ、一寸八目ハリ込ダ 帰途
散髪ヲナシ帰宅
夜十二時床ニ入ツタ
夜夕食後皆ナニニ着トシャツ、下駄ヲ與へ金モノエテヤッタ

▲▼209ページ▲▼ 大正6(1917)年7月15日(日)

天気 晴

三時半起床 モーお祭りニ來ル人ハ引モ切ラナカッタ 滑稽ナノハ馬ノ背ニヤグラゴタツ

ヲニツサカサマニシバリツケテ左右ニ小供ヲ入レテ來ルノト荷馬車ニムシロヲ引キ布席ノ乗合馬車ガアツタ 千葉アタリカラ車デ來ルノモ多カッタ。ト二角今ハ駕ガナイダケデアラユル文明非文明ナ交通機關ガ見ラレタ
お晝前井上中尉來 山県、佐野、井上、藤原、ヲ陪食サセ食後海ニ行ク 余ハ宅ニ居ル夕方帰ヘル
夕方山県ヲ呼ビツケプロペラノ破片ヲ無断デヤッタコトニツキシカリ居ク

▲▼210ページ▲▼ 大正6(1917)年7月16日(月)

天気晴

佐野水上外 稲垣、青島水上バツン打チ

余カバー

余リ氣ニナツタノデ鶴代へ手紙出ス 何處ニ何シテ居ルノカ近頃サツパリ分カラナカッタ

▲▼211ページ▲▼ 大正6(1917)年7月17日(火)

天気晴

稲垣式ノ重心點ヲ計ル テール取付ケカバーヲ張ル 佐野水上

信太郎ドーモ熱ガアル様デアッタノデ朝カラ醫者へ連レテ行ケト云フノニ昨日カラお吉ガ変ニネジクレテ云フコトヲ聞カズニ階ニゴロ、寝テ居タ 何ニガ氣ニ入ラナイ知ランガ不都合ナヤツダ

▲▼212ページ▲▼ 大正6(1917)年7月18日(水)

天気曇リ

六時起床 朝一杯メシヲ喰ヒ過ギタラドーモ腹ノ工合ガ悪ルカッタ

佐野水上 山県稲垣 午後余ハ水上ノプレーンヲ組ム 午前ハメンスパーヲ打ツ

▲▼213ページ▲▼ 大正6(1917)年7月19日(木)

天気晴

水上プレーン骨組出來ル 山県稲垣 佐野フロート

兵庫縣ヨリ朴ト云フ高工機械科出身ノモノガ助手ニシテ呉レトノコトニ大坂デ會ツタ上ト云ツテヤツタ

▲▼214ページ▲▼ 大正6(1917)年7月20日(金)

天気晴

朝キリ雨ガ降ツテ居タガ後チ晴レタ

今日ハ終日井上ト宮内ヲ連レテプレーンヲヤッタ 山県稲垣式 佐野フロート 夕方、傷口ガ痛ンデナラナイト云フノデ醫者ヘヤルト此間風引イタ時汗ヲ出シタ其汗ガ這入ツテ、ウンダノダトノコト。夜イツニナク夕食ガウマカッタ

今日電燈会社ガ來テ五十燭ヲツケテ居ルノヲ目ツカリ判ヲ取ラレタノヲ井上長ト山県トガ行ツテ、返シテ貰ツテ來タ

信太郎二三日前カラ熱ガアッタガ午後カラカラダ中ニ赤クブツ、出來テイヨ、ハシカト決定シタ

▲▼215ページ▲▼ 大正6(1917)年7月21日(土)

天気晴

今日ハプレーン全部出來洗ツタヤツニゼラチンヲ塗ルトカワクト、シワダラケニナッタ 夕方右ノプレーンヲ組立ル お母サン帰ル 要チヤンハ残シテ來タトノコト。トラホームノ由 甚ドシ共ニ來 夕方帰ル

夜高梨醫師ヲ迎ヘテ信太郎診察ヲ受ク

佐野昨日ヨリ傷口ウミヲ持チ今日ハ大分痛ガツテ居タ。高梨氏ニツヒデニ見テ貰フ 明日入院サセルコトニシタ

▲▼216ページ▲▼ 大正6(1917)年7月22日(日)

天気晴

今日ハ松村ノ弟サント云フノガ見エタ 晝食ヲ共ニス アトヘ鳥飼、白戸ノ妻君ガ來タ

鳥飼ハ高岡飛行ノコトデアッタ 八百五十円 費用自分持 二見氏ヘ五分口銭 金額ハ先方承知 日取りヲ八月十二日ト云フコトニ當方カラ云ツテヤル。白戸ヨリ金空イテ居ルカラトノコトニ明日百円貰ヒニヤルコトニシタ

信太郎今日ガ峠ラシカッタ 佐野入院セシム

世ノ中ハ然シウマク出來テ居ルモノダ 機ガ破壊サレル小供ガ病氣助手ガ入院ト云フ様ナ處ヘ又一方カラハ金ヲ隔(ママ)通シヨート云ツテ來ル人モアレバ會一大會契約ノコトヲ云ツテ來ル人モアル 神意尚吾レヲ捨テズ。

ウキコトノナホ此上ニツモレカシ、カギリアル身ノ心タメサントハ今朝淺間神社前デ思ヒ出シタコトデアッタ

▲▼217ページ▲▼ 大正6(1917)年7月23日(月)

天気晴

プレーンガ、シワダラケデ困ッタガ今日ハ一枚ダケニナツテ居タ 稲垣ノワイヤーガ手
デ引張ツタダケデスポツ、トヌケルノデ全部ベメ直サナケレバナラナクナツタ
佐野今日切開シタトノコトデアツタ
夜信太郎ガシク、泣クノデ実ニ困ツタ

▲▼218ページ▲▼ 大正6(1917)年7月24日(火)

天気晴

昨夜ハ信太郎ノ爲メツヒニウツツ攻メノ状態デアツタ
今日ハ稲垣式ノワイヤーヲ手傳フ
お晝前大坂ノ藤井甚太郎氏來ル 不意ニ驚イタガ珍客デアツタノデ終日相手ヲナシ
四時十七分デ帰ラレル迄送ツテ行ツタ 記念ノ写真ヲモ取ツタ
午後藤原君ガ無茶ヲヤリヨルト思ツタラツヒニ機体ト樺足一本ツ、ヲ折ツタ。夜善後
策ニツキ相談ス 兎ニ角アレデ出來ルダケヤリタイトノコト イソガシイガ設計ヲ一ツヤ
ツテ見ルコトニシタ

▲▼219ページ▲▼ 大正6(1917)年7月25日(水)

天気晴

今日ハ水上プレーン全部ヲ組ンダ 午後ハ稲垣式ノカバーヲヤツタ。
信太郎昨夜ハイクラカヨカッタガソレデモヨク眠レナカッタ。今日ハ大分笑ツタリシテ居
タ

阿部カラ稲毛ヘ行キタイガ金ガナイノデ五円送ツテ呉ト云ツテ來タ 困ツタヤツダ
眞下ノ姉カラ手紙來タ 方附イタト云フノデ先ヅ一安心 重荷ヲ下シタ様ナ氣ガシタ

▲▼220ページ▲▼ 大正6(1917)年7月26日(木)

天気晴

今日ハ少シ頭痛ガシタ 朝早ク醫師ニ行 過日試験シタ處ハ何ントモナツテ居ナカッタ
ソレデ無病ト云フコトガワカッタ 佐野ノ洗滌ヲ見タ。イヤナ思出ヲシタ
午後成田様ニ参拜 スグ帰ル 後チ陸上機ノ組立ヲ手傳フ
藤原妻君神田ヘ金策ニ帰ルニ付金十五円貸ス
夜井上君遊ビニ來ル
十時頃鳥飼氏ヨリ電報來ル トウゲツ十九二〇ヒサシツカエナキヤヘトアツタガトウゲ
ツガ分カラナイノデ明朝返スルコトニシタ

▲▼221ページ▲▼ 大正6(1917)年7月27日(金)

天気晴

朝カバー 午後水上ノフロートヲ取(ママ)ケタ

グレゴア久シ振りデ廻シテ見タ

夜松本ノ二木君來 ヨク飛行界ノ狀況ヲ話シテ帰ヘシタ

▲▼222ページ▲▼ 大正6(1917)年7月28日(土)

天気曇リ

今朝山風強ク練習中止 十時頃迄眠ル

午後水上ノワイヤーヲ張ル

大口ヨリ二階ヲ頼ミニ來タノデ貸シテヤル 四日市ノ材木屋トカダソ一ダ

▲▼223ページ▲▼ 大正6(1917)年7月29日(日)

天気晴

朝食前一回千葉町迄飛ンダ 五百位迄上ガッタ 降ルノガ一寸変ダツタ。後チ鳥飼氏
二日取ノ打合セラナスベク上京シタ。阿部ノ處(ヨルト)稲毛ヘ行ツタトノコトニ二時ニテス
グ引カヘス。方針ヲ議シ阿部近日下坂スルコトガアルトノコトニ其時万事ヲナスコトニシタ。
白戸ヨリエギゾーストバルブ三個コワレタカラ所沢ニ行キ徳川大尉ニ借りテ來テ送レトノ
コト 夕食後阿部ト東京迄行キ今夜ハ東京泊リ

▲▼224ページ▲▼ 大正6(1917)年7月30日(月)

天気晴

午前四時半起床 五時新宿駅ヨリ池袋ニ行キ一時間バカリ待ツテ六時二十何分出發
七時半着 車ニテスグ徳川氏ヲ訪ネタガ丁度昨日カラ箱根ヘ行カレタトノコト 隊長モ
不在トノコトニスグダメノ趣キ打電。三上綱吉氏ヲ訪ネタ。妻君一人留都(ママ)ヲシテ
居タ ソレカラ松葉館ヘ變ツタト云フ細村屋ヘ行ク。娘共ガ大キクナツテ居タ。帰リヲ約
シテ、協会ノ格納庫ヲ訪フ 佐藤要蔵君ト尾崎氏ノ助手某君トニ會フ 飛行機ハ尾崎
君ノトラクターノミデアツタ。曾我號ハ修理出來ナイ由。モ式ハ北陸ヘ出シタトノコト
二時間バカリ話シテ細村屋ニ歸リ晝食ヲ馳走ニナリ二時發ニテ帰京 鳥飼ニ一寸ヨリ、
不在ニツキ帰稻 鳥飼來稻セル由 手金二百円來リタルトノコト

▲▼225ページ▲▼ 大正6(1917)年7月31日(火)

天気 晴

午前一回飛行 垂直降下ノ練習ヲ一寸ヤッタガ後ノメンスパーガ氣ニナツテ思ヒキツタ
コトガ出來ナカッタ

佐野限(ママ)院

晝食後鳥飼ニ行キ三百円手金ノ内百円ハ報酬 五十円ハ貸シテ呉レトノコト二百五十
円受取り阿部ニ行ク。イロ、大坂飛行ノ打合せデオソクナリ終列車ニテ帰稻ス

▲▼228ページ▲▼ 大正6(1917)年8月1日(水)

天気 晴

今朝五時頃白戸ヨリ電來リモ一度所沢ニ行ツテ呉レトノコトニ、到底駄目トハ思ヒツ、
六時半ニテ上京 鳥飼ヲ訪ヒ右ノ話ヲナシ、コトニヨレバ砲兵工廠ニアルカモシレヌカラ
日野氏ニ頼ムベク鳥飼同道千駄谷ニ行ク 不在 スグ池袋ニ行ツタガ一足違ヒニ乗リオ
クレ式時半ニテ出發 三時半着 隊ニ行ク 先ヅ工場等ヲ見セテ貫ヒ山田曹長ノ事ヲ
聞ク 居ルトノコトニ會ツタガ、先方デワスレテ居タ。隊デハノームハナイトノコト 大島
ノ處ニ行ク。益田少佐ガ材料係リトノコトニ到底ダメダト思ツタガソレデモ折角ダカラ
行ツテ見タガ之レモ不在 スグ白戸ヘダメノ打電ヲナシ八時二十分ノ終列車ニテ帰稻ハ
十一時半 漸ク夕食ヲ取り床ニ入ル

▲▼229ページ▲▼ 大正6(1917)年8月2日(木)

天気 曇晴雨

数日クタブレデ十時半迄寝タ

格納庫ニ行ツテ居ル海野氏ト白津トガ來タ 海野君ニ朝日ヘノ手紙ヲ頼ム

モーター山本君ガ数見君ヲ連レテ帰リト來タ。練習ノ件ダガスグト云フコトハ出來ナ
カッタ。写真数枚ヲウツシテ帰ル

午後柳原ニハブヲ打タセテ上京サセタアトヘ鳥飼氏ガ來タ。終列車迄待ツタガ來ナイノ
デ帰ヘツタ

夜藤原ヘ手紙ノ返事ヲヤッタ 義務的飛行ハおコトハリ

井上長君地方同行ニ今日話シキメタ

▲▼230ページ▲▼ 大正6(1917)年8月3日(金)

天気 曇雨

今日ハ各方面ニ發信ニ多忙ヲ極メタ。阿部二通 竹島、佐渡島、大西、宅、日野、其他
鳥飼氏車輪持ツテ來タ

プレーンノ箱設計ニカ、ツタガ少シノコトデ七噸ニ這入ルカラプレーンヲ少シ切ルコトニ極
メタ

▲▼231ページ▲▼ 大正6(1917)年8月4日(土)

天気 晴風ツヨシ

今朝風ツヨク午後益々加フ。押谷君五時過ぎニテ帰ル 仮受取ト寸志トシテ金ヲヤル
午後アヒルヲ一羽カヒ久シ振デー一同ト會食ス

▲▼232ページ▲▼ 大正6(1917)年8月5日(日)

天気 晴

風ハ静カニナツタ 試験スルツモリデ惠美號モ、稲垣式モ出ス 稲垣式ホールスカット調
子出ズ其内日野氏ト梁瀬ノ堤氏來。ニサイクルヲ試験台取ツケル 晝前一回惠美號
ニテ飛行 足ノ先キニキリノ様ニツメタイモノガカ、ルノデ水ニシテホコンナニ這入ッテ來ル
筈デハナイカト思ヒ早ク降テ見タ頃タンクヲ中津デ修理シタ處ガ切レテガソリンガド
ン、モツテ居タ。火ガツカナクテヨカッタ

夕方浅間神社ニ参拝シタ。ニサイクルタ方漸ク廻ッタガアマリヨイ調子デナカッタ 注
意ヲ受ケテ居イテ中止シタ

▲▼233ページ▲▼ 大正6(1917)年8月6日(月)

天気 晴

午前中試験日和デアッタガ午後風ガ變ツテ突風ガアツタノデヨシタ

ホールスカットマグネット取替ヘタ處ステキニ廻ッタ ヤハリイケンクナッテ居タラシイ 又
百五十円オシヤカダ

今日カラ水上ノ箱作りニ初メタ

自分ハ水上ノ小圖ヲ引キ飛行界ニ送ル

▲▼234ページ▲▼ 大正6(1917)年8月7日(火)

天気 晴

終日風静カ 午後モ三四米 稲垣式ヲ引出ス 先ヅスローヨリ走り出シ余々半分バカ
リレバーヲ引イタ。機ハスデニ浮イテ居タ。着陸モ中々フワ、ト工合ヨカッタ。後ガ重

イト思ツタガソウデモナカッタ 方向舵ハステキニヨクキイタ 其場所ヨリ飛行シヨート
思ツタガ中々スタートシナカッタノデ引イテ帰りカバーヲ取ツタ カーブレーターノ押
捻ガベテナカッタ 今度ハカバーヲ取ツタマ、デヤツタ。一パイレバーヲ引イテ居タノニ上
ガラナカッタ 漸ク波打ギハニ着陸シ滑走シテ帰ル。マグネトヲアドバンスルノヲワスレ
テ居タ 二度ヤル 發動機ハステキナカッタガ浮力ガ足ラナカッタ ヤット低空
二三十米突デ一廻リシテ着陸 試験飛行ヲアシ、角度ヲ一度増スコトニシタ 稲垣ニ打
電 夜返アリ有難御礼申ス
大西君ヨリ返ガアツタ

▲▼235ページ▲▼ 大正6(1917)年8月8日(水)

天気 晴雨アリ

角度一度増スコト命ジテ上京ス 阿部ニ行キ晝食ヲ馳走ニナリ雨宿リヲシテ二時頃加
藤ニ行ク プロペラヲ注文シ鳥飼ニ立寄り夕方相羽君來ル 共ニ日比谷ノ松本ニテ食
ヲナス。スグ帰稲十時半

▲▼236ページ▲▼ 大正6(1917)年8月9日(木)

天気 晴

佐野水上、山県グレゴア、マグネト取付、外ニサイクルト水上用箱
白戸帰ヘテ居ルトノコトニ夕方車で行ツテ夕食ヲ喰ツテ帰ル

▲▼237ページ▲▼ 大正6(1917)年8月10日(金)

天気 晴

朝早ク白戸ハ來テ居タ 稲垣式ヲ引出シ廻シテ見タガドウモ調子ガ出ナイ カバーヲハ
ヅシテヤツタ 一寸調子ガ出タノデ走り出シタ スグ又キレ出シタ 直線デ中止シテ引
イテ帰り、調子ヲ取ツタガドーシテモイケンイノデマグネトトカーブレーターヲハヅシ
タ マグネトハ何ントモナカッタガカーブレーターニゴムパイプノゴムガツマツテ居タ ヤッ
ト安心シタガモ一試験シテ居ラレナイノデ分解水上ニ發動機ヲ附替ヘ三台一時ニ写真
ヲ取ツタ。之レデ夕方ニナツタ
夜早く眠ル

▲▼238ページ▲▼ 大正6(1917)年8月11日(土)

天気 晴風出タ

今日ハ水上ヲ分解。十時頃白戸ヨリ車ガ迎ヘニ來タノデ何事カシラント思テ出懸ケルト、妻君ノ氣(マ)嫌ガ悪イ 又ヤツタナト思ツテ居ルトハタシテ昨日白戸ノ國カラ金ノ受取ツタ手紙ガ來タ。ソノ金ガ妻君ニ内所デ國ノ母ニ送ツタモノダトノコト ソレカラ初マツタヤツデ妻君ノ話シヲ聞クトドーモ白戸ノ方ガ悪イ 要スルニ別レル別レナイノ問題ダガ之レハ妻君ハ死又迄居ルト云フノデ、ソレヲ白戸ガ追出スコトハ出來マイ 又追出ス理由モナイノダ 晝食後帰ル

荷物ヲ運ブニ夜十時頃迄カ、ツタ ソレデモ明朝ニオツタ外残ツタ
苦學生小林某君來ル 今夜泊メル

▲▼239ページ▲▼ 大正6(1917)年8月12日(日)

天気 晴風

午前出荷 貨車來ラズ 午後三時漸ク來ル 七噸ニ丁度這入ツタ 阿部君鳥飼君來
鳥飼十四日出發 其他ノ打合セヲナシ出發金トシテ五十円借リル
阿部トハ書物大坂方面ノ打合セヲナス

▲▼240ページ▲▼ 大正6(1917)年8月13日(月)

天気 晴

日記新聞手紙

矢野君ト海軍ノ利川君來 雜談 今夜泊ル 夜共ニ盆踊リヲ初メテ見ル カナリダラ
シナイモノデアッタ 午後稲垣文太郎氏來 試験飛行ニツキ非常ニ嬉(マ)ンデ居タ
後援會ヲ二三人ニヨツテ作ツテ貰フノデ京都デ一回訪問飛行ヲシテ貰ヒタイトノコトニ
マダ練習不充分ダカラ、場所ヲ見タ上決定スルコトニ約シタ 尚九月中頃デ發表スルト
ノコトニ時日ノ發表ハタゞ追々ト云フトニシテ居イタ方ガヨカロト云ツテ居イタ
夜一人一人ヲヨビ出發後ノコトヲ命令シ見學生ニハ意見ヲ聞イテソレ、方針ヲ與ヘタ

▲▼241ページ▲▼ 大正6(1917)年8月14日(火)

天気 晴

朝キリ雨が降ツテ居タガ天気ヨクナリ夜風ニナツタ

矢野、利川両君ヲ千葉ニ送リツヒデニ買物ヲナシ汽車ニテ帰ル。晝食後フロートノ圖ヲ
引ク

夜高林畫家外一同ヲ集メテ食事ヲ共ニス

▲▼242ページ▲▼ 大正6(1917)年8月15日(水)

天気 晴

起床後浅間神社参拜 ソレ、後事ヲ命ジ朝食後十時ニテ出發 信太郎ハ母ニダカレテカド口迄出テ居タ 今日ハ又特ニ元氣デアッタ 柳原東京迄連レテ行ツテ呉レトノコトニ共ニ行ク。兩國ヨリ柳原ハ自分ノ用事ニ行ク 友人ノ藥齊(ママ)士ガ來テ居ルトノコトニ塗料ノ研究ヲ命ジタ。佐野ハ上野へ荷物ヲ預ケニヤリ五時頃鳥飼宅ニテ荷合フコトニス自分ハ鳥飼宅ニ立ヨリ阿部ニ行キアメリカ屋ニテ會フ 本ハマダ出來テ居ナイ 十七日ニ出來ルトノコト。一度鳥飼ニ歸リテ、後チ小石川ヲお春サンヲ尋ネル お母サンハ巢鴨ノ高折サンニ居ラレルトノコト 毎日カヨト交代ニ行クトノコト 稲毛へ歸ラレル様傳言シテ歸ル。佐野、井上ヲ連レ買物ニ出ツヒデニ夕食ヲナシ八時半上野出發。井上妻、石田氏妻 井上兄夫妻大数、井上見送ル 列車ハカナリコンダ

▲▼243ページ▲▼ 大正6(1917)年8月16日(木)

天気 晴

十時二十分高岡着 列車内ニトンボガ飛ビ込ンデ大ニヨカッタ。新聞社ニ立寄り鉄道ノ人トモ會フ 大ニ場所モ浪モヨイトノコト。梅松園ニテ午餐ヲ受ケニ時發ニテ島尾遊園ニ行キ園内松月亭ニ入ル 一寸濱寺ニ似タ處ガアッタ。温浴場ナドモアリ田舎ニシテハヨスギル海水浴場デアッタ。スグブイヲタメシテ見ル。初メハヨカッタガ水ガシミルニ從ヒダメダッタ。夕方迄兩社ノ人が居タ。入浴後夕食 蚊ハ多カッタ スグ床ニ入ル

▲▼244ページ▲▼ 大正6(1917)年8月17日(金)

天気 晴

日ノ出ガヨイトノコトデアッタガ曇テ居テ見エナカッタ
今日ハ七時ニ高岡着 八時島尾へ機体ガツイタ 自分ハ日記ト全機ノ出入ヲ記シ後チ組立ヲ手傳フ 夕方迄ニ組立出來タ 明日ハ發動機ダケダ
夜佐野ト鳥飼氏トノ玉突ヲ一寸見テ床ニツク

▲▼245ページ▲▼ 大正6(1917)年8月18日(土)

天気 晴

昨夜ノ浪ノ音デヨク眠レナカッタガ夜中ニ風ガナイダノデ朝カラ浪ハ静カニナッタ。嬉(ママ)ンデスベテガ出來タ頃カラ又風ガ出ダシタ 晝食後機ヲ下シテ見タガトテモ走レソートニナカッタ 發動機ヲ廻シテスグ上ニ上ゲ後上デ試運轉シタ。ヨク廻ッタノデ一寸安心シタガ浪ハ益々高クナッタノデ試飛行ハ中止シタ 明日風イデクレバヨイガ

▲▼246ページ▲▼ 大正6(1917)年8月19日(日)

天気 晴

夜中カラ朝ハ雨ガ降タリ止ンダリシテ居タ、ガ後チ止ンダ 少シ北東ノ風ガ出タト思フ
ト浪ハ荒クナツテツヒニ今日ハ飛行出來ナカッタ

覽者ハ随分來タ 一万以上ノ人デ中越線初メテノ人出タトノコト。今日ハ大分頭ヲナ
ヤマセタ 朝ト午後トお吉ハガキ出ス 藤原カラ四十円送ツテ來タトノコト

▲▼247ページ▲▼ 大正6(1917)年8月20日(月)

天気 晴

今朝ハヒドイ雨デアッタガ後チ晴レタ。ガ風ハ昨日ヨリツヨク最大七八米迫ニナッタ 従
ツテ浪ハ益々高カッタ 晝前伏木ノ川ヲ見ニ行ツタ 海トチガヒ静カデアッタノデツヒニ
變更スルコトニナッタ。午後四時頃ヨリ急ニ分解 七時半頃貨車ニ積込ンダ。十時夕食
後床ニ入ル

▲▼248ページ▲▼ 大正6(1917)年8月21日(火)

天気 晴

一時頃カラ眠レナカッタ 四時半ニ皆ヲ起シ五時過ギノ汽車デ伏木着 朝食後組立ニ
行ク 自分ハ海岸ヲ見テ八時頃行ク 二時頃組立出來四時頃水中ニ下シ發動機ヲ廻ス
例ニヨリテ牽引力ハ少ナイガ大分廻ツテ居ル様ナノデ山県同乗 滑走シタガドーモ上
ガラナイ チットヅ、水ヲ切レルガ上ガラナイ 滑走デ帰り今度ハ一人デヤッタ。何ノ
事モナク上ガッタガ前ガ輕ル過ギテ降ルノニ随分困ツタガヤット無事試飛行ガスンダノ
デ一安心シタ。見物ハドコカラ來タノカ随分沢山居タ

稲毛カラ新聞ガ來タ 山階ノ宮殿下ガ船橋へ御成ノ節ワザ、飛行機ヲ見ニ御成ニナッ
タトノコト 実ニ嬉(ママ)バシイコトデアッタ

▲▼249ページ▲▼ 大正6(1917)年8月22日(水)

天気 曇リ

五時半起床 朝食日記 皆ハ先キニ行ク テールニ半度角度ヲ附シメンプレーンヲ少シ
両端ニテ角度ヲ減ズ 第一回十一時飛行 高岡ニ向フ ヤハリ後部重ク十七分間程ノ
飛行ノ苦シカッタコト ソレニ發動機ガプツ、時々切レルノデ大ニ氣ニシタ。カーブレー
ターヲハジシテ見ルト水ガ這入ツテ居タ ガソリンヲ全部コシテ入レカエタ。テールニ二
角度ヲ附シ山縣ヲ同乗サセテ三時半頃ヤツテ會場上ヲ三四回廻ツテ着水 大分楽ニ

ナツタ。之レニテヤット第一日ヲ無事終リ宅、阿部、稻毛へ打電
夜アンマヲ取り床ニツク

◆▼250ページ◆▲▼ 大正6(1917)年8月23日(木)

天気 晴

昨夜ノカニ當ラレタカニ二時頃カラ便通ガ多クテ困ツタ 五時頃雨が降ツタガ後チ晴レ
風ガ出タガ之レモ八時頃チクナツタ 天祐ヲ嬉(ママ)ビツ、出場ス
十一時第一回 新聞社ノ山田記者ヲ同乗セシム。シートニツク時レバーノ線ニサワツテ
急ニ走り出シタニハ一寸驚イタ 島尾遊園ヲ一週(ママ)シテ帰ル 午後大分風ガアツタ
二時半頃ヤル 山県同乗 ブツ、ヤタラ切レルノト風ノ爲メユラレルノデ一廻リ得失
敬シタ。高岡訪問ノ予定ガクルイ主催者側ハ不平ラシカッタ。スグ分解 駅ニ運ビ貨車
ニツミ高岡ニ引上グ 此間四時間 大ニ急(ママ)ガシカッタ。スグ宴會ニ望ミ十時頃宿ニ
帰ル

今日鳥飼氏ノ精算ガ出來テサツパリシタ

◆▼251ページ◆▲▼ 大正6(1917)年8月24日(金)

天気 晴

五時半起床 朝食後六時十七分出發 米原辺カラ大分暑クナツテ來タ 夕方無事着
タクシーニテ帰宅 父モ兄モ姉モ皆心好ク歓待シテ呉レタ 例ニヨツテ我が兄姉ノヨササ
ヨ!入浴後竹島様ニ挨拶ニ行キ夕食後稲毛、阿部、藤原、林ニ發信。明日ノ點呼ノ準
備ヲナス

◆▼252ページ◆▲▼ 大正6(1917)年8月25日(土)

天気 晴

五時半起床 六時過ギ宅ヲ出ヅ 七時半點呼場着
九時前カラ初マリ十二時十五分終ル 帰宅。晝食中藤原來ル 今日中ニ金作ル由。明
日來ルトテ帰ヘタ
機体着 スグ學校ニ入レル 夜新世界ヲ散步シ帰宅。ソコへ稲垣氏來 高左右ガ非常ニ
ヤカマシイコトヲ云フノデツヒニ五百円デ家ヲ賣タソダ ソレガ卅日ニ金ガ這入ルトノ
由 押谷ハマダ稲毛ニ居ル由。高左右ガ僕ト會フト云ツテ居タトノコト モーアト四十
円ノコトデ非常ニ困ツテ居ルノデ來タラ何分宜シクニ云ツテ呉レトノコトデアッタ

◆▼253ページ◆▲▼ 大正6(1917)年8月26日(日)

天気晴

午後藤原ガ來ルト云フノデ朝濱寺へ行ツタ

波ハ静カデアツタ イツモ斯ダソウダ 晝食後帰ル 久シ振りデロロコイダ。高左右ガ留都(ママ)中随分來タソウダ 午睡ヲナシタ方高左右來ル オゴルトノコトデ天狗楼ニ行キ後チ高左右ノ宅ニテ、マグネトヲ借り試験ノ上ヨケレバスグ貫フニシタ 代價ハ二百八十円

▲▼254ページ▲▼ 大正6(1917)年8月27日(月)

天気晴

今日ハ機体ノ手入レ日 阿部ハ一日休養スルトノコト

自分ハフロードニ張ル銅板ヲ買フ爲メヤマグネトノ取付ヤ何ニヤ期(ママ)ヤト大分飛ンデ徒イタ。広瀬ノ主人ニ初メテ會ツタ。夜兄ヤ皆ト道ノ屋へ食後行キ十時過ぎ迄遊ンデ帰ツタ

▲▼255ページ▲▼ 大正6(1917)年8月28日(火)

天気晴

今日ハ終日組立ヲヤル 高左右カラ金ヲホシイト云ツテ來タ 一週間以内ナラヨイガソレヨリ早クハ約束出來ナイト云ツテ返事シタ

▲▼256ページ▲▼ 大正6(1917)年8月29日(水)

天気晴

朝カラ高左右來ル 十字屋ノ飯田ト云フ人ト助手ヲ連レテマグネトノ不備ト思フ處ヲ高左右ニ見セテ組立ヲ取付ケサセル 自分等ハ雁風楼ニテ晝食後行キ廻ス 七番ノターミナルヨリセルシンダー 一個爆發セズ 次ギニ二本ヅ、付替ヘテ試験ス 調子ヨシ マグネトノ試験ハコレ終ツタ 別ニココレ母違状ハナカッタ 他ノ人ハ帰り高左右一人残リタ食ス 今夜ハ多勢デニギヤカデアツタ。高左右ハ金ガ最(ママ)非明日ホシイト云フノデ残ツタノデアルガ僕ノ方デハ初メカラソウ急イデ居ル訳ケデモナク、今ナケレバナラナイ處デモナイモノ故今苦イ中ヲ明朝迄ニ金ヲ作ツテヤルコトハ困難ナコトデアツタ 其旨ヲ云ツテ居クト帰りニ表出テ自分ヲヨビ若シ明日出來ナイ様ナラ品モノヲ外ニ向ケ先キガアルカヲトノコトニソレデハソウ云フコトニシヨート分レタ ソレデ取りニココストノコトデアツタ

夜新世界ヲ一寸散歩シテ帰ル

▲▼257ページ▲▼ 大正6(1917)年8月30日(木)

天気 雨

朝高左右ノ使ガオソイノデコチラカラマグネトヲ持タシテヤッタ スルト今使ヲヤッタト
コロダトノ返事ガアッタガ中々來ナカッタノデ自分ハ関ノ伯母ヲ見舞タ モー永クハナイ
トノコト。キレイナ女デアッタガヤセテ、死ンダ母ニヨク似テ居タ ソレカラ西店、藤井、
二家ニ行キ帰リニ島津氏ヲ其研究所ニ尋ネマグネトヲ聞ク 三菱ニ今預ケテアルトノコ
ト 二百円余リデトノコトニ品モノモボツシユノDRAダカラ高左右ノヨリ余程ヨイコトハ
勿論デアル 最(ママ)非ホシイト約束シテ帰ル
高左右カラ手紙ガ來テ居タ 見ルト金六五十円ダケデアト五日ニホシイカラトノコトデ
アッタガ他ニ賣ロガアルト云フノダカラソレニ廻シテ呉レル様佐野ニ手紙ヲ持タセテヤツ
タ
後岩名君ガ遊ビニ來タ 夕食後帰ル
ドーモ高左右君ノ噂ガヨクナカッタ。九月一日カラ朝日ノ自動車運轉士ニナルトノコト
ハ井上君ノ友人カラ聞イタ

▲▼258ページ▲▼ 大正6(1917)年8月31日(金)

天気 晴

午前温泉ニ行キ朝食 公園散歩 帰宅
小學生ノ爲メ午前講演 午後在郷軍人ノ爲メ同ジク。スグアト分解ス
齋藤前校長ニ會ツタ
毎日濱寺ハスデニ遅レ三百円位シカ金ガナイトノコト。朝日ハ明日坂神ノ人ニ會フカラ
話シフスルトノコト
夜、広瀬ト佐々木サンニ行ク 佐々木ニテ濱寺附近ノ飛行場ニ適當ノ地所アルコトヲ聞
キ明朝同道スルトヲ約シタ

▲▼261ページ▲▼ 大正6(1917)年9月1日(土)

天気 晴

午前七時半ヨリ佐々木ニ行キ同行 高瀬ノ濱ヲ見ニ行ク 松ノ大木ガアルノデ問題ニ
ナラナイ 面積モ小イサイ上ニ取広ゲル余地ガナイ水上ニ六上等デアッタ シカシ、一應
南海ノ意向ヲサグルベク土地ノ有力者ニテ南海ノ株主タル山中ト云フノエ佐々木ノコン
意ノ人ヨリ話ヲシテ貰フ。十一時帰宅。征空小史發送
食後阿部ト朝日ニ行ク 小西氏ヨリ書面ヲ得。坂神ノ山口氏ヲ訪問、ノ結果三百円
実費ヲ出シ 神朝日ハ紙面ノ應援トキマリ夜七時帰宅 馬車ノ仕度ヲナス

◆▼262ページ◆▼ 大正6(1917)年9月2日(日)

天気 曇晴雨

午前中八荷物ヲ出スノニ大分ゴタ、シタ

午後島津へ寄ル スグ又打電シテ呉レタ 夕方電話デ聞イタガマダ返事ナイトノコト

佐渡島ニ行ク 小旦那留都(ママ)。工場ニ行キ兄ニ會ヒ夕食ヲ共ニシ後チ安堂寺町ニ行ク。イツモナガラヨク相談ニ乗ツテ呉レル人デ五十万円ノ資産ニナツタラ一万円ハ出ス今ハ二千円位ナラ名ハ出セナイガ金ヲ出ソウトノコトデアッタ
十時半帰宅

◆▼263ページ◆▼ 大正6(1917)年9月3日(月)

天気 晴

今朝ハ温泉ニ行キ、朝食後竹島、佐々木ニ行ク 佐々木ニハ丁度高石カラ返事ニ來テ居タ。南海ニ直接聞イテ見テ呉レトノコトデアッタ。其内佐々木ノ主人モ一所ニ行カウト云ノデ帰ツタ。兄ト姉ト二人デ昨夜小主人ノ話カラ色々相談シタ決(ママ)果佐渡島ノ若主人ヲ説クノガ急務ト云フコトニ一決シタ 尚明日小主人ガ西ノ宮ニ見エタラ相談スルコトニシタ。晝食後西ノ宮ニ行ク。島津ハ五日ニシテ呉レトノコト 兄ヨリ十円借リル。姉ヨリ五十円借リ稲毛ニ送ル

岩名君ガ手傳ニ來テ居タ。夕方仕事ハ一寸残ツタ

◆▼264ページ◆▼ 大正6(1917)年9月4日(火)

天気 晴

例ヨツテ、夜カラ眠レナカッタ 五時起床

仕事ガスコシオクレテ八時ニ機ヲ引出シタ 風ガ少シ出テ來タ 浪モ一寸出タ。約一尺トノコト

發動機第一回悪シク、プラグヲ一本洗ツテヨクナツタ 少シモキレナイノデ氣持ヨカッタ 風ニ向ツテ滑走シタガイツカヨコ風ニナツテ走ツテ居タ爲メ右ガ浮イテ困ツタ 初メハソレニ氣ガツカズ、角度ガ悪イノダト思ツタ。大ニツトメタガドーシテモ上ガラナイ。モ一シカタガナイカラ帰ルート帰ル道ニモイロ、ヤル内、ヤハリ浪ガアツテモ少シ下ゲナイト速力ガツカナイコトヲ發見シタ。ソシテヤツテ飛ンダ 西ノ宮ノ町ノ上ニモ少シ行ツテ八分間デ降りタ 午後坂神朝日ニ礼ニ行キ後チ各新聞社ヲ廻ツタ
今日ハ姉二人ト兄二人ト來タ 夜又ト西ノ宮ニ行ク。

吉ヨリ東京へ行ツテヨイカトノコトデアッタガ行クナト返事出ス

▲▼265ページ▲▼ 大正6(1917)年9月5日(水)

天気 曇り

夜半ハ雷雨デヒドカッタガ後チ曇リ午後晴レタ 午前八時半一回ヤル 發動機バラ、切レルノデ九分間ニテ中止 カーブレーターヲハツス 水ガ這入ツテ居タ キレイニシテ十一時再ビヤル 五六分スト又切レ初メタノデ十二三分デ中止シタ 原因ハカーブレーターガ冷却スルト水ガマタル ソレガパッキンガ悪イ爲メ中ニスイ込マレルモノト分カッタ 午後三時頃ヨリ帰坂 工場ヨリ電話ニテ島津ニ聞ク。マダコヌトノコトニ明日神戸へ自分ノ方ヨリ取りニヤルコトニシテ處ヲ聞イタ

第一回ヲ飛行中ニチヤンピオン君來ル 面白イ男デアッタ 晝食後三時頃帰ツタソノダ 宙返リニツイテ教ヲ乞フタ 得ル處ガアッタ

別府ノ飛行トフロートヲ非常ニ求メテ居タ

夜八時西ノ宮ニ帰ル

▲▼266ページ▲▼ 大正6(1917)年9月6日(木)

天気 晴

ドンヨリトシテ風ナクお晝過ぎ迄ヨイ天気デアッタ

八時頃第一回 一度切タゞケデ調子ハヨカッタ水ハ飛バナクナッタ 第二回目ガソリンパイプノカーブレーターノ方ノ取付ガ半田ガ取レテ居タノデ付ケ同乗席ヲツクリ神戸新聞ノ引田君ヲ乗セル 今日ハ大同乗飛行會ヲヤルツモリデアッタ處一廻リシテ西ノ宮町ノ方ニ向フト、少シヅ、切レテ居タノガ急ニバラ、トツヒニ止マツテシマッタノデ速力ヲツケル爲メ急角度デ降り無事着水出來タ 原因ガカーブレーターダト思ツタガ配電盤ノブラシガ又ガタ、ニナツテ居タ。之レニテ中止ス

会社側ヨリ新聞記者ヲ照(マ)待スル費用設備ヲシテヤル。又佐渡島ノ主人ヲ連レテ乗ルナラ特別電車ヲ出シテヤルトノコトデアッタ 大ニ信用ヲ得タ訳ケデ今日ハ何ントナク嬉シカッタ。神戸ヘマグネトヲ井上三取りニヤツタガ行違ヒニ大坂へ行ツタトノコトニ父ト帰ル 藤井甚太郎氏來 共ニ帰坂 島津ニテマグネト受取り夜銅鋳ヲ買フノニオソクナル

▲▼267ページ▲▼ 大正6(1917)年9月7日(金)

天気 快晴

四良君ガ來ナイノデ七時呼ビニヤリ手紙ヲツケテ西ノ宮ヘ持タセテヤッタ。兄ト竹島ニ行き後チ自分ハ西店ニ行き坂神会社ノ厚意ヲツゲ濱宅ニ老主人ヲ尋ネタ 丁度若主

人ト何ニカ重大ナ相談中ト見エタ 御家ノ取次ギデ照(ママ)待ノコトヲ話スト一應相談ノ上トノコトニ西店(スベ)テノコトヲ依頼シテ工場ニ行キ兄ニ金ヲ貰ヒ島津ノ支拂ヲナシ西ノ宮ニ帰ル 昨夜蚊ニセメラレ眠レナカッタノデ大ニ寝ルツモリノ處仕事ガハカドツテ居ナイデ手傳ツタリ中沢君ガ來テ居タリシテ眠レナカッタ
マグネトハポールピースガ少シ動クノトポールベヤリンクノ受ケガ一ツ破レテ居タガ直ス暇ガナイノデ其マ、ツケタ

◆◆268ページ◆◆ 大正6(1917)年9月8日(土)

天気 曇後晴

皆ハ五時ニ出テ行ツタ 五時半自分モ行ク。少雨アツタガ上ガツタ。仕度ガオソクナツテ十時頃ヤツタ 陸上デヤ、調子ガ出テ居タガ滑走ヲ初メルト切レ初メタ 飛ンデル内モ勿論切レタノデ一旋回シテスグ着水シタ。今日ノ離水ハ割ニ早カッタ。マグネトヲスグハツサシタ。自分ト阿部ハ会社ノ厚意デ記者約十名バカリト會食シ自分ノ希望ヲ一寸ノベタ 藤井靖造君來場セラル

マグネトスリップリングノ動クノヲ直サスベク井上外一同ニ住吉へ持タセテヤル 夕方帰ツテ來タガ先方デ分解シテ見レバアーマチヤーノ塗料ガトケテ居タトノコト 自分モ見ルトナル程トケテ居タ。トモ安心シテ使用出來ナイノデ島津ニ返スコトニシテ、又前ノマグネトヲ取(ママ)ケルノニ、ギヤーノ穴ヲ、ツクリ變ヘタリスルノデ大ニ手間取り夜一時ニ終ツタ

◆◆269ページ◆◆ 大正6(1917)年9月9日(日)

天気 曇少雨

五時皆ハ仕事ニ行ツタ 阿部ハ梅田迄出迎ニ行ク 北風ヤ、アツタガ浪ハ静カデアッタ 七時發動機試験終ツテ皆ニ朝食ヲサセ自分ハ香露園迄出迎ニ行ク 待ツコト三十分ニシテ小主人竹島、ヲ初メ佐友會員來 本店ト吉田勝ガ來ナカッタ スグ引出シテ二分バカリ中ニ滑走シ陸ニ向ヒ離水 風ヤ、ムラアツテ動揺ス 右ニ廻轉シテ五分間バカリ行ク 大坂築港ハスグ目ノ前ニ見エタガ右折シテ引返シ一週(ママ)シテ北ニ向ツテ着水セントセシニ東北ノ風ニサマタゲラレ御影沖ニ着水 滑走シテ帰ル 随分長カッタ。飛行十六分合計四十三分トハ驚イタ。今日ハ之レデヤメタ。花道家ヨリ金盃ヲ貰フ 小主人ハ非常ニ嬉(ママ)ンデ萬歳ヲ唱ヘラレタ 大ニ嬉シカッタ
藤井靖造、甚太郎両氏來。晝十一時ノ帰リヲ見送り晝食後皆ヲ連レ神戸ニ磯部少佐ヲ迎ヘニ行ク 船遅延シテ明朝トノコト 夕方帰坂

◆◆270ページ◆◆ 大正6(1917)年9月10日(月)

天気 雨

午後曇リ ア、天祐ナルカナ。余ハ余ノベストヲツクス 神ハ吾レヲ保護セラル 多謝々々
吉、藤原、助手ニ手紙ヲ出ス。夜阿部ヲ呼ブ 鳥飼氏ヨリ二十日頃サシツカエナキヤト
ノ電來ル サシツカエアル旨返電ス。夜ルナ。パークヲ見テ帰ル 阿部來 十六日飛行記者
俱樂部主催ニ決定セシ由。

今日飛行機到着ス 運賃ニ割引ニナリ居ラズ全部支拂フ 稲毛へ取戻請求セシム

▲▼271ページ▲▼ 大正6(1917)年9月11日(火)

天気 晴

午前中飛行日和デアッタ。コンナニラヤレバヨカッタと思タガ分解シテ仕舞ッタ 大西
君來 共ニ帰坂 雁風樓ニテ晝食後北ノ新地ニトモナワレ一時間バカリ遊ンデ西ノ宮ニ
行ク 其間氏ノ人格其他ニ注意シタガ大体ニオイテヨサソウデアッタ。仕事モヤリタイ
様デアッタ 西ノ宮ノ諸拂ヒヲナシ、苦樂園長春樓ニ行ク 大分待ツテ七時頃ヤットソ
ロット會議ニウツル 朝日ハ飛行記者團ニ入ラズ毎日ハ運動會ノ爲メ奈良ニ出張 他ハ皆
來タ。先ヅ記者團ノ設立決議ト役員撰擧アリ 後チ飛行後援會ノ役割ヲナシ八時半
頃ヨリ宴ヲ開 自分先ヅ記者團ノ成立ヲ賀シ飛行會ノ開催ヲ謝ス

十一時半宴ヲ閉ジ引田二百廿五円渡シテ皆ト帰ル 一時半宅ニツク 阿部十時ニ東京
へ出發セリ

本記事八十二日分ナリ

▲▼272ページ▲▼ 大正6(1917)年9月12日(水)

天気 雨

山本ノ叔父來ル 只イクラカ負ケテ呉レトノコトデアッタ 急(ママ)ガシイノデ、後チ相
談ノ上返事スルトコトニシタ。スグ今橋ノ国民ニ行ク 九時。十時頃一同揃ツタノデ車ニテ
師團司令部ニ高級副官西谷氏ニ面會。心ヨク貸シテ呉レタガ尚各隊ノ都合モアルカラ
三時迄ニ返事スルトノコトデアッタ。ソレヨリ軍樂隊ニヨリ、市役所ニ市長ヲ訪フ。スグ面
會シテ呉レテ、大ニ賛成 スベテ快ダクシテ呉レタ。ソレヨリ府廳ニ行ク各課長ニ挨拶ヲ
ナス 電話ニテ練習場許可ノ報アリ 事務所ヲ依頼シテ帰宅。宅ノ打合セヲナシ、夕食
後佐野ヲ連レテ事務所ニ行ク 照(ママ)待状ノ袋其他借入ノ物ノ協議ヲナス 十二時
終リ一時帰宅

▲▼273ページ▲▼ 大正6(1917)年9月13日(木)

天気 雨後晴

午前九時迄トノ約束ヲ國民新聞

十二日ノ日記ハ今日分ナリ

本記ハ十一日ノ記事ナリ

午前中グレゴアヲ廻シテ見タ 大キニヨカッタ アイズマンモヨクナッタ 午後三ノ宮ニ行ク

▲▼274ページ▲▼ 大正6(1917)年9月14日(金)

天気晴

午前中少暇アリ散髪ヲナス

晝食後事務所ニ行キ中島君ト高居君ト三人鶴橋ノ警察署ニ行ク 署長不在ニテ帰ル迄待ツ 四時半漸ク帰り許可ヲ得テ事務所ニ帰り招待券發送ヲナシ諸搬ノ打合せヲ終ツテ一時帰宅

吉ニ手紙出シ 余リ金ガカ、リ過ギルカラ

▲▼275ページ▲▼ 大正6(1917)年9月15日(土)

天気雨

朝カラ夕方迄降り通シタ 明日ハ大ニ氣ヅカワレタガ夜晴レタ 風ガ強カッタ

午前招待券ノ發送ニテ事務所ト宅ヲ往復シタ

午後鳥飼氏八時ニテ來 山県迎ニヤル 大口五時ニテ來

午後佐渡島、藤井、酒井、吉田勝、等ヲ招待券ヲ持ツテ行ク 夕方関ニ行ク 未亡人ニ會ツタ

事務所ニ帰り九時頃帰宅 床ニツイタガ風ガ吹クノデヨク眠レナカッタ

▲▼276ページ▲▼ 大正6(1917)年9月16日(日)

天気 曇後少雨

三時頃カラ二三度天候ヲ見タガ風ハ強カッタ 到底ダメラシイノデ四時半車ニテ事務所ニ行ク コ、デモ心配顔ヲシテ居タ 風ハ大分ナクナツテ居タ 大口ヲ練兵場ニ見ニヤツタガ返事ガナイノデ七時自動車ガ來タノデ自分で行ク 大シタ風デモナイノデヤルコトニ決シテ宅ニ帰り仕度ヲナシ事務所ニ行キ自動車ニテ場ニ行ク 十時組立完成ス 市長、佐渡島主人竹島其他大分來タ 十時二十分第一回 東北ニ離陸 右回シテ見ルトスグ新世界ノ高塔ガ見エタノデ行ツタ 三分デツイタ 宅ノ上ヲ右折シテ市ノ中央

ヨリ練兵場ニ帰り淀川ニソウテ朝日新聞ヲ目標ニシ行キテ帰場 一週(ママ)後着陸 市長ヨリメタル其他刀一本花環七ツメダル一個等ノ寄贈ヲ受ケ写真ヲ写シ十一時第二回 場上ヲダンス小旋回等ヲナシ着陸後皆ソレ、命令シテ、時事ノ山脇君阿部ト新聞社市長ニ礼廻リヲナシ帰宅後晝食

夕方ヨリ事務所ニ行キ待合セテ一時間■レ七時大坂ホテルニ行ク 佐久會ト鉱業所ノ招待デアッタ 小主人ノ挨拶、前中ノ祝詞自分ノ答辭後二百円ヲ贈ラル 九時帰ル 野島君ヨリ鳥飼氏十一時半ニテ帰京 後十二時帰宅

▲▼277ページ▲▼ 大正6(1917)年9月17日(月)

天気 曇後晴

朝兄ト佐友会、鉱業所全部ノ礼廻リヲナス 小主人宅ニテハ十分バカリ話ヲシテ三百円貰ツタ

午後ハ延次郎君ト近所ノ礼廻リヲナシタ

宴會開會 約一時間遅レテ七時頃ヨリ始メル 野島氏モ來 大ニギワツタ 実ニ愉快ナリデアッタ 後援者ニ対スル慰勞金モ無事終リ十一時散會

大口加藤明朝早ク帰ルト云フノデ大口三三十三円 加藤ニ、十五円 外ニ昆布二円ヅ、戸延君二一円ノ昆布ヲ土産ニ持ツテ行ツテヤル

▲▼278ページ▲▼ 大正6(1917)年9月18日(火)

天気 晴

午前中精算ヲナシ午後朝日、坂神、野島氏ヲ訪問ス

夕方帰り夜又精算ヲナス 全入金千五百三十六円 總支出八百八十余円 後チ新世界ヲ散歩シ帰りテ諸方面ノ礼ヲナシ床ニツク

▲▼279ページ▲▼ 大正6(1917)年9月19日(水)

天気 晴

午前中廻リ残りノ関鉄工所、藤井、佐渡西其他近所全部ヲ廻リ晝食後平岡同道京都ニ行ク 五條三稲垣氏居タ スグ前ガ自宅デアッタ 少憩後 後援會員ノ村止サル人來共ニ事務所ナル某寺ニ行ク 村上後援會員來 話ヲ聞クニ後援ラシイモノハ何ニモ出來テ居ナカッタ。其手段トシテ先ヅ日ノ出新聞主催ニ飛行会ヲヤリタイトノコトデアッタ 日ノ出新聞ハ京都ノ有力家大沢善助氏ノ招會(ママ)デアルトノコト 後チ同氏ヲ訪問シタ 話シハ先方ヨリ飛行料五百円 外ニ發動機ノ借賃トシテ三百円位トノコトニ余ハ五百円デニ三百円ヲ旅費帯在費ニ殘ハ全部稲垣氏ニ渡スコトニテ七日ニテ話ホヽマトマ

ル 広告飛行ハ稲垣氏ノ収入ト云フコトニスレバヤルコトニ話シテ居イタ。後援会ニヨツテ
發動機ヲ買フナドトテモ駄目ナコトデアル 稲垣氏ニモアキラメル様云ツテ居イタ。
深草ヲ見ル 思ツタヨリ広ク附近ノ山モ遠カッタ 下へ凹凸ガ多イノガ唯一ノ欠點デア
ツタ

八時帰宅 夕食後写真ヲ取りニ行ク 明日ノ仕度シテ床ニ入ル 十一時

▲▼280ページ▲▼ 大正6(1917)年9月20日(木)

天気 晴

六時半スデニ中田氏好意ノ自動車ガ來タ 朝食後竹島ニ礼ニ行ク 昨夜ノ岡本、前中
ノモ竹島氏ノ好意トノコト 多謝々々。七時宅ヲ出岡本前中ニ立寄り停車場着 岩名、
松谷兄二名ノ見送リヲ受ケ父ト同車シテ八時半出發 道中変リナク八時四十分無
事東京着 タクシーヲ頼ミ両国着 九時四十分ニテ發車 十時五十分稲毛着 練習
生、助手、吉、花、大口皆來テ居タ。

帰宅後挨拶ヲナシ皆帰ル 一時頃迄山縣ト話アリ 後チ就床 三時前眠リニツク

▲▼281ページ▲▼ 大正6(1917)年9月21日(金)

天気 晴

朝食後白戸ニ行ク 晝食後帰稲 大口ニテ父馳走ニナル 三時半頃阿部ヨリ打報來
今夜六時ヨリ築地精養軒ニ於テ記者招待ヲナストノコト 四時十七分デア上京 丁度磯
部氏ノ歓迎会ガ飛行協会デアルトノコト 其レノ終ツタ後チ自分タチノ方ヲヤッタ 八
時半散会 帰ル時磯部氏ノ丁度帰ル處デアッタ 宍戸氏大原氏協会ノ新主事ニモ會ッ
タ 磯部氏ハ丸デ馬鹿ノ様ニ見エタ。氣ノ毒ナモノダ

帰途鳥飼ニ立寄り九時四十分發ニテ帰宅 入浴 晝食ヲナシ床ニ入ル

▲▼282ページ▲▼ 大正6(1917)年9月22日(土)

天気 曇リ

今ニモ降りソウデツヒニ降ラナカッタ 午前中大坂飛行書類ノ整理ヲナシ晝前前成田
ニ父ト大口ト行ク 参拝後菱屋ニテ晝食 三時ノ列車ニテ帰稲
夜自分ノ切抜ト写真ヲ整理ス

▲▼283ページ▲▼ 大正6(1917)年9月23日(日)

天気 曇リ雨

午前白戸來 十時頃帰ル 後子切抜整理ヲナス
晝食後父ト出發 五時頃兩國着 タクシーニア芝浦ニ行ク 竹芝館ナシ 阿部ニ會フ
鳥飼ニ帰り皆ニ會フ 同氏宅ニ泊ル。日比谷松本ニテ夕食 鳥飼氏ノ馳走。就床後九
時頃お母サン來 シバラクシテ帰ル

◆▼284ページ◆▲▼ 大正6(1917)年9月24日(月)

天気 雨

キリ深カッタ 八時頃ヨリトードー雨ニナッタ 其中ヲ飛行場へ行テ見タ 一度組立タ
ガ三ツニ分解シテ附近ノ倉庫ニ入レテアッタ。稲毛カラ吉ヤ皆來タ 中橋トホーカーノ
支配人トカニ會ツタ 兎ニ角延期ト決シ皆ハ芝ノ明日館ニ宿ヲ取り自分ハ鳥飼氏宅ニ引
上ゲ晝食ス 白戸來 昨日今朝田村機体破損 エンジン頭コハシタ由
晝食後吉、お母サン、父ト三越ニ買物ニ行ク 自動車で行ッテ車ヲ帰ル。三時自分ハ散
髪ニ行キ四時帰り四時半ヨリ帝劇ニ父、お母サン、春、吉、鳥飼氏ト行ク 要チヤンモ
信太郎モ一寸モ泣カナカッタ
十一時帰宅 終(ママ)床
押谷ヨリ稲垣へ金ノ請求セシム

◆▼285ページ◆▲▼ 大正6(1917)年9月25日(火)

天気 曇雨

昨日ヨリハ明ルク時々日蔭サエサシタノデ九時頃父其他ト共ニ場ニ行ク 機ノ組立ハ出
來テ居タ。處ガホーカート翼ノ下ニ書ク書カナイノ問題デ阿部ガ閉口シヨッタノデ反
ニ僕ガ中ヲ取ッテ木炭デカクコトニシテスグ買ヒニヤリ十一時飛行シタ 一直線二月島ノ
上ニ出デ左ニ日比谷ニ出ズ 電車通りヨリ九段、上野ニ行ク モヤデ日比谷カラ九段
九段カラ上野トドコモ見エナカッタ 上野ニ達シタ頃前方ヨリモータータルネヅミ色ノ
雲ガオツテ來タ 上野停車場ヲスギタ頃白イキリノ様ナノガシキリニ飛ンデ來テツヒニ
下界ハマルデ見エナクナッタ 初メテノ出來コトデアッタ スグ右回シテ帰路ニツイタ ス
グ晴レ初メタ。ホーカーノ上デ旋回スルイトマナク逃ゲル様ニ帰場 一二回低空ニテ飛
ビ下降シタ
鳥飼芝田他一同トイケスデ晝食後芝ノ宿ノ拂ヲナシ帰宅。ソレモ、手當ヲナシテ夕食
後帰ヘス。吉ハ小石川泊リ

◆▼286ページ◆▲▼ 大正6(1917)年9月26日(水)

天気 曇リ

今日ハ鳥飼氏ト父ト羽田ニ飛行學校ヲ見ニ行ツタ 白津君モ後藤君モ矢野君モ居タ
要館デ晝食ヲ馳走ニナリ大師ニ参拝シ五時頃帰宅 今迄阿部ト押谷ガ居タトノコト
阿部ノ名刺ヲ見ルト右同五月一日五百円二三六二日六百五十円トノコトデアッタ
兎ニ角阿部ノ宅ヘ行クト丁度中ニ這入ツタ渡辺モ來テ居タノデ五月一日ハヤルコトニ決
定シ六日ハ押谷ニ京都延期ヲナサシメ其返事ヲ廿八日午前ニスルコトニシタ

スグ引返シタ食後父ハ鳥飼氏宅ニ泊リ自分ハ東京駅ニテニ列車待ツタガツヒニ押谷ニ會
エナカッタノデハガキヲ出シテ帰稻、ス 稻垣カラ手紙來テ居タガ頼リナイモノデアッタ

▲▼287ページ▲▼ 大正6(1917)年9月27日(木)

天気 曇リ

今朝ハ八時頃迄寢タ。朝食後各方面ノ手紙ヲヲ讀ミ返事出スモノ ■ト大坂方面ノ
札状ヲ佐野ニ命ジ十時五十五分ニテ上京 鳥飼ニ行ク 今上野ヘ行ツタトノコトニスグア
トヨリ行キ丸万ニテ晝食後化工博ヲ見帰宅 佐野山県ガ來テ居タノデ共ニ所沢ニ行ク
ベク出發 八時所沢着 細村屋ニ泊ル。又雨が降り出シタ

▲▼288ページ▲▼ 大正6(1917)年9月28日(金)

天気 曇少晴

六時頃ブーン、ト音ヲサセテ居タ 朝食後先ヅ協会ノ格納庫ニ行ツテ見ル チヨンマ
ゲガ一台組立テアッタノミ。八時頃ヲ見ハカラツテ航空隊ニ行ク 交通兵団長ノ、ケンエ
ツデ今日ハ見ラレナイトノコトデ中止シタ 三上サンニヨツタガ成田参リヲシテ留都(ママ)
デアッタ 古物屋ヲサガシタガ別ニ何ニモナカッタ 今度入札ガ出タラ知ラセテ呉レル
様ニタノンデ帰ツタ

十一時四十分発ニテ帰ル 上野ニ下車 晝食後佐野山県ト分レ動物園ヲ見浅草ニ行キ
夕方鳥飼氏ニ参ル 阿部ノ方ヨリ和歌山十五、十六、十七確定セリトノコト
夕方帰宅後夕食

▲▼289ページ▲▼ 大正6(1917)年9月29日(土)

天気 雨

終日ノ雨デアッタ 大口ノ支拂ヲ全部サセタガ自分ノ借ニ対シテ一言モ云ワナイノデ
聞カセルト、ソシテ借ハナイトノコトニ大ニシヤクニサワツタカラ給料ハ給料 貸ハ貸ト勘
定ヲ作ツテ持タセテヤッタ デ今返セナイカラ借リテ居タトノコト 尚何ニカ云フコトハ
アルガ十年タツタラ云フ時機ガ來ルダロト云ツテ居タトカ。馬鹿ナコトヲ云フ奴ダ
お母サンノ頼ミデ春子サンニ五十円貸ス 阿部ヨリ三十円ハガキデニツテ來タ 千葉ヘ

行クツヒデガアツタカラ電爲替ニテ送ツテヤツタ

昨日稲垣カラアス村上カラ返事スルトノコトデアツタガ返事ハ來ナカッタ

◆◆290ページ◆◆ 大正6(1917)年9月30日(日)

天気 雨

今日モ又雨 十時頃父ト白戸ニ行キ吾妻俱樂部ニテ晝食 妓ヲ上ゲ三時頃帰ル 一寢
入リシテ入浴 夕食後早ク床ニ入ル 数日來警報アリ 今夜八時頃ヨリ颱風來ルトノ
コトナリシモ十一時頃ヨリ吹キ初メタリ 然シ今迄ノ風位ト思ヒ居リシテヤガテ電氣ハ
消サレ二時三時頃ハ雨サエハゲシク各所ニ雨モリヲ生ジタレバ夜具ヲ方ツケ畳ヲ上ゲタ
リスル内物スゴキ音響ヲ生ジ屋根瓦ガ飛ブモノト思ヒシニ格納庫ヨリ皆引上ゲ格納庫
ノ絶望ナルヲツゲタレバモコレ迄ト重要書類ヲ小カバンニ入レル内水ガ出テ來タトノ
報アリ イヨヽヽダメト思ツタノデ下ノモノヲ上ニ上ゲ自分ハ、サシヅメ寒サシノギダケ
ニカバンヲツクリ、指揮スル内下坐敷ノ戸ハヅレルト同時ニ浪ハサツト飛ビ入リタレバ、ソ
レ逃ゲロト先ヅ父ヲ出シ吉ヲ出シ大勢ハソレヲモリテ海氣館ニ引上ゲタリ 夜ノ明ケル
迄柳原ノスガタ見エズ大ニ心配スル内明ルクナツテカラ帰り來ル 聞ケバ家ノタオレル迄
中ヲ整理シ神様ト信太郎ノオシメヲ持ツテ來タトノコト 大手柄デアツタ 今夜ハ午後
カラ團子ヲツクツタリシタガ皆流レテシマッタ

◆◆291ページ◆◆ 補遺

大坂飛行成功

東京ホーカー飛行

◆◆293ページ◆◆ 大正6(1917)年10月1日(月)

天気 晴

五時頃雨ハ止ミタリ 明ケルト同時ニ海氣館主人へ炊出シ料トシテ三十円包ミテヤル
後チ二十六號ノ下坐敷ヲ明ケテクレタ 當分帯在スルコトニシタ 後チ荷ヲ全部運ブノ
ト方ヅケルノニ一日カッタ タ方ヌレ物ハヌレ物デ明日ノコトニシテヤツト一服□クツイ
タ

上總屋ハ海岸ノ家ハ勿論オモヤモナガレ残ツタノハ四疊半ト風呂場ハナレデアツタガ四疊
半ハツカエナカッタ 夜行ツテ格納庫ノ材料ヲ全部ヤルコトニシタ 家ダケハスグ出來ルダ
ロ

自分ハ色々考ヘタガ此際大坂ニ引上ゲルハ最モ好時機ト思ツタノデソウスルコトニ決シタ

サテ困ルノハ河村ノお母サンダガ之レハ會ツテノ上ニ決スルコトニシタ
午後風モヤンダ 夜ハ静カナ明月ハ空ニ輝イテ居タ
寒川ハ人死ガアッタトノコト 汽車電信不通 白戸ノ方ハ格納庫ダケ宅ノ方ハタスカ
ツタトノコト

▲▼294ページ▲▼ 大正6(1917)年10月2日(火)

天気晴

今日モ汽車不通 トナリノ東京ノ人ハ成田ヲ廻ッテ帰ツタ 一日ノ新聞ガ來タ 大坂
方面ノコトガクワシクワカラナカッタ 柳原、青島、上總屋手傳ヒ 井上内ノ洗濯手傳
ヒ。佐野、山県、藤原中原格納庫。海宝氏ヨリ手傳ヒ一人來ル
晝食後千葉へ副食物ノ買物ニ行ク。海岸ヲ徒歩デ行ツタガ随分非(マ)慘ナモノデアッ
タ 白戸ニテ一服シ車ニテ買物ヲトノエ五時半帰宅

▲▼295ページ▲▼ 大正6(1917)年10月3日(水)

天気晴

午前九時廿四分上リヨリ兩國ニ行クトノコトニ早速上京シテ見タ 井上長、鳥飼氏ト
行違ニナツタ。スグ小石川ニ行ツタガ不在デアッタノデ晝食ニ出テ帰ルトモ一帰ツテ居
タ 一通リ話ヲシテお母サンニ巢鴨トヨク相談スル様頼ンデ帰ツタ。此間ノ五十円ソノ
マ、返シタノデ内三十円ヲお母サンノ名デ春子サンニ 十円ヲお母サンニ小遣トシテ上
ゲタ。鳥飼氏ニ會フツモリデイソイデ帰ツタガ二時五十分ニ乗リオクレ四時廿五分ニナ
ツタノデ六時ニ稲毛ニツイタ 井上長ノ帰ルノニ出會ツタガ鳥飼氏ニハ會エナカッタ

▲▼296ページ▲▼ 大正6(1917)年10月4日(木)

天気晴

今日ハ鳥飼サン來ルカト待ツタガツヒニ來ナカッタ
引越ノ準備ヲシタ。吉朝信太郎ヲ醫者ニ連テ行ツタ。西宮氣ニナルノデ佐野出發サセ
タ
見舞状ガ大分來タ 皆返事出ス

▲▼297ページ▲▼ 大正6(1917)年10月5日(金)

天気 曇少雨

今日ハ引越準備ト明日出發準備ニ一日ヲクラシタ 宅ノ道具ダケハ行李積メニ全部出

來夕

昨夜中ニ大坂ヨリ西ノ宮大丈夫トノ電報來ル

藤原今日出發シタ 東京八明日ノ由

▲▼298ページ▲▼ 大正6(1917)年10月6日(土)

天氣 雨

上總屋海氣館ニタノンデ父ト八時ニテ出發 鳥飼ニお母サンモ來テ居タ 阿部ニ來ル様
電話ヲ懸ケ更科ヘ晝食ヘ行ク 阿部帰リテ阿部ニ會フ お母サント松屋ヘ買物ニ行ク。
羽織ト着物ト長ジバンデ七十五円五十四銭カ、ツタ。鳥飼ニ帰ル お母サンモヤハリ行
クトノコトデアッタ 阿部ガ居テ金渡スカラ來イトノコトニ今夜多分僕ノ次ギノ汽車デ
出發スルトノコトデアッタ

▲▼299ページ▲▼ 大正6(1917)年10月7日(日)

天氣 晴

八時着ノ予定ガ九時着 義兄、四良平、松谷、佐野ガ迎ニ來テ呉レテ居タ 吹田辺リ
マダ水ノアル處ガアッタ

帰宅 竹島ニ挨拶ニ行キ晝食後父ト四良平佐野ト四人嵜ヘ家ヲサガシニ行ク イ、ノガ
見ツカラナカッタ 夕方帰ル 夜ハクタブレテ早ク眠ル 父ハ中々元氣デ又ドコカヘ行ツタ

▲▼300ページ▲▼ 大正6(1917)年10月8日(月)

天氣 曇

午前散髪ヲナス 阿部ノ帰リヲ待ツタガツヒニ來ラズ 晝食後佐渡島西店、藤井、ニ行
キ帰途島津氏ヲ訪ネタガ不在デアッタ 三時帰ルトニ五〇送ツタニ一八ヘ電話カケヨ
トノコトニスグ和歌山ニ電話カケタ 三百円ノ内五十円阿部ガ借りタトノコト 不都合
ナヤツダ。広瀬ガ丁度來テ湯浅話シ中デ五百円デ三日展覽一日飛行トノコト 展覽
ヲミジカク飛行日ヲ廿二日ヨリ延サヌコト 費用向フ持チニテ確實ナ人間ナラヨシト電
話ヲ切ツタ

夕方七時二十二分發ノ處八時三分發デアッタ 満員デ發車後僅ニ腰ヲ下スコトガ出
來夕

▲▼301ページ▲▼ 大正6(1917)年10月9日(火)

天氣 曇リ

予定ヨリ二時間遅レ十一時頃着シタ。鳥飼ニ行ク。広島百円送金シテ來タ。三十一日ハ最(ママ)非タノムトノコトデアッタ。スグ兩國ニ行ク。アトカラ鳥飼氏ガ阿部カラ來タ電報ヲ持ツテ來テ呉レタ。二〇二二展覽二二飛行前五百円受取ルトノ意味ニツキド一モアヤシイノデ十七日手金受取り飛行前日全部呉レネバ止メヨト云ツテヤッタ。二時帰稻。青島ハ白戸へ手傳ニ行ツテ居タ

▲▼302ページ▲▼ 大正6(1917)年10月10日(水)

天気 雨

今日モ出發準備デ終日クラシ夜ハ大ロヲヨンデ皆一杯ヤッタ。京都ヨリ押谷來ル。二二日ヤツテ呉レトノコトデアッタノデスグ阿部へ湯浅ガドウナッタガ打電シテ今夜ハ泊メタ

▲▼303ページ▲▼ 大正6(1917)年10月11日(木)

天気 雨風後晴

午前四時五時頃ハ非常ナ雨デアッタ。お晝頃ニハキレイニ晴レテシマッタ。風モナクナッタ。十時十五分ニテ白戸ニ行キ送別ノ意味デ晝食(支那料理)ヲ馳走ニナリ二時二十分ニテ帰稻。海気館其他ノ支拂ヲスマセ茶代女中等モ充分ニシテ三時三十五分ニテ出發ス。女ハ春子サン處へヤリ自分等ハ鳥飼氏ニ行ク

今朝阿部ヨリ返電アリ。二十二日ヤル。手金モ取ツタトノコトデ京都ハドーシテモ広島後ト云フコトニシテ貰フコトニシタ。金式百五十円ノ内押谷ガ旅費ヲ持ツテ來ナカッタ。カラトテ二十円貸。二百卅円受取ル。受取書ハ二百五十円。宛名ハ京都日ノ出新聞社支配人ニシテ呉レトノコトニソウスル

▲▼304ページ▲▼ 大正6(1917)年10月12日(金)

天気 曇リ

六時起床。仕度ヲナス。広島方面ノ打合セモ充分ナシテ出發セントセシニお吉來ラズ捨テテ行ク。發車七分前漸ク來ル。石田、井上妻、高林氏ニ見送ラル。春子要チヤン甚ドンモ來ル。發車前白戸夫妻ガアワテ、ヤツテ來タ。之レヲ見送リノ内ニ八時半定刻出發ス。沼津ニテ晝食。静岡ニテ名古大坂吹田間不通ニ付名古屋ヨリ関西線ニ乗替へラレタシトノコト。ツイテ名古屋ニツク頃大坂吹田間徒歩連絡出來ルトノコトナリシモ小供ヤ荷物ガアルノデ名古屋ニテ乗替。急行料半額割戻シヲ得タ

関西線モ予定ヨリ遅レ十二時着。店ノ夫妻トキヌ子クンガ迎ニ來テ居タ。電車ニテ帰宅。夜食ヲナシ挨拶モ終リ一時二十分床ニ入ル。三時頃眠ル

◆▼305ページ◆▼ 大正6(1917)年10月13日(土)

天気 曇後晴

今日ハ荷物ガ來ナイノト飛行機ガマダ出ナイノトデ終日氣ヲモンダ 飛行機ハツヒニ船ニツンダガ夜オハ北風ニナレバ出ルト云フタヨリナイ報告デ寢テカラモ夢バカリ見テ居タ

マグネトデイキシ一合ナイノデ東京ヘボツシユヲ持ツテ來ル様打電シタ ソシテ自分ハ高左右ノヲ聞キニ行ツタ マダ賣レテナイトノコトニ分ケテ貰フニ話シテ帰ヘタ

◆▼306ページ◆▼ 大正6(1917)年10月14日(日)

天気 快晴

日本晴レノ好晴。天気モ定マツタカト思ワレタ 井上長朝早ク和歌山ニ出發 ソレカラ一寢入シテ八時半頃起キタ 父ヤ兄二人ト温浴ニ行キ九時半過ギ帰ル 井上貞ガ來テ居タ マグネト間ニ合ウタ 井上ハスグ今日帰ルトノコトニ自分ハソレヲ持ツテ十一時半ノ電車ニテ和歌山ニ出發 井上ニ船ガツイタラスグ打電スル様云ツテ居イタノガツカナイノデ心配シナガラニ時旅館ニツイタ 船ガマダコナイトノコト 晝食後場ニ行ツテアノ船カコノ船カトサワイデ居ル中ニ四時頃裏ノ方カラ今ツキマシタトノコト ナンダ一勢見テ居ナガライツハイッタカシラナイノダ 兎ニ角スグ陸上ヲナシ夜十二時迫ニ機体トプレンダケ組ンダ

夕方稲垣ト日ノ出新聞、ト井上君トガ來タ 何ントカシテ何ントカシテト云フノデツヒニ廿六日ヤルコトニシタガ少シデモ天気ノ支障ガアレバ出來ナイノダカラ其點ハ特ニコトワツテ居イタ

◆▼307ページ◆▼ 大正6(1917)年10月15日(月)

天気 曇雨

午前中ドーヤラ天気デアッタガ午後カラ降り出シタ

十一時發動機廻シテ見タガヨカッタ 二時半頃止ミソウモナイノデ小降りノ内ニヤルコトニシテ引出シタ 沖ニ滑走シテ居ル内ニ山縣ガダメ、止メヨト云フタガ陸風ダカラ止メナカッタ ヨク聞クトオイルポンプガ働ライテ居ナイトノコト ソレナラ少シ位大丈夫ト思タノデセンカイシ思切ツテ少シ離水シ直線デ着出發點ニ帰ヘッタ 機上デ山県ニ雨ノ爲メ見エナイト云ツテ居ケト打合セシテ上陸シタ ソシテアトデシラベテ見ルト水ポンプノ取付ボールトガ一本折レタ爲メ其シャフトトカミ合ツテ居ルオイルポンプガ働カナクナツタノデアッタ 折レタボールトハ今夜出來上ガッタ 其他ポンプノ中モシラベテ直

シタ
之レデ今日ハ無事終ツタ ナンダカ折カラ今日ハ故障ガアリソーナ氣ガシテナラナカッ
タガ天祐ノ爲メ之手 ■■ズニスンダ

▲▼308ページ▲▼ 大正6(1917)年10月16日(火)

天気 曇少雨

今日モ曇ツテ居タ 会社カラ延期ヲ申込ンデ來タ 九時頃迄ニ皆ハポンプノ取付ヲ終ッ
テ帰ツテ來タ。余ハ日記、金銭出納ヲツケ、後チホールスカットデ陸上ノ快速機ノ設計
ヲヤツタ USAノ六號ガヨサソウデアッタ
宅カラハガキデ田中定ノ宅ヲシラセテ來タノデ行ツタ 處ガ吉田勝ノ実母ト妻君ノ母
トノ間違デ随分方々車デ走リマワツタ。ヤツト西鍛冶屋町デ會ツタ 一寸ワスレテ居タ
様デアッタガ伊藤ト聞イテスグ思ヒ出シタ 丁度十二年振リダ

▲▼309ページ▲▼ 大正6(1917)年10月17日(水)

天気 風雨

今日ハ昨日ヨリ尚悪イトノ報告ニテ中止 午後カラ南々西ノ風ハゲシク堤防ヲ波ノ飛
越スオソレアリトノコトニブレーンヲ分解シ安全地ニ被(マ)難ス 丁度夕方ニナツタ
夜井上君ノ初ヨリデ女中ヤ阿部君ノ滑稽ワイセツ談デ一同抱腹シタ 九時床ニ入ル

▲▼310ページ▲▼ 大正6(1917)年10月18日(木)

天気 曇少雨

今日ハ降りソウニモナカッタ 会社側カラモ請求シテ來タノデ機体ヲ組立サセル 午前
中ニ出來タ
晝食後行キニ時半過ギヤツタ 東ノ風五米突位 山ノ關係上氣流ヲ氣ツカッタガ、ス
コブル安定ハヨカッタ 山県同乗約廿分 帰りニ一寸ジャンプシ後チ滑走ヲ山県ニ操縦
サセタ

鳥飼氏ヨリ手紙來タ 廿一日絶対ニ延期出來ヌトノコトデアッタ
今日稲毛ヨリ大坂デ引越ノハガキヲ出ス 二百二十枚 三十枚残ツタ

▲▼311ページ▲▼ 大正6(1917)年10月19日(金)

天気 晴レ

今日ハ漸ク晴レタ 午前中日記ヲツケ手紙ヲ書キ山ノ犠牲ヲ讀ム 十時仕度シテ場ニ

行ク 十一時前準備成り松谷同乗 西風ヲ向ツテ離水 数週(ママ)シテ着水。午後三時前ヨリヤル 佐野同乗 波ガ大分大キカッタガ先ヅハ無事ニ終ツタ
朝日舎ヨリ十八金ノ時計用磁石ヲクレタ アシベヤノ娘並ニ女中連ヨリ花環二個
京都ヨリ夜阿部ニ電話 昨日ノ手紙見タトノコト 延期ニ確定。鳥飼氏ヨリ昨日飛ンダコトニ対スル返電並ニ外一ヶ所キマリタトノコト

▲▼312ページ▲▼ 大正6(1917)年10月20日(土)

天気 曇リ少雨

朝カラ今日モ又降リソウナ日デアッタ 一時頃ハラ、シタ 二時前今ニモ降り出シソウニナッタノデヤッタ 井上長同乗 上ルト二度エンジンガ切レニ三週(ママ)後ニツ四ツ切レタノデスグ降りタ 之レニテヤツト無事終ツタ
積込ミニ夜七時半迄カ、ッタ
稲垣來 最(ママ)非ニトノコトデアッタガ絶対ニコトワッタ 來月ト云フコトニシテ廿七日ハ展覽會ダケデモヤルトノコトデアッタ
夜松谷ト一所ニ帰ル 十二時帰宅

▲▼313ページ▲▼ 大正6(1917)年10月21日(日)

天気 晴風アリ

七時過ぎ宅ヲ出テ梅田ニ行ク 列車ハ二十分ばかり遅レテ着イタ 鳥飼氏ニ面會 マグネトヲ渡ス 広島ニ好ノ外一ヶ所水上出來ルトノコト ソレニテ一時打切リニスルコトヘ話シキマル
三好四百五十円ノ由 帰途立賣堀通りヨリ九條ニ徒歩ニテプライヤーヲサガシタガドコニモナカッタ
十一時頃帰宅 眠イノデ横ニナツテ居ルト兄ヨリ電話ニテイロハニメシヲ喰イニ來イト云ノデ行ツタ 後チ松谷ヘ行き兄弟二人ト朝日座ノ活動ヲ見ニ行キ夕食ヲかきニテ喰ヒ帰宅 八時頃 然ルニお吉、お徳、柳原トお照サント活動ヲ見ニ行ツタトノコト 十一時頃帰ル 大ニシカリツケテヤッタ

▲▼314ページ▲▼ 大正6(1917)年10月22日(月)

天気 快晴風ナシ

朝手紙ヲ見ルト高左右君カラマグネト出來テ居ルトノコト スグ行ツタガナンダ出來テ居ナイノダ

十時帰宅 仕度ヲナシ十一時半ノ電車ニテ出發 一時半和歌山着 和歌浦二時 マダ

一時半程ノ間ガアルノデ休息スベクスガ屋ト云フ内ニ入ル
四時出船 六時湯浅着
夕食後當地後援会員ダト云フ新聞通信員二名ニ會フ

▲▼315ページ▲▼ 大正6(1917)年10月23日(火)

天気 曇後晴

朝発動機ヲ廻ス 調子ヨシ 安心 三時半頃中小學生ノ爲メ久シ振リデ説明シタ
夜金デ大分ゴタ、シタ ヤット百五十円ダケ取りアトハ第二回飛行前ニ渡ストノコト
デ阿部ガ帰ツテ來タ 予想的中

▲▼316ページ▲▼ 大正6(1917)年10月24日(水)

天気 雨

終日雨ノ爲メ中止 余ハ昨日買ツタ「死ノ蔭」ヲ讀ム。佐野ト碁ヲヤツタガ一向振ワナ
カッタ

柿原氏へ金大坂へ帰ツテカラ送ルコトニ手紙ヲ出シタ。稲垣カラ來月廿六七日頃ヤツテ
呉レトノコトデアツタガ柿原君へ出ス手紙ト同時ニ稲垣へモ出デアッタノデ一度會ツテヨ
ク話ヲスル必要ガアルト思ツタカラ其趣キダケ通知シテヤル

白戸カラ、成功ヲ祈ルタノムトノ電報ガ來タノデ鳥飼氏ヨリ百円受取ル様手紙出シタ
過日血書ノ青年來ル イロ、説論ノ上自動車研究ニ入ルコトニナツタガ一文モナイト
ノコトニ東京迄ノ旅費ヲヤルカラ大坂迄手傳フコトヲ命ジタ 午後ヨリ宿ニ來ル 名八岡
本

▲▼317ページ▲▼ 大正6(1917)年10月25日(木)

天気 雨

昨日ヨリ又一段ヒドイ雨デアツタ 午前七時鳥飼氏ハ間ニ合ワヌカモシレヌ 明日飛ベレ
ハ間ニ合ウト云フ電報ヲ打ツタガ返事ガナカッタノデ事ニヨルト今朝ノ最急デ出發シタ
後チデアツタカモシレナイ

夕方イロ、考ヘタ末阿部ト井上トニ若シ三百円スツカリクレルナラ居テモヨイガ呉レナ
イナリ先キノ契約モアルノダカラ一先ヅ中止シテ引上ゲルト云フコトニ交渉サセタ結果
明朝渡スト云フコトニナツタソウダ

▲▼318ページ▲▼ 大正6(1917)年10月26日(金)

天気 晴

晴雲シキリニ南ニ走リ晴レ模様ナリシモ風ハゲシク浪高く飛行不可能 広島ヨリ日延出
來ヌトノ電アリ 鳥飼氏ヨリモ又運送至急ヲセマリ來ル コヽ於テ山県其他ハ機体ニツ
キ大ニ懸念ヲ初メタレバ余モ心進マズツヒニ飛行中止ニ決シ交渉ヲ開始ス 後援会ツヒニ
手ヲ引キ百五十円ハ其マヽ返金セシカバアトハ広瀬ハ勿論飛行料出來ズ中止ト決定 四
時ナリ スグ汽船ヲ聞キ合セシモノナシトノコトニ車ヲ命ズ 黒江迄十里弱 今日ハ風ガア
ルカラ二人引デナケレバトノコトニ七円フンパツシテ五時十五分前出發 大工頭モ引ク
錢(ママ)路ト左右ニナリツヽ行クコト一里バカリニテ有田川ニ出ツ コレニソウテ下ルコト
二里 箕寫ニツク コヽニテ車夫カワル 五十錢増サレル 二十分バカリ休ム 六時出發
コレヨリ山道ニ入り金川峠ヲ起シ池カト思フ畔ニイヅレハ大船ヲ浮べ居ルニ不思議ニ思ヒ
車夫ニ聞ケバ海ナリト ヤガテ塩津着 京橋迄四里二十二丁ナリト コヽヲハヅレレバ左
下ニ海ヲ望ムルカ前方ニ煙火アルハ和歌浦ナリ 十日ニ近キ月下ノ山腹ヲ海ニソヒ右折
左曲和歌浦ノ火ガ右ニナリ左ニナリ進ム中日方町ニ入 コレヨリハ町ツゞキニテ案外早く
黒江着 市駅九時

▲▼319ページ▲▼ 大正6(1917)年10月27日(土)

天気 晴

静カナ上天気デアッタ 入浴 朝食後母ノ墓ニ参リ戎神社、氏神ニモ参拝ス。
積出シ電報今ニモ來ルカト待ツタガツヒニ來ナカッタ
夕方阿部ト岡本來ル 夕食後岡本ニ五円與ヘテ出發セシム 阿部トハ相連レ梅田ニ行ク
八時半デ阿部帰京ス 自分ハ同二十二分鳥飼氏ニ會フ 湯浅中止ニツヒテハ氣ノ毒ガツ
テ居タ 百円受取ル
帰宅 六時頃船ツイタトノ電來タ 十時頃井上長婦リ來ル 十二時頃十時出發ノ電
來ル

▲▼320ページ▲▼ 大正6(1917)年10月28日(日)

天気 雨

夢カラ醒メテ驚イテ時計ヲ見ルト四時十五分 スグ起床 雨ガシキリニ降ツテ居タ 困
ツタ天気ト思ツタガシカタガナイ 井上下車デ行ク 朝早イノデ運送屋モ寢テ居タガ
起コシテ話シスルトソナニ急グモノデハ出來ナイトノコトニ直アツカヒニスルコトニシタガ
之レモマダ係リガ來テ居ナイノデトニカク濱ニ行ツテ見ル 船ノソレラシイノガ見エナイ
森六商店員ガ一人親切ニ見テ呉レタガ分カラナイノデ井上君ヲ貨車ノ方ニヤリ自分ハ
森六ノ店員ヲ頼ンデ人足ノ手配ヲシテ八時頃井上婦ヘテ來タガヤハリ船ハコナイノデス
ミヤト云フ旅館ニ入り休ム 三階ノ手スリニヨリ見テ居ルト十一時頃ソレラシイノガヤツ

テ來タ。ハタシテソレデアッタ マヅ山県佐野ト四人デ晝食ヲナシ金ヲ渡シテ自分ハ藤原君ニ會ヒ帰坂ス。睡眠不足ノセイカ頭痛ガシテナラナカッタノデスグ床ニ入りアンマヲ取ル
押谷來。ナルベク來春ニスルコト 商賣ヲヤルコト 其他ソレ々、注意ヲ與ヘ柳原トルナ。パークヘヤル

▲▼321ページ▲▼ 大正6(1917)年10月29日(月)

天気 曇夜雨

温泉ニテ朝食 昨夜ハ六時ヨリ今朝六時迄十二時間グスリ眠ツタノデ頭ハ大分ヨクナツタ様ダ

高左右君處ヘ行ツタガ練兵場ヘ行ツタトノコトニ夕方來テ呉レル様タノデ帰途佐渡島両店ニ立寄り難波ヨリ住吉ニ參詣 十二時半帰宅 押谷ト稲垣ノ妻トガ來テ居タ。要スルニ今年中ニヤツテ呉レトノコトニ承知シテヤツタ

後チ出發準備ヲサセ三時頃ヨリ大山館ヘ行ツタ 少シ見ル内面白クナイノデ帰ツタ 丁度高左右君ガ來タノデヤヨヒニ行キ夕食ヲ共ニシマグネト買エナイコトヲ談ズルト同君モツヒ二本音ヲハイテ百円ダケスグモラエバアトハイツデモヨイトノコトデアッタ

八時雨ノ中ニ分カレテ帰宅 信太郎ガ熱ガ出デ冷シテ居ルトノコトデアッタガ時間ガ來ルノデ出發シタ 九時五十七分發ニテ立ツ 柳原見送ル

▲▼322ページ▲▼ 大正6(1917)年10月30日(火)

天気 晴

七時四十何分無事着 山県百太郎、鳥飼、手島、大平樂主人等ノ出迎ヲ受ケ大手町ノ花屋ニ入ル 町ハ七年前ニカワリガナカッタ 其時工事中ノ電車ガモ―大分古クナツテ走ツテ居タ

機ハ今運搬中トノコト二十時頃場ニ行ク 土手ノ前ニ海ノ中ニ台ダケ出來テ屋根ハナイ格納庫デアッタ 十一時半主催者ノ招待デ羽田ノ別荘ニ行ク 一日ノ電車開通式ノ與キヨーノ練習ダトテ宮島踊リト云フノヲ見タ 中々上品ナ舞デアッタ 三時頃場ニ行キ組立ヲ手傳フ 夕方迄ニプレーモ出來アトハプロペラトタンクヲツケルダケニナツタ羽田ノカノエノ天羽ト云フ近ク藝者ニ出ルト云フノガシキリニノセテ呉レトテ場ニモ來夜又一人デアツテ來タノデヨク説明シテアキラメサセテ帰ヘシタ

柴氏ニ會フ イツモ愉快ナ貴公士デアアル

夜中国新聞記者ニ飛行界發達ニツキ大ニ論ジテヤッタ

▲▼323ページ▲▼ 大正6(1917)年10月31日(水)

天気 晴

三時半目醒メテ以來硝子戸ガガタ、云フノデ眠レナカッタ 七時起床 朝食 手紙ヲ書キ後ち場ニ行ク 風次第二ナグ 十時半第一回 山県同乗 十二時前第二回 佐伯兄君同乗 無事終ル 第一回ノ時プツン、キレタノデシラベルトパイプノ中ニワラクツガニツニ小砂ガ這入ツテ居タ。二回目ハナントモナカッタ 晝食後皆モ天長節ニ付キ帰り來ル 三時半頃ヨリ自動車ニテ宮島迄行ク 五時半過ぎ帰ル。佐伯氏ノ招待ニテ又羽田ニ行ク 天羽君ハ丁度居ラナカッタ 何ンデモ宮崎ヘ行ツタトノコト

八時過ぎ辞シテ帰途アレキシヨニ立ヨッタガ居ナカッタ 途中メシヲ喰テ帰りアンマヲ取ツテ眠ル

◆▼324ページ◆▼ 補遺

本月ハ大体ニ於テヨクナカッタガ身体ト飛行機ダケハ無事 先ヅハ目出度し、、、

◆▼325ページ◆▼ 十一月

京都飛行

住宅ヲ作ルコト

練習場ヲ作ルコト

◆▼326ページ◆▼ 大正6(1917)年11月1日(木)

天気 曇リ

今日ハ曇ツタ寒イ日デアッタ

十一時頃第一回飛行 少シ長クヤッタ 風ハ大分アッタ ヤツパリ大廻リガヤリニクイ。

午後ハ一時一寸過ギヤッタ ドチラモ山県同乗

当要塞司令官谷田少将來リ會フ 元ノ工兵課長デアッタノデア案外話ガアッタ

午後宿ノ主人ガフクヲ馳走シテ呉レタ

◆▼327ページ◆▼ 大正6(1917)年11月2日(金)

天気 雨

七時半頃起床 仕度ヲナシ十時半ノ己斐發ニテ五人宮島ニ行ク 己斐ニテ大正七年度

ノ運勢ヲ求メ車中大ニ賑フ 雨ハ小降りデ午後ハ止ンダ 五時頃帰ツタ 夕食ハ一同ニラ
グヲ喰サセルベク女中ヲ一人連レテ出タ 吉村ニヨツテアレキシヨニ會ツタ スグアトカ
ラ來ル様ニ云ツテ行ツタ トコロガ満員デダメデアツタ 再ビ吉村ニ行キ同ニ階ニテフグ
ヲ取寄セダ、ノ藝者デ大ニノム。初メノ中ハアレキシヨガハツカシガツテオカシカツタ 今
年十八ニナルソウダ。ヨク見テ居ルト小供ノトキノ面ザシガダン、ト思ヒ出サレタ。後
千朝日軒ニテ松茸メシヲ喰ヒ帰宅 十二時デアツタ

◆▼328ページ◆▼ 大正6(1917)年11月3日(土)

天気 晴

今日ハ快晴無風ノ上天気デアツタ

五時起床 機ノ積込ミヲナシ八時ノ列車ニテ出發 十一時着 主催者其他ノ出迎ヘヲ
受ケ車ニテ旅館岡島ニ入ル 晝食後場ヲ見ニ行ク 広イ様ダガ凹凸ガ多カツタ 然シ今
日ノ様ナ天気ナラ申分ハナイガ天気好クアツテホシイ 附近ハ山近ク西ノ方ガヤ、開ケ
テ居ルガ其方ニハ飛ベナイノデアツタ 南ニ向フヨリ外ニ道ノナイ處ダガ大分巨(ママ)離ハ
アルガ橋其他ヲ飛ビ起セルダロー

◆▼329ページ◆▼ 大正6(1917)年11月4日(日)

天気 曇雨

キクニモアラズ曇ツテ居タノデ心配シナガラ九時場ニ行ク ポツリ、、ヤツテ來ガ人ハ隨
分出タ様ダ 機ヲ組立ツ 一雨過ギテ十一時頃丁度止ンダノデ同三十分飛揚 十五
分間ニテ着陸後雨ハ又一シキリ降ツタ

晝食ニ宿ニ帰ル 二時頃又上ガツタノデ大ニ嬉(ママ)ンデ場ニ行ク 此時ヨリ一團ノ黒
雲西方ノ山ヨリムク、湧キ出デ北ノ風サエ交ジエテ十二時ハ山モ見エズナツタ ソレモ二
寸デ三時過ギ小降りニナツタノデ急イデヤツタ 風ハ少シ北カラ吹イテ居タノデ着陸
ヲ見物ノ頭上ヨリ川ノ方ニ向ツタ爲メ例ノ後部着陸ヲヤツタガアイニクソコガ凹凸ノハ
ゲシイ處デアツタノデバウンドハゲシク右ノ櫓ヲ折ツタガ無事終リテ六時半ニテ広島ヘ
出發 十時着十二時就床

◆▼330ページ◆▼ 大正6(1917)年11月5日(月)

天気 晴風強シ

皆ハ早く出テ行ツタ 九時頃帰ルトノコトデアツタガ帰ラナイノデ見ニ行ツタラ行違ニナ
ツタ 東練兵場ヲ見帰リニ西練兵場モ見テ阿部二十五円送ツテヤル 午後鳥飼氏ト勘
定シタ 當地ニヶ所デ千五百円ニナルガ経費ヲ差引ト僕ノ處へ三百五十円來テ居ルガ

其内百円ハ運賃ニ出テ残ルニ二百五十円ノ内助手ノ手當四十円 阿部二十五円 百円ヲ白戸ニ 卅円ヲ稲垣ニ 弍十円ヲ雜費ニ 残ル處ハタゞノ三十円バカリニナツタガ之レデハサシヅメノ小遣ニコマル事ニナル 然シ之レヲ運命一ツ帰坂ノ後ノ活動ガ大切シヤ 夜山県宅ノ招待ニテ吉村ノ宴會ニ行ク 十時帰宅シタ
今モアレキシヨガ來テ大分ヒヤカサレテ居タ

▲▼331ページ▲▼ 大正6(1917)年11月6日(火)

天気晴

風マツタクナギテ好飛行日和 皆ハ六時ニ出テ行ツタ 自分ハ七時起床 朝食後九時場ニ行ク 組立ヲ手傳ヒ十一時半飛行ス 小學生ガ非常ニ多カッタ 数回旋回 高空抵(ママ)空ヲ飛行シテ十五分間余リニテ着陸ス 佐伯卓爾氏ヨリメタル 佐伯庄兵衛氏ヨリ花環ヲ受ク 團原小學校ヨリ山県ニ花環一個ノ送呈アリタリ。余等ハ自動車ニテ晝食ニ向フ途中泉庭ヲ見写真ヲ取り府長市長ニ敬意ヲ表シテ富士川ニ行ク 横川倉庫ノ扱ヒ料高價ナリシヨリ佐伯氏ト鳥飼氏ト大ニモメル
夜出發ニ際シ柴氏ニ依頼シテ余等井上佐野ト出發ス 花屋主人モ同行 食堂ノ馳走ニナルアレキシヨト若勝ニ富士川ニテ會フ後チ電話ニテ見送り出來ナイカラ柿ヲ送ルト云ツテ來タ

▲▼332ページ▲▼ 大正6(1917)年11月7日(水)

天気晴

七時半帰着 井上兵庫ニテ下車 渡辺氏神戸下車 電鉄課長三ノ宮下車 帰宅後温泉ニ行キカレコレスル内晝ニナル 午後ハ各方面ノ礼状ニ終日終ル 夕食後新世界ノ落語ニ行ツタガスグ帰ル

▲▼333ページ▲▼ 大正6(1917)年11月8日(木)

四時頃カラ信太郎ガナイテコマッタ 六時起床 仕度シテ梅田ニ行ク 鳥飼氏下車 共ニ梁瀬ニ立ヨリ政夫君ニ會フ 荷物ヲ預ケテ宮塚ヨリ箕面ニ行キ晝食後帰ル 雨降ル宅ニヨリ公園ヲ見帰リテ夕方ヨリ兄ト戎橋ノハリ半ニテ夕食後自動車ニテ梅田ニ送ル 政夫君ニモ會フ
九時帰宅 井上帰ツテ居タ

▲▼334ページ▲▼ 大正6(1917)年11月9日(金)

天気 晴

八時起床 朝食 日記 大口ニ手紙ヲ出シ各方面新聞ヲ送ル 後チ朝日新聞ニ小西氏ヲ訪フ マダ出勤セヌトノコト 毎日ノ上田君ヲ訪問ス 大演習ノ爲メ出張中トノコト 中島製作店ニ行ク 熊木、立花両氏モ居合セ初対面ヲナス。一時間バカリデチヤンピオンノ發動機ノ事モ皆聞イテ帰ル 市長ニメタルノ札ニ行キ晝食後小西サンヲ訪ネタガ不在ニテ佐渡西ニヨル 之又不在ニツキ帰宅ス 工業所へ飛行機入レ場ヲ借りルコトニシタ 夕方藤原君來ル 食事ヲ共ニシテ帰ル

▲▼335ページ▲▼ 大正6(1917)年11月10日(土)

天気 曇少雨

八時過ぎ起床 入浴ニ山県佐野ヲ連レテ行ク 今日ハ終日七月以降ノ出納調べヲナシタ 夕方迄ニ決算表ヲ四通作ツタ 夜井筒ヨリカシワト酒一升呉レタノデ皆デノンダ 自分モ大ニノンダ後チルナパークニ行キテ帰ル 十一時頃岩名君來ル ノームニツキ少シ聞キ合セテ今夜ハ止メル

▲▼336ページ▲▼ 大正6(1917)年11月11日(日)

天気 晴西風強シ

陸軍飛行機モ八台ダカヤットノコトデヤツテ來タ 晝食後佐渡西へ行ツタガ今日ハ早く帰ツタトノコト 住吉へ行クカト思ツタガ親大將が行ツテ居ルトノコトニヤメテ工場ニ行キ兄ニ話ヲシタ 先ヅ竹島ノ方ハ兄ニマカセルコトニシタガ小旦那ノ方ヲ先キニヤレトノコトデアツタ

▲▼337ページ▲▼ 大正6(1917)年11月12日(月)

天気 晴

午前中手紙ヲ書キ日記ヲツケ散髪ヲナス 晝食後坂堺電車ニテ堺ニ行キ飛行場ノ候補地ヲ見テ市役所ニ市長ヲ尋ネル 市参事会ガ之レカラ初マルト云フ處デアツタガ會ツテ呉レタ 話ハ中々ヨク分カル 人モ頭モ大分ヨサソウナ人デアツタ 年配ハ五十過ぎノ温厚ラシイ人附 地所ハスグデモサシツカエナイガ格納庫ヲ健(マ)ルコトニツキ有志者ニ話シヨシテ見様多分出來ルダロトノコトデアツタ マヅ大成功ニテ嬉シカッタ 井上長夕方帰ル 神戸ノ方モ賣ルノハ必ズ賣ルガ指名ニスルカ競賣ニスルカ分カラヌトノ

コトデアッタ ソレモ廿日頃シラセテ呉レル筈ノ由
夕方白井へ行ツテセルロイドクスヲ貰ツテ帰ッタ
今夜二日振りデ兄ガ帰ツテ來タ コマッタ人ダ 店ノ姉ハ兄ト僕ト店へ來テ姉ハ裏へ這入
タイトノコトデアッタ

▲▼338ページ▲▼ 大正6(1917)年11月13日(火)

天気 晴風静

朝温泉ニ行キパン食ヲナシ公園ヲ散歩ス 実ニヨイ氣持チデアッタ
白戸矢寺両氏ニ手紙ヲ出ス 水上機夕方着ス
夕方押谷來 車輪ノ金ヲ飛行後ニシテ呉レトノコト 日ノ出新聞主催シタシトノ希望ノ
由 スベテ其意ニマカセル
五時半夕食後住吉ノ小主人ヲ訪ネタ。マダ帰ツテ居ナカッタ 御寮人ハ起キテ居ラレ
タ

八時頃帰ラル 色々計畫ニツイテ話ヲシ出金ノコトヲ乞フタ 一寸考ヘサセテ呉レトノコ
トデアッタガ、熱心ニ發動機ヲ手ニ入レ様ニスルコトニハ賛成セラレテ居タ 十一時帰宅ス
▲▼339ページ▲▼ 大正6(1917)年11月14日(水)

天気 晴風ナシ

鳥飼氏ヨリマグネトノ金受取ツテナイトノ手紙ガ來タ 調べテ見タガドウシテモ渡シテ
アルニチガヒナカッタノデ夜手紙ヲ出シタ
十時頃宅ヲ出テ難波ノ工場ニ行キ兄ト玉造ノ岡野。パイプ工場ヲ參觀ニ行キ晝食後兄
ト深草ニ飛行機ヲ見ニ行ク 電車デ高左右君ノ助手ニ會ツタ
深草ニテ二機ノ着陸ト一機ノ飛揚ヲ見テ六時頃帰宅シタ。夕食後スグ床ニ入り堺市
長ニ札ノ爲メ且ツ尚依頼ノ目的デ征空小史数冊送ルノガヨカロウト思ツタノデ井上君
ニ明日行ツテ貰フコトニシタ

▲▼340ページ▲▼ 大正6(1917)年11月15日(木)

天気 雨

温泉ニ行キ後チセルロイドヲトカスベクアタメテ見タガツヒニダメデアッタ 後チ井上ニ
聞クトイレモノニ水氣ガアツテハダメダトノコトデアッタ アセトシヲ買ヒニヤッタ
朝井上ヲ堺ヘヤッタ 晝帰ル 格納庫ニツヒテ市長へ南海ニ話スツモリデアッタトノコト
ソレガ彼ノ昨日ノ大障(ママ)突デ話セナクナッタカラ明日市會デ話シヨスルトノコト
十七日午後來テ呉レトノコトデアッタ由

午後皆四人ハ高左右ノ飛行機ヲ見ニ行ツタ 夜ハルナパークヘ行キタイト出テ行ツタ
ハルサンカラノ手紙ガアッタノデ河村包亮サンへお母サンヲ引取ツテ呉レル様タノンデヤ
ツタ

ハルサンニハ神田ヘ手紙ヲ出シタ

▲▼341ページ▲▼ 大正6(1917)年11月16日(金)

天気晴

ホールスカット箱ツメニナス

十一時頃工場ニ行ク 晝食後小島ヘ用箋ノ注文ヲナシニ時頃帰ル

四良平君久シ振りニ會フ 夕食ヲ共ニス

アレキシヨ写真來ル 柳原ヨリ來信アリ

▲▼342ページ▲▼ 大正6(1917)年11月17日(土)

天気晴

午前中日記 手紙 塗料試験

午後晝食後堺ヘ井上ヲ連レテ行ク 市長ニ面會 助役ニ引合セラレ庶務課長ト同道シ
テ格納庫ノ位置ヲ見ニ行ク 帰途市役所ヘ立ヨルツモリノ處課長ハ水族館ニヨツテ帰ル
カラ市長ヘハ電話デ云ツテ居クトノコト 僕等ガ行クナラ自分モ一所ニ帰ルトノコトニソ
レデハ氣ノ毒ナノデ何ンダカ不得要領ノマ、菊ヲ見テ帰ツタ

▲▼343ページ▲▼ 大正6(1917)年11月18日(日)

天気晴

今日ハ裏ト表ト入レ違ニナルノデ大ソー動ヲシテ居タ 自分ハ昨夜兄ガ帰ラナカッタノ
デ工場ヘ行ツタ マダ來テ居ナカッタカラ佐渡島工場ヲ見ニ行キ帰ツテ兄ニ會フ 宿換
ノコトヲ話シテ帰宅

晝食後白戸ノ広告ニ万年社ヘ行キ国民ノ町田君 報知ノ安藤君ヲタヅネタガ二人共
鳴尾ヘ行ツテ留都(マ)デアッタノデ船越町ノ藤井氏ヲ訪ネ美顔水ノ広告ヲ飛行ヲタ
ノムツモリノ處面白クハコビソウニモナカッタノデ中止シテ雑談後帰途自動車ノ本ヲ購
ヒ帰ル

▲▼344ページ▲▼ 大正6(1917)年11月19日(月)

天気晴

午前中日記 手紙 新聞 晝食後万年社へ白戸ノ広告ニ行キ報知ノ安藤君ヲ訪問 白戸ノ記事ヲタノム 報知ノ国部君ガ昨日迄居タトノコト 四五日内ニ記者大會ガアルトノコト 朝日ダケハマダ這入ナイ由
前中ニヨリ主人ニ會ヒケーブル線ヲタノシデ佐渡島西店ニ寄ル マダ考へ中トノコト 老主人モ居タ 酒井君ハ留都(ママ) 野島氏ヲ訪フ 居タ スミスノ機ハ二台トモ賣レタソウダガ一台二万円トハ驚イタ
夜兄ニ色々聞イテ見タガ何ニモ云ワナイ男デモッタ 工業所ノ金六一万七千七百円デ一万七千円デハナカッタトノコトデアッタ

▲▼345ページ▲▼ 大正6(1917)年11月20日(火)

天気 晴

温泉ニ行キ帰リテ朝食 塗料試験 机ヲ整理シ切抜ヲ讀ム
廿六廿廿五六才ノ青年今朝白戸練習所ノ廣告見テ來ル 説明ヲ與ヘテ帰ヘス 午後酒井君來 夕方同君ノオゴリニテ堺ノ竜神ニ遊ブ 十二時彼レハ泊リ余ハ辭シテ帰ル

▲▼346ページ▲▼ 大正6(1917)年11月21日(水)

天気 晴風強

終日宅ニ居リ工場へ一度行ク
早朝酒井ノ宅カラ尋ネニ來タノデ昨夜ハ僕ノ處デ泊ッテ今朝温泉ニ行ッテ居ルト云ツテ居イテ佐野ヲ堺ヘヤツテ右ヲツタエサセタ。御馳走ニナルコトモ樂ナコトデハナイ
夜カーチスローツウツシタリシタ

▲▼347ページ▲▼ 大正6(1917)年11月22日(木)

天気 晴

發信白戸 青島ノ件頼ンデヤル
晝食後三人山県、佐野、荒瀬ヲ連レテ職工學校ノ展覽會ヲ見ニ行ツタ 帰途自分ダケ佐々木サンニ立寄ツテ夕方帰ル 夕食後松谷ト大山館ニ行キ帰途イロハニテ牛肉ヲ喰ヒ久シ振り薬師ノ夜店ヲ見テ帰ル 十一時頃小主人カラ手紙ガ來テ居タ 一件ノ事ハリデアッタ アノ人ノ如キ人デモイザトナレバ斯クノ如シトスレバイヨ、ダメダ。ヤハリ他人ハアテニナラナイ 練習中ニ自力本願ヲ語ツタ自分ガ今又此罅ヲ感ヲ深クシタ。サテ自力トシテ一万ト云フ金ハ中々一寸六ツ箇敷シイ 色々考へ、タガ宜イ工夫モナク眠ニ入ッタ

▲▼348ページ▲▼ 大正6(1917)年11月23日(金)

天気晴

朝温泉ニ行キ散髪ヲ寸時モ今後ノ経費ニツキ苦心シタ 今朝昨日ノ日記ヲ書キナガラ久原ノ住宅ノ上ニ飛ンデ行ツテ民間飛行界ノ現状ト發展策ヲ書イタモノヲ投下シテヤロカ、築港附近デ期間定メズイツデモ立ノクノト市ニ何事カアル場合、興キヨ一の飛ブ約束デ飛行場ヲ借りタイヨカナド考ヘタリシタ
午後夕方迄カーチスノ各機ヲ写ス 藤原君來リテヤメル 今夜上京スル由 河村ノお母サンノコトヲ頼ンダ
夜早ク床ニ入り理學界ヲ讀ム

▲▼349ページ▲▼ 大正6(1917)年11月24日(土)

天気晴

時事 深草ヨリ所沢迄帰ル 豊橋迄一時五十分 豊橋所沢二時十分ニテ無事着 二機

今日ハ終日ヤハリカーチスヲ写シタ 全部終ル

夜安藤君來 廿七日例会ニ何カ話シテ貫ヒタイトノコトデアッタ。後婦女世界發刊ニツヒテ姉ニ會ヒタイトノコトデアツテ照會 二時間程デア帰ヘタ
後チ床ノ中ニテ自動車ヲ讀ム 一時眠ル

▲▼350ページ▲▼ 大正6(1917)年11月25日(日)

天気晴

稲垣君ニカーブノ教授ヲ乞フ 石田金ノ助氏礼状

今朝七時半起床 写真ヲ取りカーチスノ写真ヲ取ル 廣瀬ニ行キボールペンノ直シヲタノミ、ボールト屋ノ 照會ヲ一狀況ヲ聞ク 兎三角入り用ノモノヲ書イテ出シテ見テ呉レバ見積セテ見ルトノコトデアッタ

午後カラ夕方迄数見君ト外一人堺飛行場確定シタカト聞キニ來タ

夜食後新世界ヲ一寸歩イテ帰ル

▲▼351ページ▲▼ 大正6(1917)年11月26日(月)

天気晴

温泉ニ行ク

阿部ヨリ來月理事会ノ結果ニヨツテ返スルトノコトデアッタ

十二月號飛行会ヲ見ル 馬詰君ノヤリ方大ニシヤクニサワツタノデ何ニカ書コウト夜十
一時頃迄書イタ

▲▼352ページ▲▼ 大正6(1917)年11月27日(火)

天気 曇雨

押谷早朝來 練兵場借リラレナイノデ場所ヲ見テ呉レトノコトニ同道ス ドコモナカッ
タノデ試験ハ大坂デスルコトニシアトハ京都ノ場所ヲサガシテ居イテ貰フコトニシテ夕食
後帰ヘタ

押谷君當分借リルコトニ話シテ帰ル

飛行記者俱樂部ノ会合ハ明日ニナツタ

▲▼353ページ▲▼ 大正6(1917)年11月28日(水)

天気 晴

今日モ手紙ヲ書イタリ、飛行界振興策ヲ書イタ

夕方例ノ小供ガ遊ビニ來タ

六時十五分高麗橋ノ報知ニ行ク 三四人居タ 白戸ノ卒業飛行ト懸賞ノコトヲタノシ
ンダ 御茶受ヲオゴツテ八時頃シテ電車ガ込シテ歩イテ帰ル 床ノ中ニテ飛行場ヲ
地圖ニ見テサガシタ 明日ハ兎ニ角木津川方面ヲサガシテ見様

▲▼354ページ▲▼ 大正6(1917)年11月29日(木)

天気 晴

九時頃工場ニ行ク 松谷君ト築港方面ニ行クベク約ス 藤原君來 大シタ用事モナク十
一時頃出懸ケル 朝汐橋ギワノアシヲ刈レバー一寸ヨサソウナ處ガアツタ。所有主ト支配
ヲ聞イテ晝食後帰ル

グレゴア試験ス 三十分間廻シテ何ントモナカッタ スグアイズマン分解シタガ之レモヨカ
ツタ 油ノ流量モ計ツタ

夜神戸沢野氏ヨリ明日買手ト共ニ行クトノ電報ガ來タ

▲▼355ページ▲▼ 大正6(1917)年11月30日(金)

天気 晴

朝八時起床 機体ヲ組立テ大ニミガイタ

プレナム台ノ材料ヲ買ヒニ大森ニ行キ帰ツテ見ルト來テ居タ 買手ト云フノハアゴヒゲ

ノアル立派ナ人デアッタ 工場ニテ名刺ヲ貰ッタ 松本君平民デ支那ノ財政顧問法理
財學博士 有名ナ人ナソウナ スミスノ機体ヲ買ッタ人ダ。三日ノ船デ北京ニ行クノデ
其上デスグ返事ヲスルカラソレ追他ノ方ヲ見合セテ呉レトノコトデ多分出來ルダロー
操縦ヲ教エル爲メ二人ヲ世話シテホシイトノコト 僕サオ月五百円ハ出ソウトノコトデア
ッタ

夜鉄ノツメヲ見ニ行ッタ

稲垣機体送ッタトノコトデアッタ

▲▼358ページ▲▼ 大正6(1917)年12月1日(土)

天気 曇夜雨

今日ヨリ一日十五日休マセルコトニシタ

押谷夕方來ル

午前中原稿ヲ書キ終ツテ佐野、荒瀬二人ニソレヲ写サセル

夜佐野松谷ト一杯ヤリ初メタ處へ兄帰ル 十時床ニ入ル。

松近夜來ル

▲▼359ページ▲▼ 大正6(1917)年12月2日(日)

天気 晴

昨夜大分降ッタガ道ハカナリ悪クナツテ居タ

午前中押谷、井上、荒瀬、ハ稲垣氏ノ飛行機ヲ運搬 山縣ハグレゴアニマグネト取付。

佐野西ノ工場へ材料ヲ取りニ行ク 余ハバイスヲ修理シタ 午後稲垣式ヲ組立ル プレ

ーンノ下ニイナガキト墨デ大キク書イテアッタノデ消シテ仕マッタ

三時頃カラ夕方オソク追例ノ學生ガ來テ遊ンデ帰ッタ

▲▼360ページ▲▼ 大正6(1917)年12月3日(月)

天気 晴夜雨

白戸カラ來信ガアッタ

朝岡野へ稲垣ノパイプヲ買ヒニ行ッタ

午後工場へ行ツタリ宅へ帰ツタリ

夕食ヲ共ニスベク七時頃毎日ノ上田君ト安藤君來。雁風楼ニ行ク 來夏ノ契約ノコト

ヲ頼ノム 毎日デモ計畫ハアリ報酬ノ點ヲ比檢(ママ)的安ク其カハリ紙面ノ應援ハ充分

ニナストノコトデアッタガ兎ニ角新發動機買入ノコトモ話シ何分宜シクト云ツテ居イタ

▲▼361ページ▲▼ 大正6(1917)年12月4日(火)

天気 晴風アリ

今日ハ雪デモ降ルカト思フ程寒カッタ 京都ハ降タトノコト
稲垣式組立 フランカンヲ取替ヘル

井上長早ク帰り藤原ノ東京ニ於ケルお母サントノ會見ノ模様ヲ聞クニお吉ヨリ風説ノ
手紙ヲ出シタ爲メ非常ニ悪感ヲイダイテ居ルコトガ分カッタノデお吉ヲ呼び大ニシカッ
テ居イタ。ソシテお母サンニ長イ手紙ヲ出シタ。阿部ヨリ数見君ヲ介シテ山下亀太郎ニ
交渉ノコトヲ云ツテ來タノデマカセルムネ返シタ
夜七時頃床ニ入り製圖ヲナス

▲▼362ページ▲▼ 大正6(1917)年12月5日(水)

天気 晴

午前工場 晝前ヨリ床ニ入ル 風引ガ直ラナイノデアセヲスル爲メ 少シ苦シカッタ
夜カーチスノ計算ヲシタ 大体ニオイテ計算ガ合フ様デアッタ

▲▼363ページ▲▼ 大正6(1917)年12月6日(木)

天気 雨後晴

朝ハ暗イ日デアッタ 井上君ニ府廳へ行ツテ貰ツタ 結果テントハ朝日ノヲ借りルコト 師
團ハ明日十時半ニ町田君ガ一所ニ行ツテ呉レルコトニナッタ
自分ハエツエル、32、RAF6、USA6、ノカーブ現圖ヲ引ク
夜ワシントンヲ讀ム
夕食後宅デタ刊ヲ讀ンデ居ルト佐野ノ父ト云フノガ來タ ヨク似テ居タ 挨拶後宿ニ
佐野ガ送ツテ行ツタ

▲▼364ページ▲▼ 大正6(1917)年12月7日(金)

天気 晴

井上君ト十時二十分ニ国民ニツク 町田君ハ卅分丁度ニ來タ 共ニ師團ニ行ク 参謀ニ
面會 スグ貸シテ呉レタ。晝食ヲ本町橋ニテナス 町田君ハタベズニ歸ヘタ 日本自動車
デコードヲ買フ時雨ガシキリニエラク降りテ風モツヨカッタ。毎日新聞ニ上田君ヲ訪ネル
今夜大和へ行クカラ飛行場ヲ聞合セテ見ルトノコトデアッタ
朝日ニ行ク 小西氏ニ會フ 天幕モスグ貸シテ呉レタ イツモナガラ慈父ノ如クヨク氣ヲ
ツケテ呉レラレタ 多謝々々

帰途井上君ハ矢野天幕ニ行キ余ハ西店ニヨリ其後ノ経過ヲ話シテ帰ヘタ
夕食後兄ト温泉ニ行キ工場組立ノコトヲ一寸話シタ 今日ハヨイ日デアッタ

▲▼365ページ▲▼ 大正6(1917)年12月8日(土)

昨日ノ記事ハ本日ノ間違イ

▲▼366ページ▲▼ 大正6(1917)年12月9日(日)

天気晴

快晴無風 終日アタタカナヨイ天候デアッタ

午前中荷造ヤラ準備ヲナシ十二時過ギ練兵場ニ送ル 自分ハ二時頃行ク 機ハツイテ
居タ 車ノ方ガ非常ニオクレタ 山県、佐野、押谷三人デ高左右ノ處ヘ天幕ヲ取リニヤ
ル タ方帰ル ソレ迄自分ト荒瀬ト方付タリ火ヲオコシタリシタ。其内天幕隊ガ帰ツテ
來テソレヲ立テ寢ル様ニシテ帰ツタ モークラクナツタ 帰宅スルト裏ノ姉夫妻 西ノ夫
妻モ來テ居テ信太郎ノ祝ノ爲メ西カラ貫ツタ鯛デ大ニノム 後チ大山館ヲ見ニ行ツタ
ガマダ変ツテ居ナカッタノデ兄弟四デ松葉屋ニ上リサワイデ帰途ニコ、シテコーヒヲノ
ミ十二時帰宅 就床

▲▼367ページ▲▼ 大正6(1917)年12月10日(月)

八時起床 十時練兵場ニ行 機ノ組立出來ズ 風ツヨキ爲メテールヲツケテ居ク
晝食後帰宅

夜五時頃床ニ入ル

朝日オハ

松谷君ト午後住吉ニ参詣ス

▲▼368ページ▲▼ 大正6(1917)年12月11日(火)

天気晴

午前五時起床ノツモリナリシモ風ツヨク七時起床 八時過ギ練兵場着 風ツヨク發動
機試験ノ爲メ格納庫ヨリ引出シ得ズ 午後早ク帰リテ讀書

佐野父ノ處ヘ行ク 井上君ニ木ヲコトツケル

夜活動ヲ見テ九時床ニ入ル

朝日、ト朝報來ル 写真ヲ取ル

◆▼369ページ◆▼ 大正6(1917)年12月12日(水)

天気 晴少曇

午前三時頃ヨリウツ、シ五時二十分お徳ヲ起シ半同ジク起床 六時半練兵場着 皆ヲ起ス 風静カナリ 平岡君モ居タ 稲垣氏七時過ぎ來ル スグ機ヲ引出シ發動機試験ヲナス 調子トレズ プロペラヲ以前ノニ取替ヘ氷ルノダロウトノコトニテ保温ニ手ヲツクセシモカヒナク、カーブレーターヲシラベル 水アリ掃途(ママ)シガソリンヲ青カウモリヲ松谷君ニ取ニヤル 午後元ノ青フーセンニテ試験 五分間ヨク廻ル 一寸休息後回轉一二分ニシテ調子狂フ。カウモリト取替ヘル 同ジク十分間余廻セシモバラ、切レテダメ 高左右來ル カーブレーターニツキ色々聞ク 今一度ヤツタガ尚ダメ 又カーブレーターヲハツス 夜ニ入ル 機ヲ入レル 高左右明日支那ニ行ク由 今夜ハリ半ニ來テ呉レトノコト イヤダニヨツテ帰宅後電話カケタガ話中ニテカ、ラズ止メテ入浴 夕食 一パイノンデ床ニ入り之レヲ記ス

◆▼370ページ◆▼ 大正6(1917)年12月13日(木)

天気 晴

六時半起床 七時半練兵場着。カーブレーターニ何モナイコトガワカッタ 最後ニ配電盤ノカーボンガヤワラカイノデカタイノト取替ヘルト非常ニヨクナツテ四百廿瓦(ママ)引イタガスグマタキレ初メタノデシラベルト水ガモレタノガ配電盤ニカ、ツテ居ルノデソレヲ拭キ取り又初メタガ丁度ガソリンガ無クナツタノデ中止シ此試験中ワイヤーガ一本切タノデピアノ線アルダケ皆取替ヘタ。午後出來ソウモナイノデ二時頃帰ヘタ 夕方モ一度廻シテ見ル様ニ命ジテ居ク

◆▼371ページ◆▼ 大正6(1917)年12月14日(金)

天気 晴

六時起床 七時十分練兵場着 夕方廻シタ處又イケナイトノコトニ中止ヲ決心シ今一度ヤラセテ見ル ヤハリイケナイノデスグ中止ヲ命ジ稲垣氏ニ相談ノ上自分ノ飛行機ニテヤルコトニシスグ取りニヤル 一時頃來ル スグ組立 三時廿分飛行 右二大円ヲ畫キテ城東線ニソヒ新世界上ニイタリ一旋回シテ帰場 十五分余リ スグ分解ヲ命ジテ新聞通信ノ爲メ報知ト国民、新報ニ行ツタ 稲垣氏ノ爲メニ帰宅スルトツル姉ガイナイ 昨夜ケンカシタラシイトノコトニシラベテ見ルト變ナコトバカリナノデ兄ヲ呼ビシラベルトカミノ毛ガ切テアツタリシタノデ警察へ保護願ヲ出サズバナルマイト着物ナド書イテ居ル内サガシニヤツタ一人ノモノト広田様ノ處デアツタトテ帰ツテ來タ 事実ハナントモナカッタラシイ

恵美號帰ル 十時床二入ル

▲▼372ページ▲▼ 大正6(1917)年12月15日(土)

天気 雨後晴

久シ振リデ朝ユツクリ眠ツタ

晝頃岩名君來 モーターヲ直シテ呉レル處ヲサガシテ居ルトノコトデアッタ。皆モ方付終ツテ帰ツテ來タ

夜カーチス九十馬力デノ飛行機ヲ設計シタ

計算尺ノ使用方(ママ)ヲ練習シタ 乘法ダケ一寸ヤレル様ニナツタ

今日朝日アタリニ何ニカ飛行ニ対シ金ヲ出サセ契約書ヲ取ツテ發動機ヲ買ウ金ニアテ様ト考ヘツイタガサテドンナ風ナコトヲヤツテヨイカガ問題デアッタ

▲▼373ページ▲▼ 大正6(1917)年12月16日(日)

天気 晴

風強シ 皆ハ神戸へ行ツタ 阿部カラ手紙來 此度ノ雑誌ハ三井カ三洋社自動車部ヲヤルニツイテノ機関雜誌トノコト 数見君ハヤハリ運動シテ居ルトノコト 余ハ90カーチスノ設計圖ヲ畫キ初メタガ氣が重イノデ中止シタ

▲▼374ページ▲▼ 大正6(1917)年12月17日(月)

天気 晴風強シ

朝日へ天幕ヲ返ヘシニヤリ、アトハ河村ノ荷物ヲ ■■■ヲナシタ方天王寺ノ勉強組へ出ス

夜床ニ入ツテカラ藤原君來 タンバック三十個渡ス

塗料ノ研究ヲナス 藤井靖造氏來 写真ヲ貰フ

▲▼375ページ▲▼ 大正6(1917)年12月18日(火)

天気 晴

今日ハ切抜ヲ讀ンダケデアッタ 頭痛ガシテイケナカッタ

山縣ヲ住吉ノ佐渡島へ歳暮ヲ持タセテヤル

井上長君夕方帰リプラグ八個貰フ

矢野へ天幕ヲ返ヘス

▲▼376ページ▲▼ 大正6(1917)年12月19日(水)

天気晴

今日山県帰京スルニツキ金ヲヤラナケレバナライノデ大ニヤンダ ドーシテモ二三百円ナイト年ガ越セナイノデ午後西店へ其話シニ行ツタガヤハリロニ出シ兼ネテ帰ツテシマツタ。帰途工場ニ立寄り二十円借りテ帰ル 學校ガ明日展覽會ナノデ飛行機ヲ午後組立テヤツタ

夜肉デーパイヤツテ送別ニカエタ 九時頃ノ汽車デ帰ル 電車迄送ツテヤツタ 佐野ト荒瀬、停車場迄行ク

今日晝前神戸ノ人トカ云ツテ飛行機ノ翼ヲ考察シタトテヤツテ來タ 話シヲ聞クニ面白ソウナノデ模型ヲ見セテ貰フコトニシタ

▲▼377ページ▲▼ 大正6(1917)年12月20日(木)

天気晴

佐野京都へヤル 塗料

塗料研究ヲナス ジヤボンエナメルハ出來タガ塗上ガツテヨクナイノニ失望シタ ヤハリゼラチンニシヨーカート思ツタ

▲▼378ページ▲▼ 大正6(1917)年12月21日(金)

天気晴

京都へ行クツモリノ處學校ノ方ガ今日一日アルノデ中止シタ。二時頃廣瀬工場ニ見學ニ行キ工場主ト共ニ學校ニ行キ機ノ説明ヲナシ後チ分解ス

夕食後井上、荒瀬ト鉄ノ爪ヲ見ニ行ツタ

午前中エーロネチスアリ 写シモノヲナス

▲▼379ページ▲▼ 大正6(1917)年12月22日(土)

天気晴

手紙ト日記ヲ書イテ九時頃ヨリ宅ヲ出テ京ニ行ク 十一時稲垣宅ニツク 初メテ保次君ニ會フ 今日ハ特別ニ外出証ヲ貰ツテ來タノダトノコトデアツタ 車ヲ云ツテ呉レテ會場ナル六角會館ニ行ク 小供三錢大人五錢ト書イテアツタ。發動機ハ寸外配電盤ノカムガユルンデ居タトノコトデアツタ

晝食後一二時間居タ 小學生ガ七校バカリ今日ハ來タトノコト 式時頃ヨリ佐野ノ宿へ平岡ト保次君ト三人デ行キ島デ馳走ニナル 平岡ト稲垣氏トノ問題ガ何ニカ間ニワ

ダカマリガアル様デアッタ

保次君ハ五時半ニ帰ヘッタ 佐野ガ帰ツテ來タ 押谷モ來タ タレモ居ナイ處デア押谷ニ金ノコトヲ間違ヒナイ様云ツテ七時頃辭シテ帰ル 森本君ガ待ツテ居テ發動機ヲ買ヒタイカラニ千円位迄ノモノヲホシイトノコトデアッタ

▲▼380ページ▲▼ 大正6(1917)年12月23日(日)

天気晴

今日モ大分寒イ日デアッタ

今夜井上君出發ス 佐野マダ帰ラナカッタ

夕方中野君遊ビニ來ル 高左右君ノ事イロ、ト話シテ行ツタ風デ間者ノ様ナ男ダ

▲▼381ページ▲▼ 大正6(1917)年12月24日(月)

天気晴

今日ハ七時頃帰(ママ)床 燈明ヲ上ゲ工場ニ行キ荒瀬ト二人デ方付モノヲヤッタ 晝阿部カラ手紙來 一日モ早ク上京セヨトノコトニ午後兄ニ想(ママ)談ニ行ツタ 即チ旅費ト加藤ノ金ノ問題デアッタ 百五十ダケ作ツテヤロー 一度佐渡島ノ主人ニ話シテヤロートナツテ帰ヘタ 兄ハ實際金ガナイノダロウカ。オレノ前ダケ金ガナイト云ツテ居ルノダロウカ 金ガナケレバ遊ビヲ止メヨト今日モ云タノダガ一向分カラナイ

柳原帰坂ス ダシヌケデアッタノデ驚イタガ腎臓病ニカ、ッタノデ静養ノ爲メダトノコト 叔父ノ處ヘ行ツタ。内ニ居テモヨイト云ツタノダガ遠慮ラシイ

夜大西君來 工場設立ニツキ意見ヲ聞ク 自分ガカ、リキリト云フ訳ニ行カナイガ人ヲ世話シテ尚相當ノ免(ママ)倒ヲ見様カラ最(ママ)非ヤレトノコトデ色々話ヲ聞イタ。稲垣ヘ夕食後アスバン東京(タツ)〇ゼヒタノムサノ送レトノ電ヲ打ツタ 行キチガイニ佐野帰ル 札トシテ五円貰ツテ來タ 正月ノ小遣ニナツタ訳ダ。父ゼンソクヨロシカラス吉ニナデサス

▲▼382ページ▲▼ 大正6(1917)年12月25日(火)

天気晴

今日ハ佐野ト三人デグレゴアノ機体ワイヤーヲシメ樞金物ヲ作りカエ、水上ノプレーンヲ方付タリシタ

今夜出發ノツモリデ兄ニ二三度電話ヲカケタガ明日ニナツタ 夜阿部ヘ明夜立ツ見込ヨイカト打電シタ

稲垣昨夕電報打ツテ居タニモカ、ワラズ今日ハ何ソノ返事モヨコサナカッタ 不都合千万

ナヤツダ

◆▼3883ページ◆▼ 大正6(1917)年12月26日(水)

天気晴

昨夜。ハラ、アラレガ降ッテ居タト思ツタラ今朝ハ一面ノ銀世界 約一寸ばかり積ッテ居タ 公園へ写真ヲ写シニ行ク フィルム。バックデハ五枚ばかりオシヤカニシタ 乾板ノ方ハスグ現象(ママ)シタ ソシテ今夜上京ノ間ニ合フ様焼付サセタ

午後工場ニ行キ金受取ッテ四時頃百五十円貰ッテ帰宅 色々買物ヲナシ、お吉ニ五円渡シテアトノコトヲ命ズ 八時三分ノ不定期ニテ出発 佐野荒瀬見送ル 佐野ニ六野島ノカーチス聞合セノコト 松本へ送り物ノコト 高岡へ送金ノコト 稲垣受取金ノコト等ヲ命ズ

車ハ不定期車ノコトトテ非常ニスイテ居タ 眠レナカッタニハコマッタ

◆▼3884ページ◆▼ 大正6(1917)年12月27日(木)

天気晴

二時頃ヤット眠レル 飛行機墜落ノ夢ニ冷汗ヲカイテ目サメタ 沼津ニテ窓ヲ開ケバ一點ノ雲モナク秀丽ナル富士ヲ仰グコトガ出来タ 昨朝ノ雪ト云ヒ今日ノ晴天ト云ヒ大ニサイ先ヨカッタ ソシテ富士ヲ見ル度ニ最初ノ上京ノ時ノコトヲ思ヒ出シタ

列車ハ三十分ばかり遅レテ十時ニツイタ 鳥飼氏ニ立ヨリ五平ト山県トシキリニ機体ノ金物ヲヤツテ居タ 木モ出来テ居タ 阿部ニ電話カケルトスグ來テ呉レトノコトニ行ク 今朝電報ガツイタノデ迎ヘニ行ケナカッタト云ワケシテ居タ 兎ニ角スル内井上君モ來阿部君ノ話シデハ山下ハダメラシイガ三井ノ幹部連ノ後援会ハ最(ママ)非ツクルトノコトニ付來月來タ時デヨカロウト云ッタノダガ一應先キニ會ッテ居ヒテホシイトテシキリニ數見君ガ云フノデ來テ貰ッタトノコト

晝食後三時頃三洋社事務所ニ數見君ヲ訪 別ニ何等ノ話シモナク挨拶ニトゞメ五時頃ヨリ生洲ニ行キタ食ヲ共ニス 妓数名來リ大ニ賑フ 十一時頃愉快ニ分レタ 其間社長大江力氏九時発神戸ニ行ク 余暇ヲヌスンデ帰宅モセズ來會 初メテ挨拶ヲシタ アマリ急イデ旅費ヲワスレテ來ラレタトノコト 御好意多謝々々

◆▼3885ページ◆▼ 大正6(1917)年12月28日(金)

天気晴

朝食前ニ奈良原氏ヲ訪ネタガ行違不明ニテ帰宅後グヅ、スル内時タチテ晝前三洋社ニ行ク。メシ時ナノデ井上阿部ト桜田本郷町ノ支那食ヲナシ行ク 待コト久シ 其間ニ

當間ノ息子ニ会フ 當時三洋社ノ社員タリ井上君ト将来ノ方針 数見君ニ対スル處遇ヲ想(マシ)談ス 阿部君出、來リ数見君差支アリ 三人ニテ物産会社砂糖課長桜井氏ニ面會 善道ノ人デアルト思ツタダケ 話ニヨルト度々洋行シタ人トノコト
夜阿部宅ニテ数見氏ト會見 商議ノ結果寄附ヨリ株式組織ノコトトナリ収支表ノ製作ニ着手セシモ遅クナリ明後日追ヲ約シテ十二時頃分レル

◆◆3886ページ◆◆ 大正6(1917)年12月29日(土)

天気晴

六時半井上君ヨリ先キニ出デ鳥飼氏宅ニ立ヨリ兩國ニ行ク 井上氏先着 八時ニテ稲毛ニ行ク 大口一向モテナサズ不愉快ナリキ 油屋ニ礼ニ行キ浅間神社ニ参拝 其間ニ時計ヲ朝日ノメダル共ニ墜落シ一汽車オクラシテサガセシモワカラズトゞケルダケトゞケ大口ノ時計ヲ借り冷メシトイカノ馳走ニナリ一時千葉ニ行キ白戸ヲ訪ネ久シ振りデ豚肉ヲ馳走ニナリ湯ニ入り日クレテ帰京。昨日計算ノ残りヲナス 九時頃数見君來 十一時頃不得要領ニテ明日ヲ約シ帰ル 後チワンタンヲオゴリ二時頃追ヤツタガ眠クテ出來ズツヒニ其マ、床ニ入ル

◆◆3887ページ◆◆ 大正6(1917)年12月30日(日)

天気晴

七時半起床 昨夜出來ナカッタモノヲ今朝三十分程デ出來テシマッタ
後加藤ニ行キ七十円支拂フ 宮口ニ立寄り鳥飼ニテ金受取ルコトニタノミニ一ノ宮ノポールト屋ニ支拂金ヲナシ帰宅 二時頃井上数見君來 商議シスベテノ方針ヲ数見君ニタノミテ四時頃分レ鳥飼氏ニ行キ仕度ヲナシ皆ト新橋太田屋ニ行キ忘年会ヲナス 白戸モ來合ス 会スルモノ井上貞井上貞山県信田以上
九時ニテ出發 阿部見送ル 五日ニ三百円送ルトノコト 運賃着拂ヲタノミテ分レル

◆◆3888ページ◆◆ 大正6(1917)年12月31日(月)

天気晴

今日ノ汽車ハ苦シカッタ 身動キナラヌ 其上三丁度シートノツキ目デアッタノデ尻ノイタイコト、、、、 名古屋デヤット楽ニナツタ 十二時帰宅
稲垣マダ持ツテ來ナイノデ佐野ヲヤツタ 夕方押谷同伴ニテ帰り一文モ出來ズ大ニシヤクニサワツタガ今更仕方ナク春早々ヲ約シヌ
夜活動ヲ見ニ行キ帰りテ床ニ入ル 十一時頃

懷中僅カニ七十銭余 佐野、荒瀬等ニ小ヅカヒヤコトモ出來ズセメテソレダケデモ借り

様ト思ツタガ云ヒニクク其時來客等アリツヒニ其々床ニツク ナサケナイ感ジガシタ

◆▼3889ページ◆▼ 補遺

年末ニアタリ年頭以來ノ希望ト結果ヲ調ベテ明年度ノ経違度ヲ作製セン
今年ノ希望六年ノ初メニ書キタレドモ一ツトシテ行ワレザリキ 不運ト云ヘバ不運ナラン
モソコニ努力ノタラザリシコトヲモ發見シ得ルノデアッタ 大坂ノ飛行モ今一二ヶ月早カ
リセバ誠ニ好結果ナリシモノ 此遅延ノ原因ハ山県ノ水上破壊ト稲垣ノ試験、津山飛
行ニシテスベテ人ノ爲メナリト雖ドモソコニ自分ノマダ手腕足ラザリシヲウラム 來年度
ハ自己本意トシテイマダ余ハ人ヲ助クルノ早尚(ママ)ナルヲ確クイマシム

◆▼3900ページ◆▼ 補遺

大正6(1917)年5月16日(水)
(145および189ページから続く)

會フ 此機ヲ連レテ來タニ崎某ト云フノニモ會フ 昨年梅田ヲ仙台ニ連レテ行ツタ男ダ
ソウダ 京都ノ裝飾屋デアッタ平七自轉車屋ニ歸リ茶ヲノム内藤原ト兄ガ二階デケン
カラ初メタ。結果スベテガ打コワレソウニナツタガ弟ヤ平七ノ主人ノ希望デ僕ノ所信ヲ
述ベ町全体デヤツテ貰フコトニシタ 自分ハ宿ニ歸リ八時過ギ夕食後藤原ト平七主人ト
雑談 藤原中坐アトヘ玉井藤一來ル アトヘ又三人バカリ有志來ル 玉井君ノ方ハ當
地主催者ヨリ申込ミガアリ清太郎君ニ手紙出シタガマダ返事來ヌトノコトデアッタノ
デ藤原ノ爲メニ僕ガヤルカラ其事ヲ云ツテヤツテ呉レト依頼ス 玉井君ハ十一時過ギ迄
遊ンデ歸ヘタ

六月廿七日

兎ニ角心配シタ飛行機ガ飛ンダノデ嬉シカッタ スグ宅ト兄ト鳥飼氏ニ打電ス 又手紙
モ出シタ 岸サンヘ格納庫ヲ借用スルコトモ頼ンデヤツタ

◆▼3911ページ◆▼ 補遺

大正6(1917)年6月27日(水)
(3900ページから続く)

モーベタモノダ 何ンニシテモ、ヨカッタ。晝食ヲ皆ノ外ニ頭マデヨンデスベテ十三人 大
ニ祝ツタ 午後ハ休ミ 藤原ガ練習シタガシャフトヲ曲ゲテスグ中止 午後一人使ツテ
呉レロト云ツテ來タガ 云フオヨク説諭シテ歸ヘシタ

401～

知人名簿

住所	電話	氏名	関係
大阪市東区博労町一丁目二		高左右隆之	
大坂南区宮津町		佐々木洋帳製作所	
東京市小石川区宮下町廿九 篠塚正五郎方		ハル	
佐世保市福石町		池田喜知子	
岩手県釜石鑛山 一三二号		田内定吉	
東京市小石川区白山御殿町百〇六		稲垣知足	
信州飯田町 南信車輛会社 専務		一瀬藤吉 飯田町 広小路	
赤坂区田町七丁目三番地		米沢泰良	
青山高木町十二ノ十五		海野幾ノ助殿	
東京小石川区大塚窪町十一番地		容貝昌隆	
402 ページ			
航空大隊長		鳴瀧紫麿	
芝区新堀町廿九		宮口清太郎	
日本橋区堀留町二丁目八		前川太良兵衛	
神田区錦町三丁目ノ三 吉藤初吉内		山崎益二	六年四月十一日 製本屋
兵庫県篠山西町 榊原写真館ニテ		柳原美行	
牛込区紀久井町二十三		伊藤栄殿	
小石川区音羽町一二 梅原慶太郎内		柏原喜作	東京ヨリ徒歩ノ モノ
芝区田村町六番地 永野方		池田清次郎	自轉車
青森県三戸郡三戸停車場前	大藪ノ 父	白木興蔵	木炭製造
大坂府下鷺洲町字大仁大廣戸一ノ六 宮崎方		大西光蔵	
大坂南区塩町通り一丁目四番地		ミカド貿易會 野 島銀蔵	
403 ページ			
京都鴨東五條川端		稲垣文次郎	
小石川区水道端一ノ廿四 大六天場		柴田ハル	

下谷区中根岸町七十五		森田商會	消火器
神戸栄町港栄商会自動車部		森本延治	
千葉県市原郡海上尋常高等小學校長		伊藤恒蔵	
大坂市天満橋西三丁目六〇 中山氏		林弥三吉	高工
北豊島郡岩淵町字神谷		岸飛行場	
本郷向ヶ丘弥生町ホノ十一		桃谷幹次郎方	藤井
京都市西七條東町		池田清三郎	
赤坂田町四丁目四 山王停留所際		鈴川誠美重	
東京府下千駄ヶ谷五三一		日野熊蔵	
芝桜川町貳		数見周穂	
404 ページ			
麴町区鉄瓶町二番地(梁瀬商会)		堤七郎	
東京府下羽田海岸飛行學校自動車部主任		上村秀二郎	
芝区新堀町廿九		宮口清太郎	
京都市竹島町通り麩屋町西へ入		松味光松豊	
神戸市中山手通り七丁目三十一ノ五井村方		田中幾太郎	
神戸市水木通り八丁目一二二		太田重次郎	
満州遼陽歩二六ノ七		武田豊吉	
群馬県新田郡岩島町大字前小屋		中島知久平	
東京府下岩淵村字神谷		岸工場	
所沢金山町		松定古物商	
々 元幸町		三上綱吉	
405 ページ			
稲毛 布施喜左兵衛門方		布施善吉	
麻布笄町廿八 吉岡方		高林清之	
所沢町		細村屋旅館	
坂神電車会社		山口覚二	
牛込区二十騎町一二		岩橋義隆	
京橋区南小田原町三ノ九		中橋平三郎	
恵美須町三		中谷九一	
東区空堀通り三ノ二二一		斎藤岩三郎	
中越鉄道会社 高岡市新横町		今井八百次郎	
同氷見遊園主任、同駅長		渡辺行吉	

々 運輸主任		上野	
406 ページ			
北区野田玉川町一丁目一五五〇		矢寺應六	
西成郡勝間村玉出駅附近學校東ノ辻北 へ入西側		斎藤研一	
広島市鉄砲町		柴義彦	
広島市大手町花屋事		渡辺	
広島市河原町西新町 吉村ヨネ方		トク(広吉)	
広島市猿楽町 大平楽社		佐伯卓爾	
々 々 々		佐伯庄兵衛	
々 々		二葉舎	
々 々		大場自轉車店	
南区難波蘆原町		西村化學陶業試験 所	ブラック
407 ページ			
神田ろうそく町七番地 富川方		柳原美行	
帝国飛行協會主事		宍戸甲子郎	
京都市通竹屋町下		柿原太郎吉	日ノ出新聞
神戸市七十二番地		沢野忠三	ワイマーク商会
本郷元町 写真化學		長谷川保定	マグナリユーム
芝区三田四国町九		スピード	
堺市東三町東一丁		久保直温	